

# リアホナ

表紙の記事——

新約聖書の  
女性たち, 26ページ

ワールドカップを見られなくても  
37ページ

マカフェケに気をつける  
「フレンド」2ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル、バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリントン、グ・ディーター・F・ウークトドルス、デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:ゲリー・J・コールマン、菊地彦彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・パレット

編集スタッフ:クリスティー・バンス、リンダ・ステール・クーバー、デビッド・A・エドワーズ、ラリーン・ポーター・ガント、キャリー・カステン、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・バラウ、ビビアン・ポールセン、リチャード・M・ロムニー、ジェニファー・ローズ、ドン・L・サール、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワートル、キンバリー・ウェップ

主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ビーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネベカー・オース、ブリタニー・ジョンズ・ヒーム、ハワード・G・ブ라운、ジュリー・パーデッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョンセン、デニス・カービー、ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でご申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み、配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30 電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。 Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA 電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アラビア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、ギリシャ語、キルギス語、クワアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒスラマ語、ヒンディー語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マニャル語、マダガスカル語、モンゴロ語、ラトビア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2007 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用することは複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は「言語名をクリックしてください」。

For Readers in the United States and Canada:

June 2007 no. 6 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

2 大管長会メッセージ——

終わりのなき戦いと確かな勝利

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長

8 不安定な世にある堅固な基

アダム・C・オルソン

13 新約聖書からの教訓—— 贖いに感謝する

ウォルフガング・H・ポール長老

25 家庭訪問メッセージ——

力強く確固として立つことによって、神の御手に使われる者となる

26 「この女は多く愛したから」—— 新約聖書の女性たち

30 ビショップを支持する ジョセフ・ステーブルズ

38 家族を一つにしてくれた ラケル・M・ガルシア・レブタール

41 末日聖徒の声

その本に触れようともしませんでした

ヘルメネギルド・I・クルス

オレンジ色の車

エルウィン・C・ロビンソン

44 日本の8兄弟 喜納 正

世界指導者訓練集会—— 家族を支える

50 教え、学ぶことの原則

ボイド・K・バッカー会長、L・トム・ベリー長老

56 教会で教え、学ぶ

ジェフリー・R・ホランド長老

74 偉大な教師の模範 トーマス・S・モンソン管長



家庭の夕べのためのアイデア

クラスや家庭において、このページに提案されているアイデアを役立てることができ、

「自分の生活に光を注ぐ」

16 ページ—— 家族の一人

に箱かごを頭からか

ぶってもらいます。何

が見えるかその人に

説明するようにお願いします。家族

に、霊的な暗闇とどのように似てい

るか尋ねてください。わたしたちに

霊的な光を与えてくれるものについ

て教えるため、記事から例を選んで

ください。

「ビショップを支持する」30ペー

ジ—— 家族に、今直面している、ま

たはこれから直面するかもしれない

試練を書き出してもらいます。その

試練を乗り越えるため、助け

を得るのに最も適切な人

を決めます。(答えとして、

両親、ホームティー

チャー、訪問教師、ビ

ショップなどが考えら

れます。)

「ビショップ

の重荷が軽くなるようにする」の

項目を読み、ビショップの役割につい

て復習します。家族がもっとビショップ

を支え、支持する方法を話し合い

ます。ビショップや支部会長のため

に何か喜んでもらえることをするよう

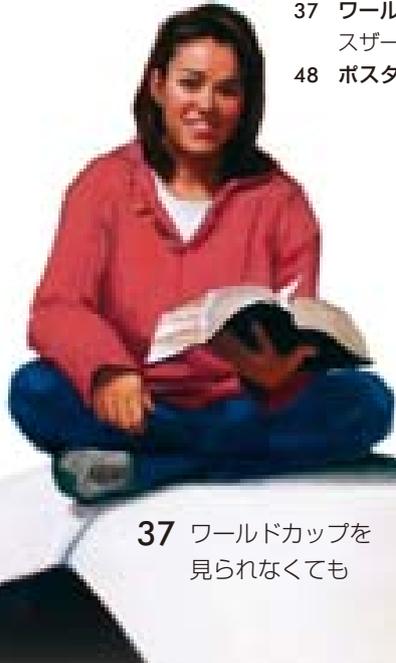
家族の活動を計画してください。



## 青少年

- 16 自分の生活に光を注ぐ ジェームズ・E・ファウスト管長  
22 質疑応答——わたしは教会へ戻って来ました。  
これまでに幾つか過ちを犯しましたが、  
生活をやり直そうとしています。  
でも再び同じ過ちを犯すことを恐れています。  
このような恐れを克服するにはどうしたらよいでしょうか。

- 34 サッカー? それとも伝道?  
アレシャンドリ・マシャド・バスコンセロス  
37 ワールドカップを見られなくても  
スザーナ・アルベス・デ・メロ  
48 ポスター——選びましょう



37 ワールドカップを見られなくても

## F10 親切



## フレンド

- F2 預言者の声——  
おそろしいマカフェケ  
トーマス・S・モンソン管長  
F4 分かち合いの時間——おぼえておく  
エリザベス・リックス  
F6 スペンサー・W・キンボールだいかんちょうの  
しょうがいから——もはんの力  
F8 ちいさなみんなのために——  
せいさんの間イエス・キリストを思い出す  
F10 小さなお友だちへ——親切 高 元龍長老  
F12 危機からのきせき的な脱出 マイラ・ホーク・ディック  
F16 色をぬりましょう

## 表紙

表紙——「この女は多く愛したから」ジェフリー・ハイン画  
裏表紙——「イエスは彼女に『マリヤよ』と言われた」ウィリアム・ホイッタカー画

## 「フレンド」表紙

絵/クリス・ホークス



今月号のどこかに隠れている  
CTRリングを捜しながら、  
どうすればバプテスマの聖約を  
守ることができるかを  
考えてください。

### 「ワールドカップを見られなくても」

37 ページ——ホームティーチャーがこの話を読む間、家族に、ファビアナのどういうところが良い模範だったかを聞き取るように言います。活動では、家族のだれかがボールをほかの人に投げます。ボールを受け取った人は、どうしたらほかの人にとって良い模範になれるか、アイデアを一つ出します。

「家族を一つにしてくれた」38 ページ——これまでにに行った家庭の夕べについて話し合い、評価してみます。家庭の夕べを成功させるために筆者の家族が行った6つの事柄を復習します。家庭の夕べの割り当てをよく把握できるように表を作り、これから

の家庭の夕べのテーマについてアイデアを出し合います。

「おそろしいマカフェケ」F2 ページ——「マカフェケ」の意味を説明し、人々の気を引こうとサタンが行う誘惑を挙げます。家族にこのような現代の「マカフェケ」の例を挙げてもらいます。このような誘惑を避けたり、克服したりする方法が書かれている聖句を探します。良くないことをするよう誘われたとき、断る方法について話し合います。

## 今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

あがな 贖い	13, 16	純潔	16
あかし 証	8, 44	女性	26
イエス・キリスト		初等協会	F4, F10
2, 8, 13, 26, F4, F8, F16		信仰	8, 16
祈り	F12	親切	F10
癒し	13	新約聖書	26
教えること	1	聖餐	F8
恐れ	22	選択の自由	48
家庭の夕べ	1, 38	善と悪	2
家庭訪問	25	伝道活動	
確固たること	25, 44		16, 34, 41, 44
感謝	13	反対の力	2, 25
キンボール,		光	16
スペンサー・W	F6	ビジョブ	30
献身	2	奉仕	30, 44, F10
支持	30	ホームティーチング	7
支部会長	30	模範	37, 44, F6
従順	25	モルモン書	41
自分の	42	誘惑	F2

# 終わりになき戦いと 確かな勝利



ゴードン・B・ヒンクレー大管長

わたしたちは  
神の息子、娘たちの、  
まさに魂にかかわる  
永遠の戦いに  
加わっているのです。

**わ**たしが生まれてからほぼ100年近い年月がたちましたが、その間ほとんど、地上のどこかで人間同士の戦いがありました。世界中で起きてきたこれらの戦争により、どれほどの<sup>さんか</sup>惨禍が生じてきたか、だれも推定することはできません。何百万という人命が失われてきました。無数の人々が戦争によって身にも心にも深い傷を負ってきました。家族は父親や母親を奪われました。戦争に駆り出された若者の多くはそのまま帰らず、たとえ無事生還したとしても、決して消えることのない憎しみに心を染めて戻って来たのです。国々の財産はむなしく費やされ、決して元に戻ることはありません。

戦争による荒廃は不必要に思われるとともに、人命と国家資源の恐るべき浪費のように思われます。神の息子や娘たちの間の不一致に対するこの恐ろしく破壊的な対処方法は、一体いつ終わるのでしょうか。

しかし、創世の前から続いており、これからも長い間続きそうな、もう一つの戦いがあります。領土や国の主権の問題を超えた理由で起きる戦いです。黙示者ヨハネはその争いについて次のように述べています。

「さて、天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、

勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。

この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。」(黙示12：7-9)

「紅海を渡る」(フリン「画」(訳注)——薄厚と不透明な水彩画で描いた絵) © LOOK AND LEARN / フリン「アート・ライブラリー」(絵字は禁じられていません)







### 終わりなき戦い

この熾烈<sup>しれつ</sup>を極める戦いは決して途絶えたことはありません。真理と偽り、選択の自由と強制、キリストに従う者とキリストを否定する者との戦いです。その戦いで、主の敵はあらゆる策略を駆使してきました。うそと欺きを巧みに使い、金銭と富を利用し、人々をだましてきました。人を殺し、物を破壊し、ありとあらゆる悪事を働いて、キリストの業を妨げました。

地上での殺人は、カインがアベルを殺したときから始まりました。旧約聖書にはそれと同じ、終わりなき戦いの話が随所に載っています。

それはガリラヤ人キリストに対する卑劣な非難の中にもうかがえます。主は病人を癒し、人々を励まし、希望を与え、平和の福音をお教えになりました。主の敵は、悪<sup>あく</sup>の力に駆られて主を捕らえ、拷問<sup>くさ</sup>にかけ、十字架に釘ではりつけにし、あざけりました。しかし、主は神として持っておられる力により、敵が負わせた死を克服し、犠牲を通して全人類を死から



救われました。

この永遠の戦いは続き、主の確立された御業<sup>みわざ</sup>はむしばまれ始め、少しずつ腐敗し、ついには教会全体にまで波及していきました。暗黒が地を覆い、闇がもろもろの民を覆っていた時代です(イザヤ60:2参照)。

しかし、神の力が打ち負かされることはありませんでした。キリストの光は至る所で人々の心を動かし、多くの弾圧や苦難があったにもかかわらず、数え切れないほどの良い働きがなされたのです。

次に、多くの血が流れ、犠牲が払われた自由の戦いが起こり、ルネサンスの時代がやって来ました。神の御霊<sup>みたま</sup>に動かされた人々は、礼拝の自由、表現の自由、選択の自由が守られる国を建てました。そして次に、永遠の父なる神とその愛する御子、すなわち復活した主イエス・キリストがこの地上に來られ、

時満ちる神権時代の幕開けを迎えました。この栄えある出来事に続いて、天使たちが古代の鍵<sup>かぎ</sup>と神権を回復するために訪れました。

しかし、戦いは終わりませんでした。姿を変え、方向を変えたにすぎなかったのです。主の民たちはさげすまれ、迫害され、行く先々で強制的に退去させられ、ついに、若き神の預言者とその愛する兄が暗殺されました。それは163年前の今月のことです。

聖徒たちは住み慣れた家や農場、畑、店、莫大な犠牲を払って建てた美しい神殿を後にして逃げました。そしてこのユタの谷間にやって来ましたが、その途中で大勢の聖徒が亡くなりました。しかし、聖徒たちは、ジョセフ・スミス大管長が十二使徒に見つけるように指示した、「悪魔が追い出すことのできない」<sup>1</sup>場所にたどりついたのです。

しかし、敵対する者、すなわち悪魔は決してあきらめてはいません。1896年10月の総大会で、当時かなり高齢のウィルフォード・ウッドラフ大管長(1807-1898年)が、テンプレス

「悪魔が追い出すことのできない」場所(コロラド州)の建設に際しては、ジョセフ・スミス大管長が「悪魔が追い出すことのできない」場所を指定し、そこに教会の建物を建てた。この場所は、1847年に設立された。この場所は、1847年に設立された。この場所は、1847年に設立された。



クウェアのタバナクルの壇上から次のように述べました。

「地上にも、地上に住む民の中にも、二つの力が存在しています。それは神の力と悪魔の力です。人類の歴史には、非常に特異な経験が幾つかありました。いつの時代にも、神が地上に人を送られたときには、暁の子ルシフェルと、天から追い出されたおびただしい数の墮落した霊が、神と、キリストと、神の業と、神の民に対して戦ってきました。この時代、この世代に対して、戦いを手控えるなどということはありません。主が何らかの業に着手されたときにはいつでも、それを挫折させようとして、邪悪な力が働いてきました。」<sup>2</sup>

ウッドラフ大管長は自分が話したことを実際に体験していました。それより少し前、政府が末日聖徒に敵対し教会を組織ごと壊滅しようとした、つらく危険極まりない日々を送ったばかりだったのです。しかし、こうした苦難にもかかわらず、聖徒たちはあきらめず、信仰をもって前進しました。全能の神を信頼したのです。そこで、神は進むべき道を示されました。聖徒たちは信仰をもってその啓示を受け入れ、従順に歩きました。

### 戦いのパターン

しかし、戦いは終わったわけではありません。幾らかは下火になりました。そのことに感謝しています。しかし、真理に敵対する者は相変わらず戦いを続けています。

現在、教会は強くなりましたが、常にどこからか攻撃を受けているように思われます。しかし、わたしたちは進み続けます。進み続けなければならないのです。これまで前進を続けてきました。そしてこれからも前進を続けるのです。時には大きな問題が起きたり、地元で小さな衝突が起きたりし

ますが、それはすべて戦いの一つのパターンなのです。

教会の内外を問わず、多くの人によるやむことのない働きかけの中にも、敵対心は感じられます。彼らは信仰を揺るがし、けなし、おとしめ、偽証します。そして聖徒を誘惑し、そそのかして、この神の業に関する教えや標準に反した行いをさせようとするのです。

戦いは続いています。初めのときと同じように、現在も続いているのです。激しさはそれほどではないかもしれませんが。わたしはそのことに感謝しています。しかし、問題の本質は同じです。道を外れて行く犠牲者たちも、過去に道を外れて行った人々と同様に貴い存在です。戦いは進行しています。神権者は皆、伴侶であり友である神の娘たちとともに、主の軍勢の一員です。わたしたちは一致団結しなければなりません。統一を欠く軍隊に勝利はありません。結束を固め、一丸となって前進することがぜひとも必要です。わたしたちの中に不和があれば、勝利を期待することはできません。また不誠実であれば、一致を望むことはできません。わたしたちが汚れていては、全能者の助けを期待することはできないのです。

若い神権者の皆さん、執事、教師、祭司の皆さんが受けている神権の職には、福音を説き、真理を教え、弱い者を強め、「キリストのもとに来るようにすべての人を招く」義務があります(教義と聖約20:59)。教会の若い女性にも同様に、神の戒めに従い、信仰と美徳の模範を示す責任があります。

天の御父の息子や娘には、精神や肉体、あるいは永遠の霊をむしばむような事柄にかかわっている余裕はありません。麻薬やアルコール、たばこ、ポルノグラフィなどです。不道徳な行いにもかかわってはなりません。このようなこと

この熾烈を  
極める戦いは  
決して  
途絶えたことが  
ありません。  
それは真理と偽り、  
選択の自由と強制、  
キリストに従う者と  
キリストを否定する者  
との戦いです。



を行っていると、天の御父の子供たちの魂をかけて続く永遠の戦いにおいて、主の大義のために雄々しく戦うことはできません。

教会の神権者は、真理と救いのためのこの大なる戦いにおいて、主の業を雄々しく進めようとするのであれば、妻や家族、また神権に関する責任に不忠実または不誠実であることはできません。霊の武器の輝きを保とうと思うのであれば、この世の生活において正直でなければなりません。教会の女性たちは、妻であれ、母親であれ、まだ伴侶を見つけていない姉妹であれ、聖約と祝福に不忠実または不誠実であるなら、王国の強い守り手として使命を果たすことはできないのです。

わたしたちは集会で、時々次のような古くからある賛美歌を歌います。

主かたの方には たれ誰が立つや  
恐れず聞かん 時は至る  
特に強き われらの敵  
目覚めてあり いざ戦え<sup>3</sup>

### 決意を求める呼びかけ

数年前、友人がほかの教会員と交わした会話について話してくれました。友人はその教会員に天の御父を身近に感じるかどうか質問したそうです。すると身近には感じていないという答えが返ってきました。理由を尋ねると、「率直に言って、身近に感じたいとは思わないね。天の御父に近づけば、何らかの決意が求められるだろうし、自分にそのような覚悟はできていないから」という返事でした。

考えてみてください。バプテスマによって主の名を受け、せいさん聖餐会で主との聖約を新たにし、神の神権を授かった人が、

天の御父に近づけば何らかの決意が求められるだろうが、自分にはその用意ができていないと言ったのです。

**わたしたちは  
敗北ではなく、  
勝利を  
手にしています。**  
忠実で  
誠実であるならば、  
今後も勝利を  
取めるでしょう。  
わたしたちには  
それができます。  
そうしなければ  
なりません。  
そうするのは  
わたしたちに  
信仰があれば、  
主が命じられたことで、  
できないことは  
何一つありません。

この業には決意が求められます。自分を無にして一心に尽くす必要があります。わたしたちは神の息子、娘たちの、まさに魂にかかわる永遠の戦いに加わっているのです。わたしたちは敗北ではなく、勝利を手にしています。忠実で誠実であるならば、今後も勝利を取めるでしょう。わたしたちにはそれができます。そうしなければなりません。そうするのは、わたしたちに信仰があれば、主が命じられたことで、できないことは何一つありません。

イスラエルの民がエジプトを逃れたときのことが思い出されます。民は紅海のほとりに宿営しました。振り返ると、パロとその軍勢が彼らを滅ぼそうとやって来るのが見えます。民は恐怖に襲われました。パロの軍勢を後ろに、紅海を前にして、民は恐れおののき叫びました。

「モーセは民に言った、『あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救すくいを見なさい。きょう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう。

主があなたがたのために戦われるから、あなたがたは黙していなさい。』

主はモーセに言われた、『……イスラエルの人々に語って彼らを進み行かせなさい。』(出エジプト14：13-15、強調付加)

海は分かれ、イスラエルの民は救いへの道を進んで行きました。一方、エジプト人たちは滅亡への道をとどって行ったのです。

わたしたちも信仰をもって進み行こうではありませんか。永遠の指導者、主イエス・キリストは啓示の中で、わたしたちに次のように勧められます。



「それゆえ、あなたがたの心を高めて喜び、また腰に帯びを締めなさい。災いの日に耐えられるように、……わたしの武具を身に着けなさい。

それゆえ、立って真理の帯を腰に締め、正義の胸当てを着け、わたしが天使たちを遣わしてあなたがたに託した平和の福音の備えを足に履き、

悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことのできる信仰の盾を取り、

また、救いのかぶとをかぶり、……わたしの御霊の剣を取り、……わたしが来るまで忠実でありなさい。そうすれば、あなたがたは引き上げられて、わたしのいる所にあなたがたもいるようになるであろう。」(教義と聖約27：15-18)

### 明るい未来

戦いは続いています。選択の自由と強制的な戦いが世界中で行われています。宣教師は真理と偽りについての問題と戦っています。日々の生活の中で、家庭や職場、学校で、絶えず戦いがあります。愛と尊敬、誠実と忠誠、従順と高潔の問題についての戦いが行われているのです。大人も子供も、わたしたちは皆この戦いにかかわっています。わたしたちはこの戦いに勝利を収めており、未来はかつてないほどに明るく輝いているのです。

わたしたちの前にきわめて明確にされている業があります。この業にあって、神がわたしたちを祝福してくださいように。わたしたちが忠実で、雄々しくあることができますように。また神がわたしたち一人一人に寄せておられる信頼にこたえる勇氣を持てますように。そして恐れずにいられますように。「というのは、[パウロがテモテにあてた言葉を借りれば]神がわたしたちに下さったのは、臆する<sup>おそ</sup>霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。だから、あなたは、わたしたちの主のあかし<sup>あかし</sup>をすること……を、決して恥ずかしく思っ  
てはならない」からです(2テモテ1：7-8)。■

### 注

1. *History of the Church*, 第6巻, 222
2. 『歴代大管長の教え——ウイルフォード・ウッドラフ』220
3. 「主の方には」『賛美歌』165番

## ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 本文を用いて、創世の前から続いてきた善と悪の戦いの歴史を復習する。キリストの光は暗い世界を照らす希望を表すことを説明する。「明るい未来」の項を読む。善と悪の戦いに勝つためにすべき行動を提案する。

2. 2テモテ1：7-8の聖句を、家族の人数分、カードに書く。カードの裏に、イエス・キリストのもっと献身的な弟子となるために目指す個人的な目標を書いてもらう。そのカードを日々、目につく所にはっておくよう家族に勧める。

3. 家族を訪問するときに賛美歌集を持って行く。家族にキリストの弟子となる決意を強めてくれる賛美歌を索引を使って見つけてもらう。賛美歌を1曲選び、歌うか、声に出して読む。歌詞をヒンクレー大管長の言葉と比べる。最後に、決意を深めるようにというヒンクレー大管長の呼びかけと、主の側<sup>あかし</sup>に立って忠実に奉仕する人々に訪れる明るい未来について証を述べる。

# 不安定な世にある 堅固な基



何か知らないことがあるからといって、そのために、  
確かに知っていることへの信仰をぐらつかせてはいけません。

アダム・C・オルソン

教会機関誌

**17** 55年11月1日の朝、ポルトガルの港町リスボンは巨大な地震に見舞われ、多くの建物が崩壊しました。さらに、5メートルから10メートルもある津波が押し寄せて壊滅的な被害をもたらし、猛火が3日間も続きました。この災害による死者は数千人と言われていています。

しかし、この大震災に揺さぶられたのは建物だけではありませんでした。この大惨事が起きた日が、万聖節というキリスト教の主要な祝日であったために、大陸中の信者の信仰をも揺るがしてしまったのです。

このような霊的な動揺は、地震のように何の前触れもなく生活の中にやって来て、大きな被害を及ぼすことがあります。

「信仰が揺さぶられるような経験はよくあります。」ポルトガル・リスボンステークのパトリシア・モレイラ姉妹は、一人で教会に改宗してから20年間、

そういう経験をたくさんしてきたと言います。「教会員でない人から質問されて信仰が揺れる場合もありますし、教会に反対する人たちから攻撃されたり、単に自分たちの理解が足りなかったりして、信仰が揺れることもあります。」

答えのなさそうな疑問が、世の中と福音の間にある断層に圧力をかけ、結果として揺れが起こります。その揺れのために、土台の弱い人たちの中には、信仰上の負傷者となってしまう人がいます。

## 堅固な基

霊的な地殻変動では、わたしたちの証に及ぼす影響の大きさを決めるのは震源地までの距離ではなく、わたしたちと神との距離です。

ステーキの独身成人の友人数人とこのことに



「信仰が揺さぶられる  
ような経験は  
よくあります。  
〔そんなとき〕  
わたしたちの基が  
真価を発揮するのです。」  
—パトリア・  
モレイラ姉妹、  
1755年の  
リスボン大震災後に  
元の土台の上に  
復元された  
サン・ジョルジェ城にて。

ついて話し合っていたときに、モレイラ姉妹が言いました。「わたしたちの土台はイエス・キリストとその福音です。」(ルカ6：47-48参照)

改宗して1年少したったダリル・ネケテラ兄弟は「主以外に土台はありません」と付け加えました。「土台の中には弱いものもあるけれど、主は堅固で頼れる土台です。」(ヒラマン5：12参照)

どんな疑いの洪水も、哲学の炎も、懐疑論の地震も、わたしたちの土台の岩を崩すことはできません。なぜならその岩とは、わたしたちの贖い主、隅のかしら石、真の基であるイエス・キリストだからです。

ネケテラ兄弟は言います。「主の基の上に自分を築いていれば安全だと実感しています。」

### 試しが始まるとき

この末日聖徒の若者たちは地を震わせるサタンの策略をよく知っています。

フランシスコ・ロペス兄弟(現在は既婚者)は職場でしばしば霊的な危機にさらされてきました。「同僚の中にわたしの信条を不審に思う人たちがいて、よく批判されました。わたしたちの信仰と相いれないような科学理論を使って質問を浴びせられたことが何度もあります。」

ロペス兄弟は進化論やDNAなどが話題に上ったときのことを覚えています。「同僚たちは教会が間違っていると何とか説得しようとしていました。」そのような質問のほとんどにロペス兄弟は答えることができませんでした。「わたしは、神と福音を信じる証に頼らなければなりませんでした。そのような基が与えられていることに感謝しています。」

けれども、ロペス兄弟も実感しているように、地面が揺れ始めてから地震に備えても遅すぎるのです。

十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老は「イエス・キリストを信じる信仰は、サタンの攻撃を受けるはるか以前にはぐくみ、養っておかなければなりません」と言っています。<sup>1</sup>



### 試しのとき

「試しのときに必要になるのは霊的な備えです。人生での試しを乗り越えられるよう、イエス・キリストを信じる信仰をしっかりとはぐくんでおくということです。……イエス・キリストを信じる信仰は、サタンの攻撃を受けるはるか以前にはぐくみ、養っておかなければなりません。霊に対する嵐はすでに荒れ狂っています。この嵐は、救い主が再び来られるまでさらに激しく吹き荒れることでしょう。」

#### 十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング長老

「霊的な備え——早くから始め、絶えず積み重ねる」

「リアホナ」2005年11月号, 37, 38

### 岩の上に建てる

キリストを基とするにはどうしたらよいでしょうか。

アイリング長老は次のように教えてください。「主への信仰を持ち、聖なる御霊の導きに従い、贖罪の力によって心を変えられるほど長く忠実に戒めを守るとき、わたしたちは、岩の上であって、すなわち救い主であって、安全です。心を変えられる経験により、愛と従順において幼子のおきなごのようにになると、わたしたちは堅固な基の上に立っていることになるのです。」<sup>2</sup>

信仰が必要です。従順と悔い改めが必要です。そのためには時間をかける必要もあります。

「毎日祈り、日々聖文を学び、召しを果たして、戒めを守り、もっと善い人間になろうと努力すること

によって、信仰を養わなければなりません」とモレイラ姉妹は言います。モレイラ姉妹が岩の上に信仰を築き始めてから、母親と妹が教会に入りました。「思いを真理で満たし、心を愛で満たし、生涯を奉仕で満たしなさいというモンソン管長の助言に従う必要があると思います。」<sup>3</sup>

「主をよりよく知り、神が御自身の子供たちをどのように助けてくださるかが分かれば、試練に備えることができます

[1ニーファイ2：12参照]。その点で、聖文が助けになります。」ネケテラ兄弟はそう言います。

「わたしたちの信仰は、義の道を歩むことではぐくまれるのです。」



## 難しい質問の答えを見つける

ロペス兄弟のように、会員たちは自分には答えられない質問をされることがあります。しかしロペス兄弟は、何か知らないことがあるからといって、そのために、確かに知っていることへの信仰がぐらつくようなことはありませんでした。

「知らないことがまだいろいろあります。だからといって、疑うことはありません。いつか時が来れば、主はわたしが知るべきことを知らせてくださいますから」とロペス兄弟は言います。「その時とは、わたしにとって都合のよい時ではなく、わたしの望む時でもなく、神がわたしに明らかにするのがよいと判断なさる時です。」

答えが見つからないような難問に遭遇したら、どうしたらよいのでしょうか。

「答えはほとんど聖文の中に見つかります」とロペス兄弟は言います。彼は友人や同僚からだけでなく、両親からも質

問されたことがあります。両親には、14歳で教会に入る決断をした息子が理解できなかったのです。「そのようなとき、答えを見出し、理解するのに欠かせないのが個人の啓示です。教会の指導者に助けを求めることもできます。または神に直接伺うこともできます。聖霊と優しい天の御父に感謝しています。」

## 忍耐強く啓示を待つ

祈ったり、聖文を読んだり、指導者の言葉を学んだりしても答えが見つからないときは待つことです（教義と聖約 101：16参照）。

「忍耐強くなろうと努力しています」と、2000年にアンゴラからポルトガルに来た留学生のネケテラ兄弟は語ります。「答えが与えられないときでも、聖霊は忍耐強く待てるように慰めを与えてくださいます。聖霊はまた、神が教えに教え、



「わたしたちが  
この世に来たのは  
信仰によって  
歩むためですが……  
信仰とは  
すべてのことを  
完全に知ることでは  
ありません。  
それに、信仰は  
試されなければ  
ならないのです。」  
——ダリル・  
ナケテラ兄弟、  
震災の後、  
再建したリスボンの  
町を背景に。



訓戒に訓戒を加えてくださること、公正な神の固い定めを受け入れるべきであることを思い出させてくださいます。神は、わたしたちにとって何がいちばん良いのか御存じで、御自身の御心みこころにかなうときに、すべてを明らかにしてくださるのです。」

福音の回復には、忍耐強く啓示を待つことが求められました。教会はイエス・キリストの福音という本来の基の上に回復されましたが、すべてが一度に起こったわけではありませんでした。預言者ジョセフ・スミスによると、福音の質問への答えは「ここにも少し、そこにも少し……、教えに教え、訓戒に訓戒」という形で与えられ、「また来るべき事柄を宣言することによってわたしたちに慰めを与え、わたしたちの希望を確かなものと」します(教義と聖約128:21)。そしてそれは、これからも変わることはありません。

「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。」(信仰簡条1:9)

### 末日の回復

ネケテラ兄弟は高台にあるサン・ジョルジェ城から近代的なリスボンの町を見下ろし、1755年の大惨事以来続いている復旧と回復について考えます。

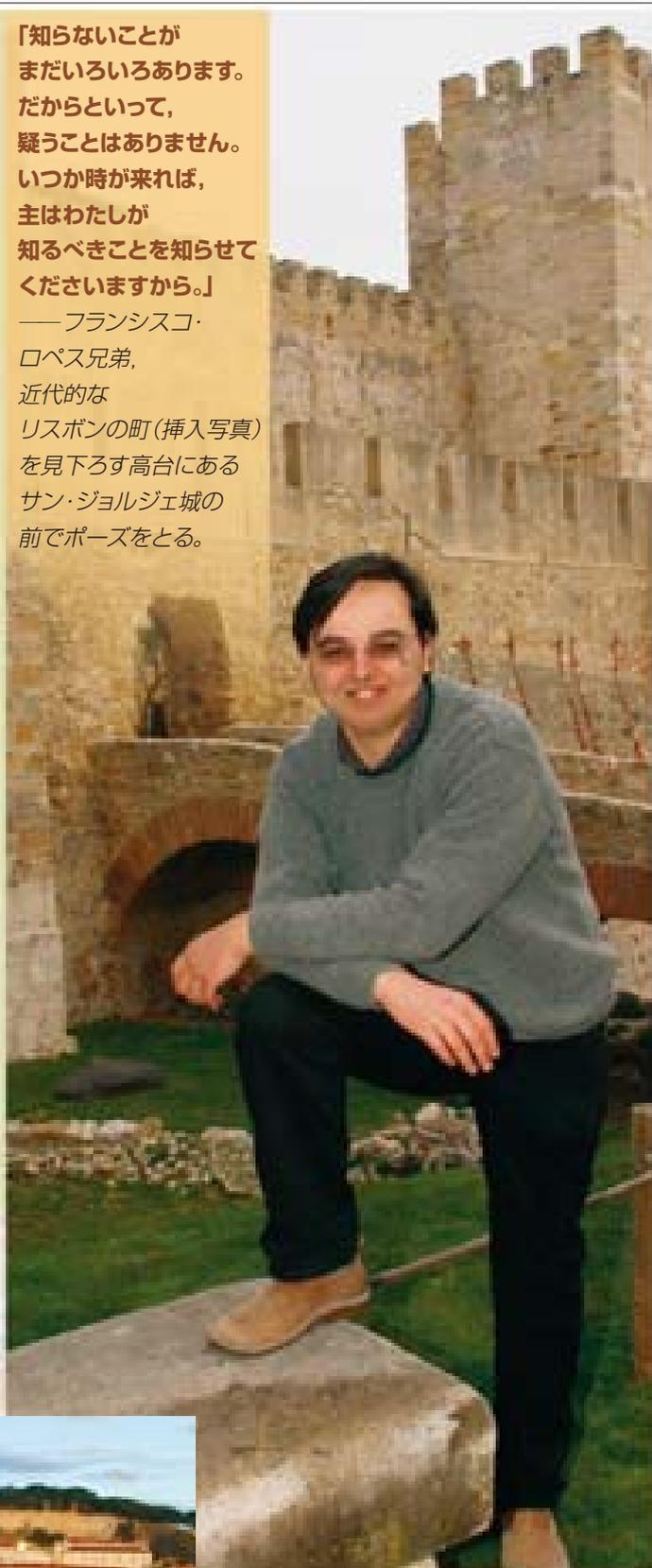
再建した町は再びにぎわいを取り戻し、地震で大きな被害を受けた城も、かろうじて残った土台の上に復元されました。そして人々は今、何があっても揺るがない堅固な信仰をどこにどうして築くべきか、回復された福音から学んでいるのです。■

### 注

1. 「霊的な備え——早くから始め、絶えず積み重ねる」  
『リアホナ』2005年11月号, 38
2. 「幼子のように」『リアホナ』2006年5月号, 15
3. トーマス・S・モンソン「成功の秘訣」  
『リアホナ』1995年8月号, 7参照

「知らないことが  
まだいろいろあります。  
だからといって、  
疑うことはありません。  
いつか時が来れば、  
主はわたしが  
知るべきことを知らせて  
くださいますから。」

——フランシスコ・  
ロペス兄弟、  
近代的な  
リスボンの町(挿入写真)  
を見下ろす高台にある  
サン・ジョルジェ城の  
前でポーズをとる。





# あがな 贖いに感謝する

七十人

ウォルフガング・H・ボール長老

**地** 上での務めが終わりに近づいていたとき、救い主は弟子たちとともにオリブ山へ、そしてゲツセマネの園へ行かれました。

新約聖書のルカによる福音書には次のように書かれています。

「イエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれると、弟子たちも従って行った。

いつもの場所に着いてから、彼らに言われた、『誘惑に陥らないように祈りなさい。』

そしてご自分は、石を投げてとどほど離れたところへ退き、ひざまずいて、祈って言われた、

『父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。』

そのとき、御使が天からあらわれてイエスをかづけた。

イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。」(ルカ22：39-44)

救い主は、まさにこの園で、これまでで生き、これから生まれるあらゆる人のすべての悲しみ、罪、そして背きの代価を支払ってくださったのです。救い主はこの園で苦い杯を飲み、苦しまれたのです。

それは、悔い改めるすべての人が苦しみを受けることのないようにするためでした。この恐ろしい経験の後、救い主はゴルゴタへ連れて行かれ、十字架で打たれました。これも全人類に贖いをもたらすために経験なさらなければならなかった残忍でつらい苦痛でした。

いかなる人も、この重荷を背負われたときの救い主の苦しみが実際にどれほどのものだったのかを想像することはできません。しかし、1830年3月に預言者ジョセフ・スミスが受けた啓示を読むと、わたしたちはその苦しみについてわずかながら理解することができます。救い主はこのように言われました。

「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯を飲まず



救い主が  
罪を贖われたときに  
抱いておられた  
わたしたちへの  
深い愛を理解するなら、  
わたしたちは常に  
救い主を愛し、  
感謝し、その戒めを  
守ることでしょう。



左―「わたしの願いではなく、みこころが成るようになさるべし」ハリー・アンダーソン画、セントスティー・アドベンチスト教会の厚意により掲載、複写は禁じられています。右―絵／ロバート・オースケン、教会歴史美術博物館の厚意により掲載、「マツメ」の図／ロバート・T・バレット画

に身を引くことができればそうしたいと思った。

しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。」(教義と聖約19：16－19)

究極的には、主の贖い以外にわたしたちの生涯で癒しを得る方法はありません。悔い改めの過程を終え、贖いによる癒しの力を体験した一人の会員は、そのとき感じたことをこう述べています。「罪を犯したときから告白するまでの時間はつらいものでした。恐ろしいことをしてしまったという意識

が絶えず頭の中にもありました。真っ暗闇の中でひどく意気消沈し、無気力になっていたわたしは、最初、絶望と恐れにさいなまれていました。しかし、福音が真実であることと、贖いによる救いの力を疑うことは決してありませんでした。癒しに至る道は一つしかないことが分かっていたのです。

自分がしたことを妻と子供たちに告白しましたが、それはこれまでの人生でいちばんつらいことでした。その後のビショップとステーキ会長への告白はそれほど困難ではありませんでした。そしてついに、わたしは自ら招いた重荷から解

放されたのです。破門されましたが、その結果すべきことも分かり、気持ちが楽になりました。

バプテスマを受ける許可が下り、再び聖霊を伴侶とすることができるようになったときの喜びはたとえようがありません。わたしに与えられた祝福が回復され、ついに贖いの約束が最も美しく、明確な形で現実のものとなったのです。

長年にわたり、妻とわたしは、贖いが罪を犯した者に安らぎと癒しをもたらすばかりか、さらには被害者をも癒し回復させる力を持つことを経験してきました。このことを深い感謝をもって証します。」

救い主が罪を贖われたときに抱いておられたわたしたちへの深い愛を理解するなら、わたしたちは常に救い主を愛し、感謝し、その戒めを守ることでしょう。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長(1876 - 1972年)は次のように述べています。「重大さにおいても程度においても、最も大きな罪の一つは……感謝しないという罪です。戒めを破るとき、それがどんなに小さく取るに足りないことだと思っても、わたしたちは贖い主に対して感謝の欠如を示しているのです。全世界の罪の重荷を負われた主の苦しみがどれほどのもだったかを理解することは不可能です。その苦悩の激しさは、あらゆる毛穴から血を流されたという言葉でわたしたちに知らされています。それは十字架におかかりになる前に起こりました。手足に打ち込まれた釘による肉体的苦痛は確かに耐え難いものでしたが、それは主の負われた苦痛のうち、最大のものではありませんでした。それよりも激しい苦痛は、わたしたちの背罪という重荷を負うことか



ら生じる霊的、精神的な苦しみだったので。その苦悩や、十字架での苦しみがどれほどのものであったかを理解するならば、故意に罪を犯す人は間違いなく一人もいなくなります。誘惑に負けたり、不浄な肉欲や欲望を満足させたりすることもなく、サタンが心に入り込む隙はなくなるでしょう。しかし実際のところわたしたちは、罪を犯す度に神の御子が耐えられた苦しみへの感謝を忘れ、無視しているのです。わたしたちが死からよみがえり永遠に生きるために必要な主の苦しみを何とも思わず、軽視しているのです。わたしたちの罪のために進んで苦しまれたイエス・キリストの愛と恵み深さを、たとえわずかでも真の意味で理解し感じることができるならば、わたしたちは喜んですべての罪を悔い改めて主に仕えたいと思うようになるでしょう。」<sup>1</sup>

救い主の贖いは歴史上最も偉大な出来事です。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう述べています。「人類史上これに比肩し得る出来事はありません。比べられるものはないのです。全人類のための自己を顧みない無条件の愛、それはすべての人類種族への比類なき隣れみの業となったのでした。」<sup>2</sup>

わたしたちの救い主、贖い主である神の御子が下さった贖いという素晴らしい贈り物に対して、感謝の念を常に持ち続けることができますように。

#### 注

1. The Restoration of All Things (1945年), 199
2. 「時の流れの頂で」『リアホナ』2000年1月号, 87参照



## 救い主の贖いは 歴史上最も偉大な

出来事です。

究極的には、

主の贖い以外に

わたしたちの生涯で

癒しを得る方法は

ありません。



# 自分の生活に 光を注ぐ

大管長会第二顧問

ジェームズ・E・ファウスト管長

**自**分の存在意義について悩んでいる人は多いでしょう。また、自分の将来はどうなるのかと考えている人もいるかもしれません。世の中は甘い誘惑に満ちています。実に魅力的です。自分の進むべき方向について、確信が持てないという人もいるかもしれません。また、自分のほんとうの価値について疑問を持つこともあるかもしれません。わたしの確信を皆さんにお伝えします。皆さんは、間違いなく、選ばれた世代なのです。

わたしは今日、暗闇から出て光に至るということについてお話します。ミカはこう言っています。「たといわたしが暗やみの中にすわるとも、主はわが光となられる。」(ミカ7：8)

## 光を受けるには

わたしたちは主から光を受けます。これはわたしたちが聖文を研究するときに起こります。すると「わたしたちの目は開かれ、わたしたちの理解に光が注がれる」のです(教義と聖約76：12)。毎日聖文を研究することで、わたしたちの霊的な感受性も磨かれ、理解力も開けて、知識も深まります。わたしは1日の締めくくりに聖文を読むことにしています。そうすることで驚くほどの平安もたらされ、ぐっすり<sup>せいさん</sup>と眠れます。

霊的な光を受けるのは、聖餐会に出席しているときです。毎週聖餐を頂き、礼拝行事に参加して靈感を受けることで、わたしたちの霊の電池も充電されます。

霊的な光を受けるのは、召しにこたえるときです。教会で召しを受けて奉仕することで自分が受ける祝福は、その奉仕からほかの人が受ける祝福よりもはるかに大きなものです。

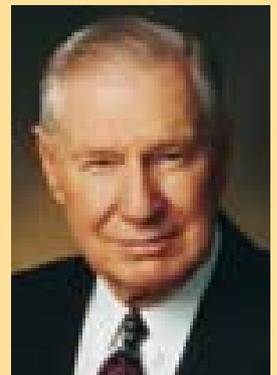
霊的な光を受けるのは、什分の一<sup>じゅうぶん</sup>を納めるときです。それによって、天の窓が開かれます。(マラキ3：10参照)

霊的な光を受けるのは、賛美歌を歌うときです。賛美歌を歌うことで、わたしたちは強められ、霊的な一体感を味わうことができます。

霊的な光を受けるのは、祈るときです。まだ若い10代のとき、預言者ジョセフ・スミスは次の聖句を読みました。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、……惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。」(ヤコブ1：5)

皆さんにお勧めします。ぜひ、ジョセフの「最初の示現」の記録を読んでください。ジョセフは、この聖句を読んで、神に知恵を求めてみる決意をします。ジョセフはこう書きました。「その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは……を見た。」ジョセフが見たのはどなただったのでしょうか。御父と御子でした。そして、その示現が終わったときのことを、ジョセフは、「光が去った後、わたしには力がなかった」と書いています。(ジョセフ・スミス—歴史1：17、20)

もちろん、天の訪れは求めれば得られるというものではありません。しかし、まず第一に「神の国と神の義」(マタイ6：33)を求めるなら



もちろん、天の訪れは求めれば得られるというものではありません。しかし、まず第1に「神の王国と神の義」を求めるならば、わたしたちには、霊性を高め、知的な光を授かる資格が与えられているのです。



## の教会で 宣教師として 奉仕するよう

召されるということは、決して権利ではありません。むしろ特権です。伝道活動は喜びに満ちています。しかし、楽しくおもしろい仕事というよりは、むしろ過酷な仕事です。

ば、わたしたちには、靈性を高め、知的な光を授かる資格が与えられているのです。

### わたしたちの信仰の焦点とは

光に至るということは、ある意味では、わたしたちの信仰の焦点をどこに定めるかにかかっています。その光は抑圧と見えるでしょうか。それとも自由と見えるでしょうか。人は大人へと成長する段階で、新しい力、新しい激情、新しい野心がわいてくるのを感じるようになります。しかし、そうした思いの中には、抑制しなければならぬものがあることも、教えられています。激情を制すること、つまり、適切なブレーキをかけることは、わたしたちの成長と進歩にとっては不可欠なことです。アルマはこう言っています。「激情をすべて制し、愛で満たされるようにしなさい。」(アルマ38：12)

数年前のことですが、ある全国放送で、犯罪を犯した受刑者たちが、野生の馬を調教するという番組が放映されたことがあります。受刑者たちは、馬と心が通じ合うようになると、その度合いに応じて、忍耐できるようになり、激情を抑え、他人を尊敬し、組織の中で働くことに価値を見いだせるようになっていきました。そして、馬が自分たちの命令に従うようになっていく過程を見ながら、自分を刑務所に送り込むきっかけになった恐ろしい犯罪をどうしたら防ぐことができたのか、気づくようになりました。

現代社会では、本や雑誌、テレビや映画の中で、結婚外での性的な関係について喧伝する声が大きくなっています。社会的に認められていることだとか、ときには、望ましいことだなどという声もあります。そのため、若い人々の中には、こうした理屈にだまされて、「どこが悪いんですか。わたしたちは愛し合っているんです」と言う人もいます。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、そうした疑問に対して、次のように答えています。

「肉体的な交わりに関しては、絶対に待たなければなりません。すべてを与えることができるようになるまで待たなければならず、法律と律法に基づいて結婚するまではすべてを与え

ることができないのです。自分の所有物ではないもの(「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである」という聖句を思い出してください[1コリント6：19])を不法に与えるということは、また、後で自分自身のすべてを差し出すことができないのに一部だけを与えるということは、情緒的な破壊の危険を冒していることとなります。もし天の承認を受けないままに肉体的な満足を追い求め続けていると、後になって、真実の愛を知ったときに、肉体的な交わりを求める気持ちも、心から献身する気持ちもともに失ってしまうという、靈的にまた精神的に大きな苦痛を味わうことになりかねません。……結婚式の日に永遠の伴侶にささげることのできる最良の贈り物、それは最良の自分自身、つまり清らかで、純粋な自分、そのような清さを伴侶から受けることのできるふさわしさです。」<sup>1</sup>

### 暗闇から連れ出してくれる信仰

わたしたちの信仰とは、従うことが困難だと考えられるような確信や実行目標を寄せ集めたものではありません。暗闇から出て来た人たちは、信仰が導いてくれたと言います。信仰は重いものではありません。むしろ、わたしたちを高め、困難を乗り越えるための翼を与えてくれるものです。イザヤはこう約束してい

ます。「しかし主を待ち望む者は新たな力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」(イザヤ40：31)

暗闇から出て光に至るということは、人の暗闇の部分から自由になるということです。そういう暗闇は、恐れ、失意、罪といったものからもたらされます。光に至った人は、その表情や態度からすぐに分かります。救い主はそれを次のように見事に表現しています。「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させ





るためである。』(ヨハネ10：10)

2001年9月11日以来、わたしたちは新たな形の暗闇に心を痛めています。それは、テロやハイジャックの影響です。皆さんが成長している今の時代は、わたしたちのころとは随分違っていています。わたしたちは何年も飛行機で旅をしてきましたが、かつてはスーツケースの検査を受けることも、金属探知機をくぐることもありませんでした。

わたしが心から愛する若い友人の皆さん、皆さんの敵は、テロやハイジャックだけではなくありません。皆さんと同年齢の仲間の中にもいる場合もあります。皆さんが友達だと考えている人たちの中にもいる場合があるのです。そういう人たちは、皆さんに向かって、「抑圧から抜け出ればいいのさ。麻薬だってアルコールだって、異性との性関係だって、場合によっては同性との性関係だって、試してみればいいのさ」などと盛んに言い立てるかもしれません。彼らは、批判し、反対の意見を押し付ける懐疑論者でしかありません。わたしたちを暗闇の中にとどめ、永遠の旅路の中で光を見つけようとするのを妨害しているだけなのです。また、霊的な意味でのテロリストたちは、ボルノグラフィーを押し付けようとする人々であり、正しい価値観を持たない人々です。そのような人々は、暗闇の中にとどまり、信仰心も持たず、問題や疑問の解決に自分の能力以上のものを求める気持ちがありませ

ん。そのため、独善に陥り、自分をおとしめ、信仰も弱いため、ほかの手段によって光や知識を得るということに思いが及ばないのです。

### 信仰を守る者となる

わたしたちは皆、信仰を守る者となる必要があります。わたしたちが信仰を守るようになると、暗闇から出て、光に向かって進むようになります。若い皆さんには、回復された福音の真理を宣べ伝えるという責任も与えられています。その責任を効果的に果たすためには、まず個人の生活で正しい行いをするよう努めなければなりません。そのためには、皆さんは教会の基本的な教義について理解し、証を持つ必要があります。わたしたちの信仰の最も基礎となる教義とは、第1に、イエスがキリストであり、神の御子であり、全世界の贖い主であるということです。第2に、父なる神とその御子イエス・キリストが実際に預言者ジョセフ・スミスに現れ、完全な福音と真の教会を回復したということです。

ここから教会の目的が生まれます。第1は、教会員を完全な生活へと備えさせることです。「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。』(マタイ5：48) 第2は、教会員たちが信仰においても行いにおいても心一つにして、聖徒の群れとなれるよう、



養い、励ますことです。第3は、回復された真理のメッセージを全世界に宣べ伝えることです。第4は、死者を救うことです。

皆さんは今、専任宣教師として奉仕をする備えをしているところかもしれません。この教会で宣教師として奉仕するよう召されるといことは、決して権利ではありません。むしろ特権です。伝道活動は喜びに満ちています。しかし、楽しくおもしろい仕事というよりは、むしろ過酷な仕事です。主が宣教師たちに与えた勧告が、教義と聖約第4章に書かれています。「それゆえ、おお、神の務めにいで立とうとする人々よ、終わりの日に神の前に罪のない状態で立てるように、あなたがたの心と、勢力と、思いと、力を尽くして神に仕えなさい。」(2節)

伝道活動に携わる者には皆、個人的なふさわしさが求められます。主はこう言われました。「主の器を担う者たちよ、清くありなさい。」(教義と聖約38:42) 皆さんの中にはふさわしさを保っているにもかかわらず、健康上の問題で、伝道地での伝道活動の厳しさに耐えられないという人がいるかもしれません。そのような人々は、大いなる祝福となるような別の奉仕の機会を見いだせるでしょう。

### 贖いを受け入れる

何年も前になりますが、七十人会長会のメルル・J・ベイトマン長老が日本にいたときのことで、宣教師たちが、教会

に加わったばかりのまだ若い日本人の兄弟をベイトマン長老に紹介しました。キリスト教とは無縁の環境に育った彼は、宣教師に出会ったとき、そのメッセージに興味を抱いたものの、救い主の必要性を理解したり、感じたりすることもできず、また、福音についての証もありませんでした。ある日、宣教師たちは彼に贖いに関するビデオを見せることにしました。青年はそのビデオを見ましたが、それでも証を得られませんでした。

「次の日の朝、彼は出勤しました。眼鏡店で眼鏡を作る仕事をしていました。……おばあさんが店にやって来ました。何週間か前に1度来た人で、眼鏡を壊したために、新しいものを必要としていました。前に来たときはお金が足りなかったもので、もう少し貯金をしてから買いに来るということで帰ったのでした。おばあさんは壊れた眼鏡をまた見せ、持っているお金を出しました。でもまだ足りませんでした。そのとき、彼はこう思いました。『ぼくには幾らか持ち合わせがある。お金が足りないことは、言わなくていい。足りない分は出してあげよう。』彼は、お金が十分であることを伝えて、眼鏡を預かりました。そして、新しい眼鏡が出来上がる日に取りに来るように言って、彼女を見送りました。……

何日かたっておばあさんがやって来ました。眼鏡は出来上がっていました。彼女は受け取った眼鏡をかけると、『見えます。見えます』と〔声を上げて〕、涙を流し始めました。そ

のとき、彼の胸に熱い思いがわいてきて、満ちあふれました。『分かった。分かった。』彼も涙を流し始めました。そして、宣教師を捜しに、外に駆け出しました。宣教師を見つげると、こう言いました。『分かりました。理解の目が開けました。イエスは神の御子です。墓の石が転がされ、そのすばらしいイースターの日の朝に、主は死からよみがえられたのです。主はわたしの人生の中に足りないものがあるとき、その足りない分を埋めてくださるのです。』<sup>2</sup>



わたしたちも皆、靈感の光でそれが分かります。この靈感の光こそ、聖霊の御霊です。それは、暗闇や困難からわたしたちの道を照らし出してくれます。暗闇から出て光に至る最も確実な方法は、天からの啓示と呼ばれる手段によって天の御父との交わりを持つことです。ウィルフォード・ウッドラフ大管長(1807-1898年)は、次のように宣言しました。「この地上に主がお認めになる民が存在するかぎり、その民は啓示によって導かれてきました。」<sup>3</sup> 神の靈感は、聖霊による神聖な導きを求める者には、ふさわしくあるかぎり、だれにでも与えられます。これはとりわけ、聖霊の賜物を受けている人にとっては、自明のことです。

### 絶えることのない啓示

暗闇から出て光に至ることを望む者は、わたしたちの預言者、聖見者、啓示者から伝えられる靈感や啓示と調和した生活を送る必要があります。アモスはこう言っています。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」(アモス3:7) 何世紀にもわたって、預言者たちは日の栄えの送信所からの教えに耳を傾けてきました。それは主の言葉をほかの人々に伝えるという責任を担ってきたからです。

若い皆さんにとって、救い主をさらに身近に

感じるための最善の方法は、地上における生ける預言者、つまり、教会の大管長を支持することです。もし生ける預言者に従っていないとしたら、それがだれであれ、その人は霊的な死と隣り合わせだということになるのです。

わたしは、この教会には絶えることのない啓示が今なお度々与えられていると証できます。それは毎日与えられています。教会の使命を達成するために、啓示はなくてはならないものです。啓示がなければ、教会の業は頓挫してしまいます。教会は、絶えず、その頭である主、すなわち救い主イエス・キリストの導きを必要としているのです。

絶えることのない啓示は、人々や事件といった外部からの圧力があってやむなく与えられるようなものではありません。いわゆる「社会の要請に基づく啓示」とは異なります。啓示は預言者たち自らが出すものでもありません。神からもたらされるものです。教会は、主の靈感と導きと指示の下に、預言者によって治められているのです。

この教会が神からもたらされた真実のものであるとの信仰と確信は、わたしが思い出せるかぎり、随分長い間わたしを支えてきました。その証は、年齢を重ねるごとに、強まっています。この福音が真実であるとの確固たる知識は、わたしが聖なる使徒職に召される前から与えられていたものですが、以来、幾度にもわたって、確認を繰り返しています。若い皆さんに証します。福音には人生の様々なチャレンジや問題に関する答えが含まれています。それは幸福に至る確かな道であり、また、「この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を」(教義と聖約59:23) 得させるといふ救い主の約束を成就させてくれるのです。■

2002年9月8日に行われた教会教育システムファイヤサイドでの説教を基に編集。

### 注

1. 『個人の清さ』「リアホナ」2000年10月号, 42
2. 『天幕の綱を長くする』「聖徒の道」1994年7月号, 68
3. The Discourses of Wilford Woodruff, G・ホームー・タラム選(1946年), 138

そのおばあさんは  
出来上がった  
眼鏡を

受け取ると、  
「見えます。見えます」と  
声を上げました。  
そのとき、彼の胸に  
熱い思いがわいてきて、  
こう叫んだのです。  
「分かった。分かった。  
……目が開けました。  
イエスは  
神の御子です。……  
主はわたしの人生の中に  
足りないものがあるとき、  
その足りない分を  
埋めてくださるのです。」



# 質疑応答

「わたしは教会へ戻って来ました。  
これまでに幾つか過ちを犯しましたが、生活をやり直そうとしています。  
でも再び同じ過ちを犯すことを恐れています。  
このような恐れを克服するにはどうしたらよいでしょうか。」

## 『リアホナ』からの提案

このような試練に遭うのはあなただけではありません。わたしたちは皆間違いを犯します。気をつけていなければすぐ罪を犯してしまいます。ニーファイ第一書第8章に記されたリーハイの示現の中に、あなたの質問の答えを見いだすことができます。リーハイの見たことで助けとなることを幾つか挙げてみましょう。

リーハイは、細くて狭い道を「押し進んで」行く、つまり忠実であろうとしている人々を見ました。しかしそのうちのある人々は「道を見失い、迷って姿が見えなくなってしまう」(23節)。何人かは命の木までたどり着いたのですが、その後、「[あの]人々にあざけり笑われたので恥ずかしく思い、禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしまう」(28節)。ほかの人は「しっかり鉄の棒につかまりながら道を押し進み、ついにやって来ると、ひれ伏して木の実を食べ」ることができました(30節)。木の実は神の愛、イエス・キリストの贖罪しよくざいによる祝福を象徴しています。

最後までたどり着き、実を食べるまでに彼らが何をしたかに注目してください。もし同じようにするなら、罪を犯してしまうという恐れを克服できるでしょう。

道を外れてしまう  
かもしれない  
という恐れを  
克服するために、  
細くて狭い道を  
「押し進んで」ください。

聖文や末日の預言者の  
教えの中に見つけられる  
神の言葉に従ってください。

神を礼拝し、  
神の愛を感じようと努め、  
救い主があなたを  
強められるように  
悔い改めてください。

正しいことを  
しようとするあなたを  
笑う人々を  
気に留めないでください。

**1. 押し進む。**ニーファイはこう説明しています。「あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2ニーファイ 31：20)

**2. 鉄の棒にしっかりつかまる。**ニーファイは、鉄の棒についてこう言っています。「神の言葉であって、だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはない[。]」(1ニーファイ 15：24)

**3. 木の実を食べる。**木の実を食べるとは生活の中で神の愛を感じるということです。神の愛を感じられるよう祈ることができます。また、悔い改めて、あがな贖いの祝福を生活に取り入れることができます。

**4. 正しいことをしているあなたを笑う人を気に留めない。**リーハイの示現の中で、大きな広々とした建物の中にいてあざけり笑う人々を気に留めた者は道を外れてしまいました。その建物はこの世の空想や高慢です。その建物に



## 読者からの提案

は土台がないため、「その建物は崩れて、その崩れ方は非常に甚だしかった」のです(1ネーファイ11：36)。この世の高慢は一時的ですが、正しいことをすれば永遠の祝福がもたらされます。

この4つのことを行うと、「人がその上に……築くならば、倒れることなどあり得ない」堅固な基、すなわちイエス・キリストの福音という土台を築く助けとなります(ヒラマン5：12)。



3年前、わたしは教会から離れていました。しかし、自分の間違いのために悲しくなり教会に戻ることを決意しました。過ちを恐れ

ていたので、ひざまずき、長い間していませんでした。つまり天の御父への祈りをささげました。誘惑から離れることができました。平安を打ち壊し、心を悲しませる悪がわたしの心に入って来ないようにするためです。そして、わたしの行く手を導いてくださる主に信頼を置きました。今では心

に平安があります。罪や間違いで悲しくなるときにはネーファイ第二書第4章17節から35節を読んでください。

ペルー、ピウラ伝道部  
ジョン・サンチェス長老



教会に活発に集っていても、わたしたちは日々誘惑に遭い、間違いを犯します。しかし大切なのは、してしまったことを誠実に悔い改め、誘惑に負けないよう絶えず努力することです。天の御父は決してわたしたち

をお忘れになることはないのですから、何よりもまず、ふさわしくあり、続けて祈り、天の御父に助けを求めることです。ほんとうにわたしたちが変わりたいと思っているなら、わたしたちをこよなく愛しておられる御父は、必ず助けてくださいます。  
チリ、ランカグア、デニス・E、18歳



恐れを感じたら祈り、<sup>だんじき</sup>断食し、特に聖文に答えを求めてください。そこには主の言葉があり、わたしたちの質問への答えがあります。主は戒めを守るための方法を備えずには、戒めをお与えにならないことを覚えていてください。そしてわたしたちをほんとうに愛してくださっているの、悔い改めれば赦<sup>ゆる</sup>してくださるので。  
ベネズエラ、ファルコン、アナ・A、16歳



最初に、わたしたちが道を外れてしまったときでさえ天の御父はわたしたちを愛してくださっていることに気づく必要があります。大切なのは、立ち上がり、努力を続けることです。次に、落胆はサタンの方であって、イエス・キリストの福音においてのみ見いだせるほんとうの幸福を得られないようにするものであることを理解することです。サタンが最も得意とする策略は、わたしたちが過去の罪や間違いに気を取られ、将来にもそれを繰り返すのではないかと恐れさせることです。この思考のパターンは、わたしたちが前進し、向上することを妨げてしまうだけです。最後に、わたしが生活の指針としている言葉を紹介し、「失敗を恐れるあまり、試合や競技に出られなくなるようではいけない。」わたしたちは天の御父の子供であり、御父の助けによって物事を成し遂げられるのです。  
合衆国、ユタ州、チャド・C、20歳

個人で祈るとき、道を外れてしまうのではないかとこの恐れを正直に話してください。福音の知識を得、御霊を感じるために毎日聖文を読んでください。できるだけ御霊を感じるように、すべての教会の集会、神殿参入ツアー、出席できる活動に参



## あなたが交わした 聖約の持つ力は、 誘惑の力を

ねじ伏せることができるのです。  
過去の罪に心を悩ませるあまり、悔い改めて過去の罪を捨てるという決意を鈍らせてはなりません。忘れないでください。神は「[あなた]をあだの手から救い、敵の力からあがなわれ[る]」と約束しておられます（詩篇106：10）。

十二使徒定委員会  
ジェフリー・R・ホランド長老  
「新会員すべてに  
知ってほしいこと、  
会員歴の長い人すべてに  
留意してほしいこと」  
「リアホナ」2006年10月号、  
14

加してください。ビショップや両親に助言を求めるのも賢明なことです。

合衆国、カンザス州、ジャクリーン・B、17歳

あなたが感じていることはよく分かります。わたしも教会に戻って来て、今では伝道も含めたすべての教会活動に活発に参加しています。わたしが学んだのは、イエス・キリストに強い信仰を持つということです。主に信仰を持つなら、信仰はわたしたちを強めてくれます。ヒラマン書第5章12節に記されているように、イエス・キリストがわたしたちの唯一の堅固な基であることを知っています。  
フィリピン、ブラカン、チェニー・L、17歳

天の御父はわたしたちを愛し、理解しておられます。わたしたちが不完全で間違いを犯しやすいことも御存じです。天の御父はわたしを愛し、聖文や祈り、断食を通して前進できるようにわたしを強めてくださることも知っています。わたしたちは道をそれってしまったとき、いつでも助けを得られるのです。

ノルウェー、オスロ、セレステ・S、20歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## 質問

「アルコールやタバコがどういうものか、自分自身で知るために、一度だけ試してみたいはいけませんか。二度とするつもりはありません。たった一度のことです。どんな害があるのでしょうか。」

## あなたの意見を聞かせてください

氏名、生年月日、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて(写真掲載に対するご両親の承諾書とともに)、下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先— Questions & Answers 7/07  
50 E. North Temple St., Rm. 2420  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メールアドレス—  
liahona@ldschurch.org

2007年7月15日必着で送付してください。■

# 力強く確固として 立つことによって、 神の御手に使われる者となる



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勤めてください。

## 力強く確固として立つとはどのような意味でしょうか。

**ゴードン・B・ヒンクレー大管長**——「教会の女性が……適切かつ正しいことのために力強く確固として立つことは、この上なく重要なことです。まず、自分の家庭から始めることです。クラスの中で義について教えることもできます。社会の中で義を守るために発言することもできます。」（『力強く確固として立つ』『世界指導者訓練集会』2004年1月、20）

**ジョセフ・F・スミス大管長（1838-1918年）**——「真理の業のためにできることをすべて行い、人々がもたらした悪に耐え……でも、なおわたしたちは立っていなければなりません。あきらめることはできません。倒れてはならないのです。……できるかぎりのことを行った後、圧倒されるような攻撃に耐えて強く立つのは、信仰に基づく勇気です。信仰の勇気は前進する勇気です。この神聖な特質を持った人は前進し続けます。彼らは立ち

止まろうとしても、そうすることを許されない人です。このような人は、自分の力と知恵だけで動く単なる生き物ではありません。高い律法と神の目的を達成するための器なのです。」（『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』107-108）

## わたしたちが確固として力強く立っているとき、主にどのように使っていただけるでしょうか。

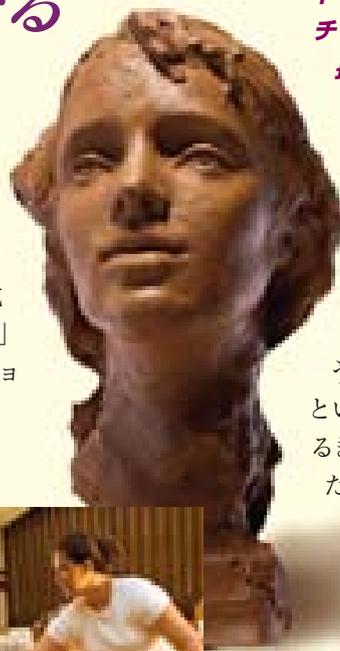
**教義と聖約84:106**——「あなたがたの中で御霊において強い者がいれば、その人は弱い者を伴って行きなさい。それは、……彼らも強くなるためである。」

**中央扶助協会会長会第二顧問 アン・C・ピングリー**——「『バプテスマによってキリストの教会に受け入れられる』人は、『最後までイエス・キリストに仕える決心をして進んでイエス・キリストの名を受ける』人でもあると、主は説明されました。それはすなわち、生活の中で毎日『確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いをし』続けることで

す。……[わたしたちは]できることはすべて、時には行う方法が分からないことでさえ、行うように求められます。」（『成長して主の役に立つ』『リアホナ』2006年5月号、74、76）

## 十二使徒定員会 リチャード・G・スコット 長老

——「主に完全に従順であろうと決意することで、生涯に達成できることがどれほどたくさんあるか、今の時点ではほとんど想像もつかないでしょう。正しい生活をするという静かな、しかし揺るぎない決意は、わたしたちの理解できる能力を超えた靈感と力をもたらします。……そのような神聖な力を通して、神の御手に使われ、自分だけの力ではできないようなことも成し遂げられるのです。」（『人生の正しい決断』『聖徒の道』1991年7月号、35、36）



**大管長会第二顧問 ジェームズ・E・ファウスト管長**——「一人一人の日々の義の働きを称賛します。皆さんの働きは、たとえわずかな人にしか知られなくても、小羊の命の書に記されています。小羊の命の書はいつの日か、『この大いなる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者』として働いた皆さんの熱心な奉仕と献身、行いを証明するために開かれるでしょう。〔アルマ26:3〕」（『神の御手に使われる者』『リアホナ』2005年11月号、114）

# 「この女は多く愛したから」 (ルカ7:47)

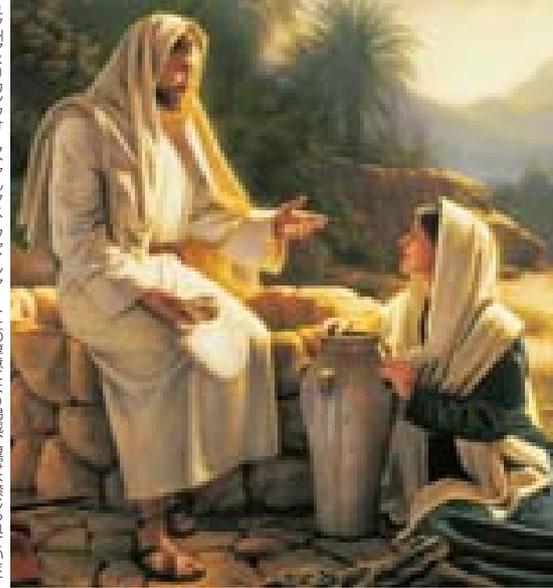
新約聖書の女性たち



上—「彼女は男の子を産むであろう」リズ・レモン・スウィンドル画。「『見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。』これは、『神われらと共にいます』という意味である。」(マタイ1:23。18-25節参照)

右上—「生ける水」サイモン・デューイ画。「イエスは答えて言われた、『もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう。』(ヨハネ4:10。6-30節参照)

「ミタマ」カンパニー、マルクス・マンナー社の厚意による複製。絵画は禁じられていません。



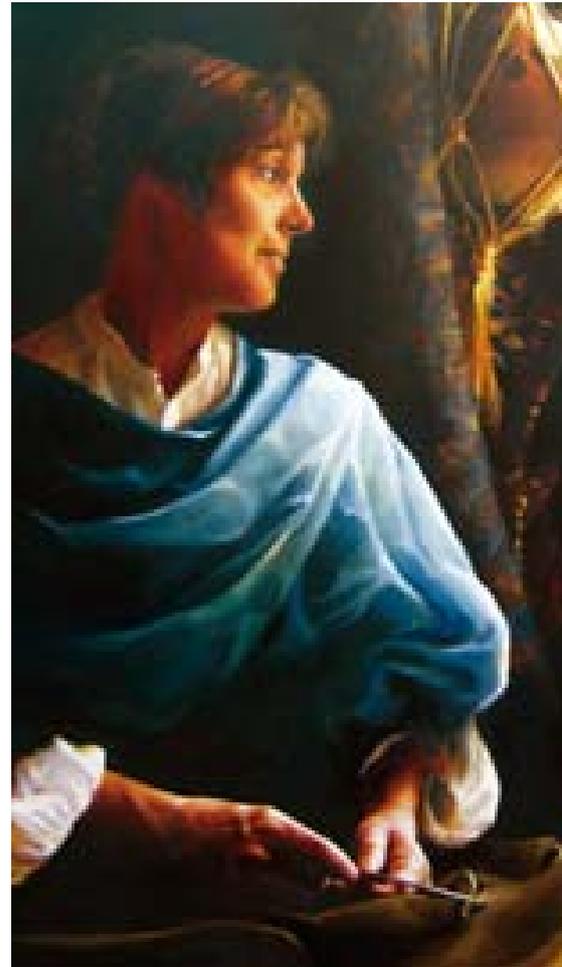
© LIZ LEMON SWINDLE FOUNDATION ARTS. 絵画は禁じられていません。





左—「平安、世が与えるようなものとは異なる」マイケル・T・マルム画。「そこで天国は、十人のおとめがそれぞれあかりを手にして、花婿を迎えに出て行くのに似ている。……

思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた。」(マタイ25：1、4。1-13節参照)



上—「マリヤは彼の言葉を聞いた」ウォルター・レーン画。「イエスは答えて言われた、『マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている。

しかし、無くてはならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである。』(ルカ10：41-42。38-42節参照)

上—「すべてを捨てて」エリスベス・ヤング画。ユダヤ人のプリスキラとその夫アクラは、国外に追放されてギリシャのコリントに住んでいた。使徒パウロは2度目の伝道の旅先で彼らの家に滞在した。新約聖書時代の多くの信者のように、アクラとプリスキラは福音のためにすべてを捨てた。これは、コリントを去ってエベソに行くことについて熟考しているプリスキラを描いている(使徒18：1-3、18-19；ローマ16：1-3参照)。

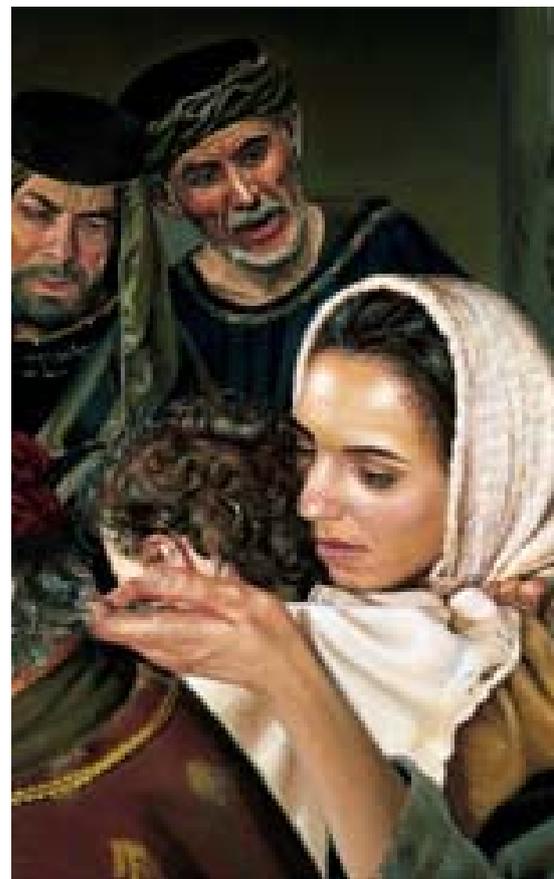


**上——「その良い方」エルスベス・ヤング画。**

ベタニヤのマリヤ、マルタ、ラザロのきょうだいは、皆救い主の献身的な弟子であった。あるとき、「マルタ……がイエスを家に迎え入れた。

この女にマリヤという妹<sup>みことば</sup>がいたが、主の足もとにすわって、御言<sup>みことば</sup>に聞き入っていた。」(ルカ10：38－39)

キリストは答えて言われた。「マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである。」(ルカ10：42)



**右上——「女弟子」エルスベス・ヤング画。**

「ヨッパにタビタ(これを訳すと、ドルカス……)という女弟子がいた。数々のよい働きや施しをしていた婦人であった。」(使徒9：36。36－43節参照)

© LIZ LEMON SWINDLE, FOUNDATION ARTS. 複写は禁じられています



左——「やもめのレブタ」の一部，リズ・レモン・スウィンドル画。「また，[イエスは]ある貧しいやもめが，レブタ二つを入れるのを見て言われた。「よく聞きなさい。あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ。」」（ルカ21：2-3。1-4節参照）



ユタ州アメリカンフォーク、アルタス・ファインアート社の厚意により掲載。複写は禁じられています

左上——「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか」ジャン・アストル画。「週の初めの日、夜明け前に、女たち[マグダラのマリヤとその他の女性]は……墓に行った。ところが、石が墓からころがして[あった]……  
……見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現われ……  
……言った、『あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。』（ルカ24：1-2，4-6。1-13節参照）

上——「信仰によって触った」の一部，サイモン・デュイ画。「するとそのとき、十二年間も長血をわずらっている女が近寄ってきて、イエスのうしろからみ衣のふさにさわった。み衣にさわりさえすれば、なおしていただけるだろう、と心の中で思っていたからである。」（マタイ9：20-21。18-22節参照）■

# ビショップを 支持する

ジョセフ・ステーブルズ

**わ**たしが最初に末日聖徒のビショップと接したのは、教会員になる以前のことでした。わたしはそのとき17歳で、最上級生の多くが直面する困惑、疑い、ストレスを抱えていました。ある土曜日の朝、わたしは親友に自分の悩みを訴えました。彼は親身になって聞いてくれましたが、解決策はほとんど何も示さずに、一つの提案をしてくれました。「時々、どうすればいいかわからないとき、ぼくはビショップに話すんだ」と彼は言いました。この提案がすばらしい結果につながったのです。

「ビショップ？ それはだれだい？」とわたしは聞きました。

「ぼくのワードの指導者だよ」と友人は答えました。

今にして思えば、次にわたしの口から出た言葉は明らかに聖霊の導きでした。でも、それはとても17歳のわたしの口から出た言葉とは思えないものでした。こう言ったのです。「ぼくと会ってくれるかな？」

友人はビショップに電話をしてから、その後すぐにわたしに連絡すると言いました。その日の午前中に、早速ビショップの家で会う約束をしました。

約束はしたものの、何が起こるのかまったく予測できませんでした。質素な平屋建ての家の前に車を止めると、ガレージの前に止めてある自転車、良く手入れしてある芝生などが目に入り、その普通さに少し驚きました。わたしをドアで出迎えてくれた上品なカジュアルシャツを着た男性には、さらに

驚いてしまいました。彼は笑って言いました。「君はジョーだね。わたしはマックスウェルビショップです。さあ、中に入って。」ビショップの小さな書斎に入るまでの間、わたしの頭

の中ではいろいろな疑問が駆け巡りました。「ビショップの家って、もう少し違う感じじゃないかな？」「ビショップなんだから、正式な職服か何かを着ているのが普通じゃないかな？」

マックスウェルビショップと過ごした45分で分かったのは、彼が思いやりのある人で、わたしの苦悩に関心を示してくれる人だということ、また教会の内外を問わずだれであっても、その人が自分で結論を出すのを助けるために、土曜の朝の貴重な時間をささげるのをいとわない、靈感を受けた人であるということでした。

あの面接から25年以上の年月が流れました。あの朝、ビショップが具体的にどのような助言をしてくれたのか思い出すことはでき

ませんが、彼の家を出るときに感じたすがすがしい気持ち、そして心の荷が軽くなったことは、今でもはっきりと覚えています。わたしが聖霊を感じたのはあの面接のときが初めてだったと気づいたのは、それから何年も後のことでした。

その年の終わりごろ、わたしは教会に入りました。わたしにマックスウェルビショップを紹介してくれた親友のビルがわたしにバプテスマを施してくれました。わたしは後に伝道に出て、マックスウェルビショップが証人として見守る中、若く美しい女性と神殿で結婚し、今では5人のすばらしい子供た

**献**身的で、  
思いやり深く、  
慈愛に満ちた  
ビショップを主が  
備えてくださっていることで、  
わたしたちはどれほど  
祝福されているでしょう。  
わたしたちには  
ビショップをサポートし、  
積極的に行動すること  
によって、ビショップを  
支えることができます。



ちを育てています。

十二使徒定員会のL・トム・ベリー長老は次のように約束しています。「わたしたちがビショップを支持して助け、ビショップの幸福を案じ、すべての面でビショップが成功できるように祈るならば、わたしたちはビショップの下にあって靈感による指導を受けることができ、わたしたちの生活に恵みがもたらされるでしょう。」<sup>1</sup>

ビショップ(または支部会長)を助け、支持するという責任を果たすために、わたしたちにもできることがあります。以下に、ビショップを助け、支持するうえで役に立つ6つの事柄を提案します。

### ビショップの家族の時間を尊重する

あなたのビショップはたいがい、助けを必要としているワードの会員一人を助けるために、何であれ自分のしていることを中断します。彼は群れの羊飼いととしての自分の責任を知っており、神聖な管理の職を果たすために懸命に

働いています。あちらからもこちらからも来てほしいと求められ、引き裂かれるような思いになることは、ビショップには日常的なことです。

あなたのビショップも夫であり、ほとんどの場合父親です。そして多くの場合、父親の指導と世話を必要とする子供が家にいるのです。ビショップの導きを求めるとき、わたしたちは彼が家庭で家族と過ごす時間のことや、一家の稼ぎ手としての責任を果たしていることを思い起こし、配慮する必要があります。ビショップの助けがほんとうに必要なときに、電話することをためらってはいけませんが、それでも「次の機会でもよいのではないだろうか」あるいは「ホームティーチャーなど、ほかに助けてくれる人はいないだろうか」と自問してみるべきです。もちろん、ふさわしさに関する問題については、ビショップか支部会長にだけ話すべきです。

ビショップや他の教会指導者、また彼らの負う特別な重荷について、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は次のように述べ

**ビ**ショップの  
導きを求めるとき、  
わたしたちは  
家庭の中で彼が家族と  
過ごす時間のことや、  
一家の稼ぎ手としての  
責任を果たしていること  
について配慮する  
必要があります。



**ホ**ームティーチャー  
や訪問教師が  
適切に  
担当家族の  
世話をするとき、  
ビショップは  
自分にしか行うこと  
できない事柄に  
専念することができます。

ています。「家庭、家族、結婚は、人生において最も貴い財産であることを証します。この財産を守りつつ、忠実に教会の奉仕をする時間と方法を編み出す必要があることを証します。」<sup>2</sup>

ビショップは常に主の業に忙しく従事していることでしょう。その中には、夫や父親としての永遠の召しに対して時間をささげることが含まれています。わたしたちの方で時間的な配慮をすることによって、ビショップが多くの難しい責任を果たせるように助けることができます。

### ビショップの重荷が軽くなるようにする

ビショップが他の人に委任できない責任が幾つかあります。それには公式な教会宗紀処置を施すこと、什分の一の面接、福祉支援を施すこと、悔い改めようとしているワードの会員の告白を聞くことなどがあります。しかしながら、これらの責任以外であれば、他の人が代わりに行ってビショップの重荷を軽減できることがたくさんあります。助けを必要とするワード会員を気遣う、社交的な活動を計画する、雇用に関する支援を行うなどはその例です。

ホームティーチャーや訪問教師が適切に担当家族の世話をし、グループリーダー、定員会、補助組織の会長が正しく導くとき、ビショップは

自分にしか行うことのできない事柄に専念することができます。ビショップを支持し、その重荷を軽くしてあげたいのであれば、与えられた責任を賢明に果たしましょう。

### ビショップの職を敬う

新しいビショップの中には、ワードの一般会員から指導者になることに困難を感じる人もいます。ほとんどの場合、その召しにふさわしい人はほかに幾らでもいると感じるのです。主からこの責任に召されたという確認を受けても、ゴリアテと戦う前に王の武具を身に着けたときのダビデのように、権威を受け入れることがぎこちなく感じられるのです。

ビショップの職は、ワードの会員の中のある人がある期間主から委ねられる神聖な召しです。その職に対する尊敬の念を示すことにより、ビショップを助けることができます。彼を呼ぶときには「ビショップ」と呼んでください。下の名前や、俗語的なまたは非公式な肩書きで呼ばないでください。彼と接するときに敬意を示すことにより、主が彼に授けられたまさに現実の権威を、彼自身が引き受けられるように助けることができるのです。

## ビショップのために祈る

聖典は次のように教えています。「あなたがたの祈りの施しは……主の耳に達し……ている。」(教義と聖約88:2) わたしたちがビショップのために祈るとき、主は確かにわたしたちの祈りを聞いてくださいます。そしてわたしたちが家族の祈りの中でビショップのために祈るとき、わたしたちは信仰、従順、信頼など大切な原則を子供たちに教えることになるのです。多くのビショップがワードの会員たちの祈りを通して受けた力について証しています。

## ビショップからの提案を受け入れ、ビショップの勧告に従う

ビショップは主イエス・キリストの代わりを務めています。わたしたちはビショップから提案を受けるかもしれませんが。あまり気の進まない責任を果たすように依頼されるかもしれませんが。多くの努力と犠牲を払うことが求められるかもしれませんが。わたしたちのため、ビショップのため、また地上に主の王国を築くために、ビショップの勧告に従い、ビショップや彼の顧問から与えられる召しを受け入れ、また尊んで大いなるものとするべきです。

## 批判せずに支援する

ビショップもわたしたちと同じ人間です。そして、一人一人のビショップの長所や指導方法は違います。教会員であるわたしたちは、あるビショップを別のビショップと比較するべきではありません。むしろビショップは主から命じられたことに従おうと最善を尽くしているのだと理解するべきです。ビショップを批判する代わりに称賛してください。ビショップの非難や陰口には加わりたくないと決意しましょう。

数年前、わたしはビショップとして召されました。何年かその責任を果たしながら、わたしはかつて知らなかった大きな喜びを経験しました。もうすぐバプテスマと確認の儀式を受ける熱意にあふれた8歳の子供と面接する喜び、伝道に出る準備をしている若い男性や若い女性を教え導く喜び、永遠の結婚の備えをしている婚約者たちに神殿の大いなる祝福について教える喜びなどです。そのころは数え切れないほど多くの機会に、マックスウェルビショップのことを思い出しました。彼がわたしの人生に与えた影響は永遠に続くことでしょう。

ワードという家族を見守るため、献身的で、思いやり深く、慈愛に満ちたビショップを主が備えてくださっていることで、わたしたちはどれほど祝福を受けているでしょう。ビショップの召しは困難なものであり、その荷は非常に重くなること

もあります。わたしたちにはビショップを支え、積極的に行動することによって、ビショップを支持し、助けるという偉大な特権があるのです。■

### 注

1. 「監督たる者は責められる点がなく」「聖徒の道」1983年1月号、53参照
2. 「奉仕の召し」「リアホナ」2002年11月号、38



## あなたのビショップの重荷を軽くする

「[教会員]は皆、ビショップまたは支部会長に託されています。ビショップと支部会長の担う重荷は、途方もなく大きいものです。すべての教会員の皆さんにお願いします。ビショップと支部会長の重荷を軽減するために、できることをすべて行ってください。」

ビショップや支部会長のために祈らなければなりません。彼らの荷は重く、助けを必要としているからです。もっと彼らの力となり極力依存しないようにしましょう。可能なかぎりあらゆる面で手助けし、わたしたちのためにしてくれることに感謝しましょう。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

「イスラエルの羊飼い」『リアホナ』2003年11月号、60



## ビショップができることには限界があります

「世界中で、末日聖徒イエス・キリスト教会のビショップの職務に類するものは、ほかにどこにもありません。親を除けば、ビショップは、最も大切な事柄について教え、または学ぶきっかけを作る最高の機会を得ています。……[しかし]必要以上にビショップの時間を取ることをしないでください。ビショップができることにも限界があります。ビショップリックの人たちにも、生計を立て、家族とともに過ごす時間が必要です。」

十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー会長

「監督と副監督」『リアホナ』1999年7月号、71、73

# サッカー？ それ

アレシャンドリ・マシャド・バスコンセロス

**未**来の宣教師と呼ばれるほかの若者たちと同じように、ローラン・サルダール・ケイロスも伝道に出るか否かの選択をしなければなりません。しかしローランは、2年の間学業や仕事を中断して家族や友人と別れるということに加え、もう一つのとても難しい決断を迫られていました。それは伝道に出るかブラジルでプロのサッカー選手になるかという選択です。

ブラジル、リオデジャネイロのジャカレパグアステーク、バラ・ダ・チジュカワードに集うローランはサッカー選手の家系に生まれました。父親のミウトンはブラジル中にチッタという名で知られたプロサッカー選手です。5か国でプレーして多くのタイトルを獲得したほか、州の得点王に輝いた経験もあります。また、ブラジル代表にも名を連ねました。

チッタは息子の能力を幼いうちから見抜いていました。「わたしはサッカーボールとともに成長しました」とローランは振り返ります。「父はいつもわたしを励ましてくれます。父の練習について行くようになったのは3歳か4歳のときで、それ以来いつもプロの選手の近くで過ごしてきました。」6歳になると、ローランは父親がプレーしていたメキシコで正式なトレーニングを始めます。12歳までには母国ブラジルで将来有望な選手を集めたチームに加

# とも 伝道？

わり、17歳になるとプロへの近道と言われるジュニアリーグでプレーしました。サッカー選手としてのローランの未来は約束されているようなものでした。しかし18歳の誕生日が間近に迫ると、ローランは伝道について真剣に考えるようになりました。

ローランはそのとき感じた葛藤<sup>かつとう</sup>を次のように語っています。「サッカー選手になりたかったですし、伝道にも行きたかったのです。普通、ジュニアの選手はそのままプロへ行きます。2年間もサッカーから離れ、その後21歳でプロの選手として契約するなどほとんど考えられないことでした。」

17歳のとき、ローランは幾つかの決意をしました。改心のきっかけにつながったと自ら話すその決意とは、毎日モルモン書を読むこと、また断食して祈ることでした。

ミューチャル、ファイヤサイドやほかの教会の活動にもより頻繁に参加しました。そして定期的に宣教師を手伝うよう



前ページ——  
サッカーに  
しばしの別れを告げ、  
宣教師の  
ユニフォームである  
ワイシャツとネクタイを  
身に着けたローラン。  
下——  
幼いころから  
備えていた  
高い運動能力を  
披露するローラン。  
右上——父とローラン。  
左下——父親と  
そのチームメートと  
ともに。



になると、訪問先の人々のために祈ることを通して彼らに愛を感じるようになりました。ローランはその人たちに福音の祝福を味わってほしいと思いました。伝道に出たいという望みが次第に大きくなってきたのです。しかしローランにとって伝道に出るいちばん良い時期はいつなのでしょう。もし2年間プレーしなかったら、サッカー選手としての未来はどうなってしまうのでしょうか。

ローランは主の御心を知るために断食し祈りました。それから1週間もたたないうちに、ローランは自宅に『ニューエラ』(New Era)の最新号が届いているのに気づき、ページをめくり始めました。すると「氷上の夢」という記事に興味を引かれました。それは、クリス・オブザンスキーという将来を有望視されていたスケート選手が競技生活を中断し、2006年冬期オリンピックへの出場のコツを失うことともいわずに19歳で伝道に出たという内容でした。

特にローランの目を引いたのは、記事の次の部分です。クリスが聖餐会せいさんで若い男性の会長の伝道経験を聞いていると、御霊がこうささやいたのです。「19歳になったら伝道に出なさい。さもなければ、人生が大変になりますよ。」クリスはこう語っています。「あまりにもはっきりと聞こえたため、だれかがいるのではないかと思って後ろを振り返ったくらいです。すると、同じ気持ちをさらに10倍強く感じたので、伝道に出なければならぬと思いました。」<sup>1</sup>

ローランはほほえみながら言います。「記事を読んだとき、これは自分のために書かれたのだと感じました。19歳という年齢は主によって

定められたものです。これが自分に必要な答えだと分かりました。大きな重荷が背中から取り去られたよう

でした。」ローランが伝道に出るのはまさにこの時だったのです。ビショップと面接をし、必要な準備をしたローランは決して後ろを振り返りませんでした。「サッカーを離れるという決定でさえ難しいものではなくなっていました。伝道に出るべき時が来たことが分かったからです。」

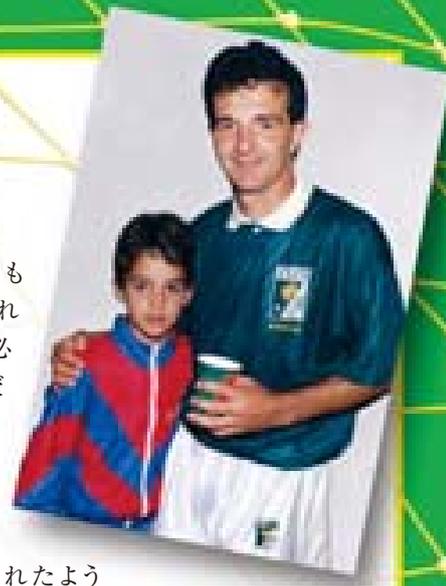
ローランは首都ブラジリアを管轄するブラジリア伝道部で奉仕し、周りの人々まで元気にさせてしまう働きぶり「ハッピー長老」と呼ばれました。「人々に仕え、真実だと知っているこの真理を分かち合うことにとっても大きな喜びを感じます」とローランは語ります。「福音を学んだ人たちが生活を変えるのを見るのは非常にうれしいことです。」

ほかの宣教師同様、ローランにも苦しいことがありました。「もちろん、宣教師の生活がいつも楽しいものとは限りません。困難もあれば、落ち込み、孤独を感じる時もあります。しかし伝道から得られる祝福に比べたら、そんな苦労は無きに等しいものです。伝道の2年間はいつまでも心に残ります。それは単なる記憶以上のものです。」

数か月前、ローランは立派に伝道の召しを終えました。帰還後はリオデジャネイロのチームに所属し、再び活躍するチャンスに恵まれると信じています。ローランは信仰を込めて次のように話します。「天のお父様が祝福してくださり、サッカーを楽しむ機会が来るのを待っています。天のお父様はきっとわたしを祝福してくださるでしょう。」■

注

1. シャンナ・バトラー『リアホナ』2004年1月号, 46引用, New Era, 2004年1月号, 22引用



# ワールドカップ を見られなくても

スザーナ・アルベス・デ・メロ

ブラジルのだれもが愛するスポーツ、それがサッカーです。そしてワールドカップ以上に大きなサッカーの大会はありません。ブラジルのビトリア・ダ・コンキスタステーク、ブラジルワードのファビアナ・シウバはあるコンテストを勝ち抜き、1998年のフランス・ワールドカップの試合を観戦できることになりました。彼女は大喜びでしたが、それが伝道の機会になろうとは考えてもいませんでした。

ファビアナは、同じようにコンテストを勝ち抜いた人たちと一緒に試合を観戦しました。彼女のつつましい服装や積極的な態度、きれいな言葉遣いは試合の度に彼らから注目され、尊敬を集めました。ブラジルは勝ち進み、決勝戦に進出しました。しかし、その試合が日曜日に行われるため、ファビアナが決勝戦は観戦しないと話したとき、彼らが彼女に抱いていた尊敬は不信感へと変わりました。

周りからの圧力や嘲笑にもかかわらず、ファビアナは自分の意志を曲げませんでした。日曜日、住所が分からず教会に出

席できなかったものの、ファビアナはホテルの部屋で聖文を読んでいた。ブラジルは敗れ、ファビアナたちもブラジルに戻りました。

数週間後、ファビアナは、別の地方のコンテストで優勝し一緒にワールドカップを見に行ったファビオ・ファンから手紙を受け取り、驚きました。手紙にはファビオが彼女の標準に感銘を受けたこと、そして宣教師から福音を学んでいることが書いてありました。その後、2通目の手紙を受け取ったファビアナは、ファビオがバプテスマを受けたことを知りました。それからファビオは自分の家族を教会へ導き、伝道にも出ました。

ファビアナもブラジルのカンピーナス伝道部で奉仕しました。彼女はとてもよく備えられた宣教師でしたが、それは経験を通して次のことをすでに学んでいたからです。「わたしたちが携えることのできる最も効果的ならしは、わたしたち自身が善良な生活を送り模範を示すことです。」<sup>1</sup> ■

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「子羊を見いだし、羊を養う」  
「リアホナ」1999年7月号, 123参照



# 家族を一つに してくれた

## 家庭の夕べを有意義なものにする 6つの方法

ラケル・M・ガルシア-レブタル

**わ** たしは自分の経験から、福音の原則を基としている堅固な家族が堪え忍んだり克服したりできないほど大きな問題はないということを知っていました。

それに関連して、夫とわたしは、家庭の夕べを成功させることからたらされる並外れた力を実感するようになりました。毎回の家庭の夕べを楽しく意義深いものにしようと努力するなら、幸せな家庭を築く基盤を据えることができます。

夫と結婚してから1年が過ぎたころ、末の弟の娘3人がしばらくわたしたちと同居することになりました。夫の末の妹とわたしの友人の女性もしばらく我が家に住みたいと言ってきました。わたしたちには子供がいないこともあり、全員を歓迎することにしました。突如として、わたしたちは二人だけではなく、一つの大家族になりました。

それ以前は、夫もわたしも家庭の夕べを行うことについてあまり真剣に考えていませんでした。家の中にわたしたち二人しかいなかったからです。でも、新たに家族が加わったおかげで、本気で家庭の夕べを行うことにしました。

初めて皆で家庭の夕べをしたときから、我が家の月曜日はそれまでとはまったく変わりました。日々の生活も変わりました。全部、家庭の夕べのすばらしい経験のおかげです。いつもは静かな我が家も絶えず音楽が流れるようになりました。文字を読めなかった子供たちは、読むことを学ぶようになり、読むのが大好きになりました。恥ずかしがり屋で、割り当てを受けたがらなかった子にも自信が芽生え、積極的に参加するようになり、とうとう自分から名乗り出て特別な発表をするようにさえなりました。週の間中、ずっとわくわくしていました。前の月曜の夜にしたことや、次回することをいつも話していたからです。月曜日が近づくとさらに気持ちが高ぶりました。それぞれが「あっと驚く」ことをしようとわくわくしながら準備していました。

家庭の夕べが楽しくなると、皆が家事の分担をもっと積極的に果たすようになりました。皆、毎回の家庭の夕べを通して生活を豊かにするためのヒントを発見しました。

以下に、我が家の家庭の夕べを楽しくするのに役立つアイデアをいくつか紹介します。





**1 計画。**わたしたちは頻繁に家族で話し合い、その週のテーマを決め、3か月先までの計画を立てました。

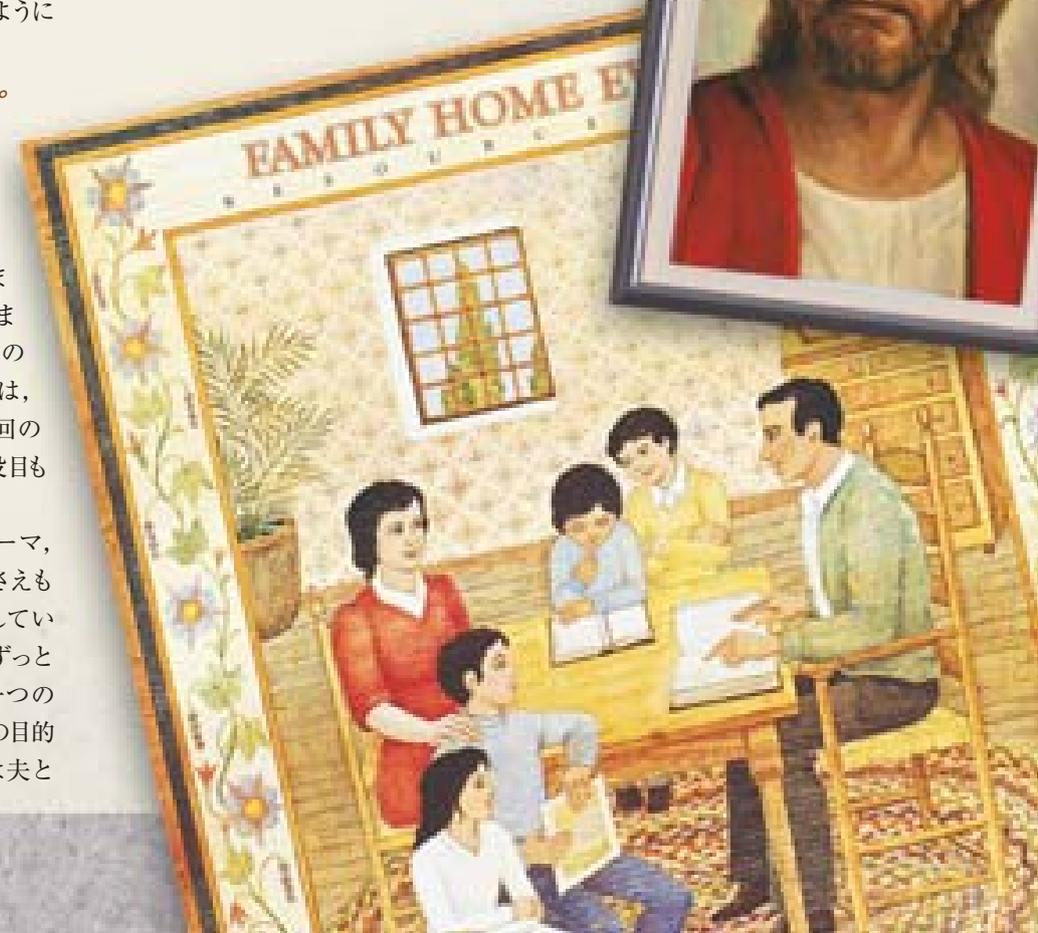
**2 全員参加。**全員が割り当てを受けました。例えば、テーマや活動を計画する、レッスンを担当する、その週の家庭のタペリーダーを務める、などです。恥ずかしがり屋や、ためらいがちな子には特別な励ましと助けを与えました。そして割り当てを必ずうまく果たせるように助けました。さらに、一人一人が家庭のタペにどれだけ貢献しているか自覚できるように助けました。

**3 一貫性と柔軟性のあるプログラム。**わたしたちはノートに毎週のテーマを書き、それぞれの家庭のタペでどんなことがあったかを記録しました。これは以前にしたレッスン、ゲーム、活動、テーマを覚えておくのに役立ちました。また、前回の割り当ての確認が簡単にできました。次週のテーマを発表し、次の家庭のタペの役割を決め、ノートに記録するのは、司会者の責任でした。司会者はまた、次回家庭のタペの役割を皆に思い出させる役目も果たしました。

**4 家族の必要と興味に合わせる。**テーマ、レッスン、活動、それからゲームでさえも注意深く選びました。家族が特に必要としていることに的を絞り、家庭のタペの時間中ずっと興味を保てるようにするためです。一つ一つの内容を関連づけて、その日の家庭のタペの目的を強化するようにしました。初めのころは夫と

わたしが、気をつけて、すべての内容がテーマと目的に添ったものとなるようにしましたが、すぐにいちばん年下の子でさえそのやり方を身に付けました。

例えば、「家族に感謝を示す」というテーマのレッスンをしたときは、レッスンの後で司会者に促されて、皆で円になって座り、一人一人が述べる優しい感謝の言葉を聞きました。それから二人ずつ組んで、互いに感謝するようになることのような良いことがあるかを書き出しました。





## 5 続ける決意。

恐らく我が家の家庭の夕べが成功した最大の要因は、必ず毎週全員で行ったことです。わたしたちは、いつでも喜んで手伝うことを常に皆に伝え続けました。1週間を通じて手伝いが必要な人を探しては、時間を割いてどのように手伝えるか考えました。家庭の夕べの中でだれかが言った提案や希望について、皆で実行しようと決めた場合、覚え書きを壁にはったり、チェックリストを作ったりしました。

**6 資料を活用する。** 家族の本棚に、参考となる資料をそろえました。例えば『家庭の夕べアイデア集』(31106 300)や、教会が発行しているその他の手引き、ゲームの本、アイデアの本、聖典、教会機関誌などです。また、いろいろな事務用品もそろえて、活動のときに皆で使えるようにしました。

夫とわたしがもう一つ気づいたのは、家庭の夕べはくつろいだ雰囲気の中で家族の問題について話し合う機会を与えてくれるということです。叱責、非難、小言、あざけりというものは一切ありません。その時間は、愛を伝え、才能を伸ばし、徳の大切さを理解し、自信を深め、知識を広げ、永遠の原則を教える時間でした。常に一致協力して家庭の夕べを行うことで、わたしたち家族は祝福されました。

時がたち、めいたちは父親のもとへ戻り、義理の妹は独り暮らしを始め、わたしの友人の女性は学校の近くの寮に住むようになりました。わたしたちはまた夫婦二人だけになりました。でも今でも、楽しくて有意義な家庭の夕べを続けています。時にはほかの家族を誘って一緒にすることもあります。あるときは、夫婦が互いをもっとよく知るため、または二人の問題を一緒に解決するため、あるいは互いへの感謝を表すための時間にすることもあります。

テーマや活動は相変わらず単純で、自分たちの必要に合うものになっています。

わたしたちは家庭の夕べが靈感されたプログラムであることを疑いません。一回一回の有意義な家庭の夕べは、岩のように積み上げられ、幸せな家庭を破壊する悪の力から守るとりてとなるのです。■

計 画から  
指導的役割に  
至るまで、  
家庭の夕べの  
すべての役割に  
全員が参加できるように  
します。



右ページ写真/タロ・ソンドラ、写真はイメージです。その他の写真/クリス・テイナ・スミス

## その本に触れようとしませんでした

ヘルメネギルド・I・クルズ

**伝**道に出て最後に赴任したのはフィリピンのイロイロ市にあるモロという町でした。解任される前に一つの家族がバプテスマと確認を受けられるように、と熱心に祈りました。同僚とわたしはある日、祈りをささげ、福音を受け入れる準備のできた、心の正直な人のところへ導かれるように願いました。竹の堀を巡らした家を見たとき、ノックするように導きを感じました。男の人が階段を降りて来て、ドアを開け、中に招き入れてくれました。

その男性と親しく話すうちに、彼が弁護士であることが分かりました。わたしたちはたくさんの質問を受けまし

たが、答えられなかった質問もありました。彼の話し方は雄弁で、宣教師ならだれでも意気消沈してしまったことでしょう。彼は手ごわい求道者になりました。モルモン書を紹介しましたが、「聖書だけでたくさんですよ」と言って決して読もうとしませんでしたし、触れようとしませんでした。まるで触れればやけどをするというような態度でした。

ある日伝道部会長の補佐がやって来て、わたしの後輩同僚であるアルコス長老と伝道しました。二人はこの男性に会いました。その後で伝道部会長補佐の長老は率直にこう言いました。「あの男性は福音を受け入れる準備ができていとは思えませんね。」彼の言葉について深く考えました。でも、福音を受け入れる準備のできた人に会わせてください、と天の御父に懇願したときのことを思い出すと、麗しく、平安な、確信に満ちた気持ちになりました。わたしは祈りがこたえられたと感じていました。きっとこの男

性と分かち合う必要のある何かがあると感じました。ただそれが何であって、またどのようにすればよいか分からないだけなのだと思います。わたしたちは彼のことをあきらめませんでした。

ゆっくりですが、この男性の心に変化が生じ始めました。わたしたちの紹介した「家庭の夕べ」プログラムをとても気に入ってくれたのです。でも、日がたつにつれ、自分が伝道を終えるまでにこの家族にバプテスマを施し、確認の儀式を施すことはできないだろうと思うと、落胆しました。解任は数日後に迫っていました。ある日わたしは悲しい気持ちでこう言いました。「ガルシア兄弟、わたしは自分の使命を果たせなかったような気がしています。」

すると彼はこう言いました。「そんなことはありません、クルズ長老。あなたは失敗などしていません。わたしたち

**わ** たしたちが  
求道者に  
モルモン書を  
紹介すると、  
彼は言いました。  
「聖書だけで  
たくさんですよ。」

の間には友情があります。」彼の次の言葉でわたしたちは喜びに満たされました。「心配しないで。わたしたちは日曜日にあなたの教会に行きますよ。」

彼は家族とともにほんとうに教会にやって来ました。会員たちは彼らを温かく迎え入れてくれました。彼は聖餐会で御霊にあふれる話を聞き、涙を流していました。その日彼は、幸せで高められた気持ちで家に帰りました。御霊が彼の心の琴線に触れたのです。わたしはそう確信しました。

機が熟し、彼の準備が整ったと感じたので、バプテスマと確認を受けるように勧めました。彼はこの勧めを受け入れました。また断食し、祈り、モルモン書を読むように勧めました。同僚とわたしも、彼と家族のために断食をしました。

1986年5月4日は伝道中最後の日曜日でした。断食証会だったので、わたしは愛する人々に向けて、最後の言葉を心から伝えました。わたしが証した後で、ガルシア兄弟が立ち上がり、モルモン書を手に説教壇まで歩いて行くのを見ました。最初はわたしたちのメッセージに耳を貸さなかったあの弁護士が説教壇に立ったのです。彼の全身が震えているのが分かりました。彼は目に涙を浮かべ、モルモン書を掲げてこう言いました。「兄弟姉妹、わたしはモルモン書が真実であることを知っています。」この証を聞いてわたしたちは喜びに包まれました。

その日の午後、ワードの教会員が大勢ガルシア家族のバプテスマ会に参加しました。

伝道から解任された後も、わたしは定期的にガルシア兄弟と手紙のやり取りをしています。日曜学校の会長になったという喜びの報告をしてくれたこともありました。後に、彼はビショップに召されました。フィリピン・マニラ神殿でわたしが結婚式を挙げたときには船に何時間も揺られて来てくれまし

た。その後、ガルシア兄弟はステーキ会長や、フィリピン・バコロド伝道部長会の顧問に召されました。

彼は神の御手に使われる器となり、たくさんの人々がこの回復された福音

に改宗するのを助けてきました。モルモン書に触れるとやけどしてしまうかのように振舞っていた人が、その書物が神聖であり真実であることの偉大な証人となったのです。■

## オレンジ色の車

エルウィン・C・ロビンソン

**結** 婚当初、わたしは妻とともに合衆国北東部の学校に通っていました。冬の寒さは厳しく、道には塩がたくさんまいてありました(訳注——塩は道路の凍結予防のために使用された。しかし、塩の害により車は早くさびついた)。冬を何回か越すとわたしたちの旧型の車は傷み始め、後部座席に乗る人は床に開いた穴から足が下に出てしまうほどになりました。楽観的なわたしは、数枚のアルミ板とリベット(訳注——金属板をつぎ合わせるのに使う、頭の大きな釘)を買ってから両親に電話し、週末に実家に帰って車を直してもよいか、尋ねました。

金曜日の夜遅く着いたので、父とわたしは土曜日の朝早く起きて車の床を直しにかかりました。ゴムマットをはがし、アルミのシートを固定するためにしっかりとした金属部分を探し始めました。しかし探したかいはなく、金属部分はどこもぼろぼろになっていることが分かりました。わたしたちは無言で顔を見合わせ、ただマットを取り替えただけで、朝御飯を食べに戻りました。

5時間もかけてゆっくり慎重に運転してアパートに帰りました。ドアを開けて中に入るとちょうど電話が鳴っていました。ほんとうに「必要」だったのかは分かりませんが、母が新しい車を買うことにしたので、今乗っている車を使いなければあげるということでした。父は注意として、その車が3年前

に購入したもので、走行距離がかなり多いことを告げました。母は冗談で、「什分の一完納者が乗っていた車だからそんなに悪いわけないわよ」と言いました。わたしたちはその冗談に笑いました。そして電話を切った後、この天から降って来たマナのような祝福がうれしくて二人で抱き合っただけでアパートの中をぐるぐると躍ったものです。

そのオレンジ色の車には感激しました。4ドアで、エアコンが付いていて、さびの穴などありません。その車はわたしたちが大学院を卒業して最初の仕事に就くまでもちました。しかし、6年も乗っているのに加えて走行距離がさらに8万マイル(約12万8,000キロ)増えて、今やオンボロの通勤車になっていました。太陽の光にさらされて輝かしいオレンジは色あせ、エアコンはもはや使い物にならず、運転席側の窓は降りなくなっていました。そんなとき、母がまたもや新しい車を購入することになり(今回はほんとうに必要になったためでした)、古い車の下取り額は幾らにもならないので、わたしたちに譲ってくれることになりました。

新しい車が手に入るのを喜んだものの、オレンジの車をどうしようか迷いました。確かにオンボロ車ですが、エンジンはちゃんと動いていました。廃車にすればスクラップとして何ドルかにはなるのですが、わたしたちは互いに、だれかその車が必要な人を探すべきだと感じました。



日曜日の朝、  
わたしはワード  
の書記がもしか  
したら車が必要か  
もしれないと思い、  
書記室に行ってみました。

書記の兄弟と奥さんには10代の子供たちが何人かいます。しかし彼は笑顔で、「今ほかの車は必要ないので」と断りました。しかし書記室の隅で何か書いていたワードの会員の一人が、「車」と聞くと頭を上げました。そこでわたしは彼に機能していない箇所を全部説明し、それでもタイヤは大丈夫でエンジンもちゃんと作動していることを話しました。そして常に什分の一完納者が乗っていたので、そんなに悪い車であるはずがないと言いました。

彼と奥さんには車が1台しかなく、彼は夜働き、奥さんは昼間働いていました。実は、良い仕事の口があったのですが、彼女が車を使うときに彼も車が必要になり、断らざるを得ませんでした。もしもう1台車があれば、収入を増やし、もっと良い仕事に恵まれるチャンスがある、とのことでした。そこで古いオレンジの車を譲ることにしました。

3か月後にこの会員と話す機会がなかったならば、その出来事はただの思い出にとどまっていたことでしょう。その車をあげたとき、彼と妻はもっと自分たちの状況を知ってほしいと思っていました。若いカップルにはよくあることですが、お金が足りないところに最初の子が生まれ、急激に収入よりも支出の方が上回ってしまったのです。その結果什分の一の支払いが滞り、最悪な

**わ** たしたちは  
古い車を  
譲る人を  
探していましたが、  
主が御自分の約束を  
果たすために  
その車をどのように  
お使いになるか、  
わたしたちには  
分かりませんでした。

気持ちを感じていました。月を追うごとにその気持ちは強くなりましたが、このジレンマから抜け出す道を見いだせないうちに、

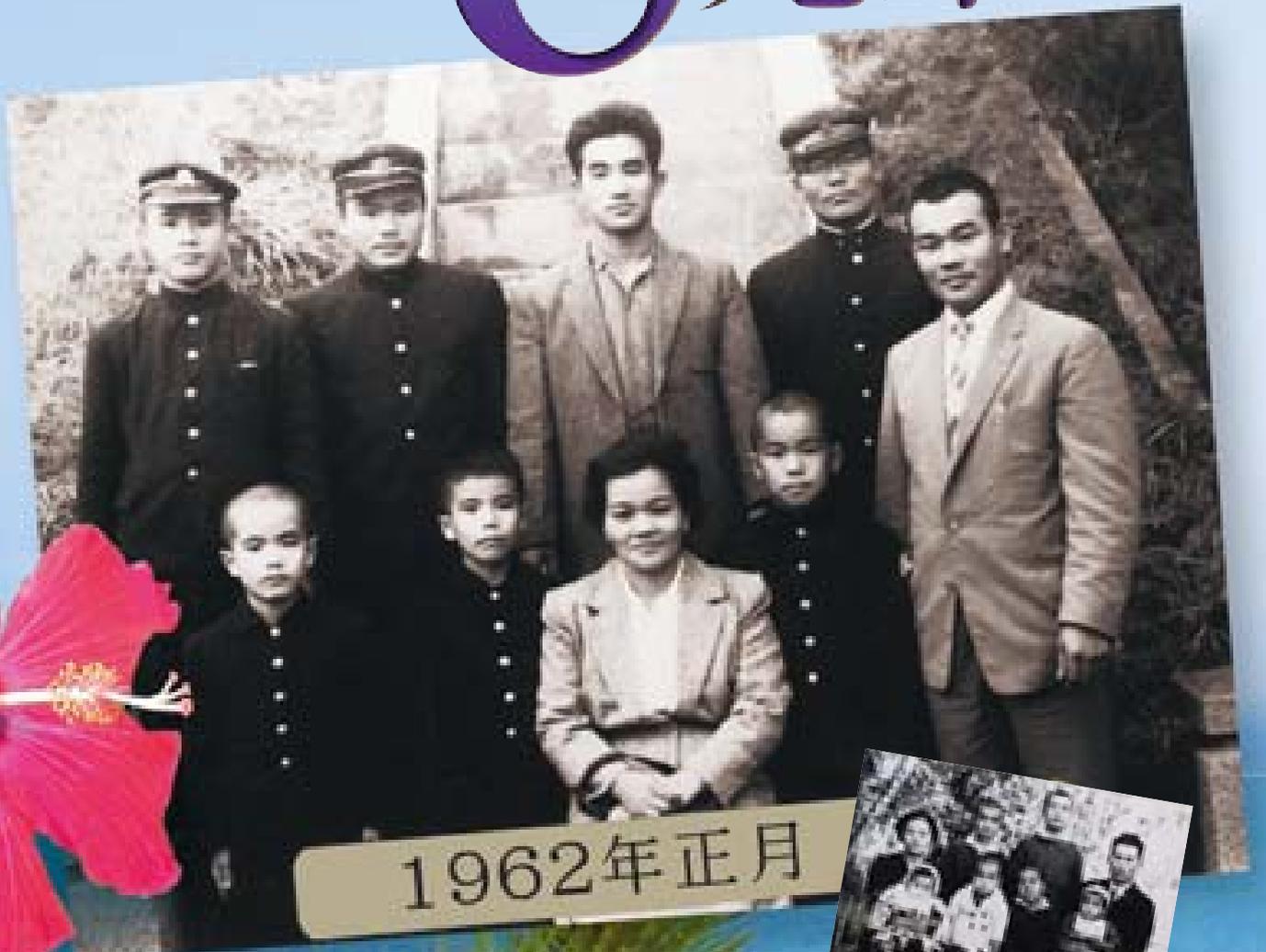
什分の一を払えなくなってから6か月がたっていました。二人はこのことについて祈り、主と正しい方法でこのことを解決しなければならぬと感じました。その日曜日の朝、わたしが書記室に足を踏み入れたとき、彼は什分の一の小切手を書いているところでした。翌月の支払いを一体どのように切り抜けたらよいのか分からないままにです。

その話を聞いた瞬間は、「什分の一完納者が乗っていた」などと冗談を言ってしまったばつの悪さを感じました。でも、彼らの状況を思い返してみると、わたしたちが約束を守るとき、主

がどのように約束を守ってくださるかに驚かされます。わたしは書記室のドアを開けて中に入ったとき、自分が彼の問題を解決することになるとは思いも寄っていませんでした。しかし、彼がそこで小切手を切り、小切手のインクがまだ乾いてもないうちに、問題は解決したのです。

これまで、この若いカップルが示した信仰の模範を何度も振り返りました。もしわたしが信仰を示すならば、わたしの問題を解決するために、どこかでだれかが、必要な場所に、ちょうど良いタイミングで居合わせてくれると思うと、心に安らぎを覚えます。天の御父にどれほど感謝していることでしょうか。天の御父は、わたしたちをよく御存じなので、わたしたちがまだ信仰を示し終える前から祝福してくださるのです。■

# 日本の8兄弟



喜納ハル姉妹と  
8人の息子たち, 1962年。  
右——喜納姉妹と夫の源永,  
6人の子供たちとともに。



宣教師の  
メッセージに対する  
母の信仰によって、  
わたしたちの家族、  
そして  
日本中に住む  
ほかの  
多くの人々が  
福音のもたらす  
祝福に  
あずかっています。

下(左から右へ)——  
喜納姉妹に福音を教えた  
長老の一人、フチガミ長老。  
85歳当時の喜納姉妹。  
喜納姉妹、  
息子の敏光兄弟と  
孫娘とともに、  
ハワイ州ライエ神殿にて、  
1970年。

わたしの両親には9人の子供がいました。息子が8人、娘が1人です。一人娘は、第二次世界大戦中に沖縄戦で幼い命を落としました。父は、この戦争の終結後、沖縄本島の北部に位置する名護で自動車修理店を開き成功しました。しかし父は1954年、いちばん下の弟が2歳、いちばん上の兄が17歳のときに亡くなりました。そのとき40歳だった母は父の死を受け入れることができませんでした。時として、悲しみのあまり父の後を追って死にたいとさえ思ったそうですが、8人の息子を置き去りにすることはできませんでした。

父が亡くなるまで、母ハルは父を一家の稼ぎ手として頼りにしていましたが、父の死後は勤めに出ざるを得なくなりました。母は働き、そして家で子供たちの面倒を見ることでその悲しみを忘れようとしていました。8人のわんぱくな男の子たちを独りで育てるのは大変な苦勞でした。物心がつくころになって気づきましたが、わたしは母が何時に起き、何時に床に就いているのかをまったく知らなかったのです。

### 子供たちに神様について教えてやってください

父の死から10年が経過したころ、母はまるで御霊に導かれたかのように、友人や親戚の反対を押し切って子供たちとともに名護を離れ、沖縄の県庁所在地である那覇へと移り住みました。数年後の1967年ごろ、宣教師が我が家の玄関の戸をたたきました。そのころ、わたしたちはサトウキビ畑と墓地に囲まれた所に住んでいました。近所から遠いうえ、家に続く道路も整備されておらず、訪問者はほとんど

いませんでした。ジャクソン長老とハワイ出身で日系2世のフチガミ長老という宣教師は次のように尋ねました。「神様について皆さんとお話ししてもかまいませんか？」子供たちの教育について心配していた母は、息子たちが彼らから何か良いことを学べるのではないかと思いました。そして長老たちを家に招き入れ、こう言いました。「どうぞ子供たちに神様について教えてやってください。」

福音について学ぼうちに心の安らぎを見いだした母は、宣教師が自費で伝道していること、また、ジャクソン長老が両親を自動車事故で亡くし、その後姉とともに大変な苦勞をしてきたにもかかわらず宣教師として奉仕していることに感銘を受けました。彼らの話を聞きながら、母は父の死後初めて涙を流しました。宣教師と福音を学びながら、母は主の愛と御霊を感じました。そしてこれが自分たち家族の探し求めてきた教会だということを知ったのです。

母は息子たちに模範を示そうと、最初にバプテスマを受けました。宣教師のメッセージと愛にあふれる親切な行いに心を打たれたのです。そして、子供たちに提供できる最高の教育があるとすれば、それは彼らが福音を学び、宣教師になれるようにすることだと考えるようになりました。母はいつも宣教師にこう言っていました。「我が家には8人の男の子がいます。





**沖縄の摩文仁に立つ  
この記念碑には、  
沖縄戦で犠牲となった  
人々の名前が  
記されている。  
2歳で亡くなった姉、  
文子<sup>ふみこ</sup>の名前を指差す  
喜納正兄弟。  
下——  
喜納正長老(右)、  
伝道中の  
バプテスマ会で。  
右下——  
末息子の明長老、  
伝道中に、1972年。**

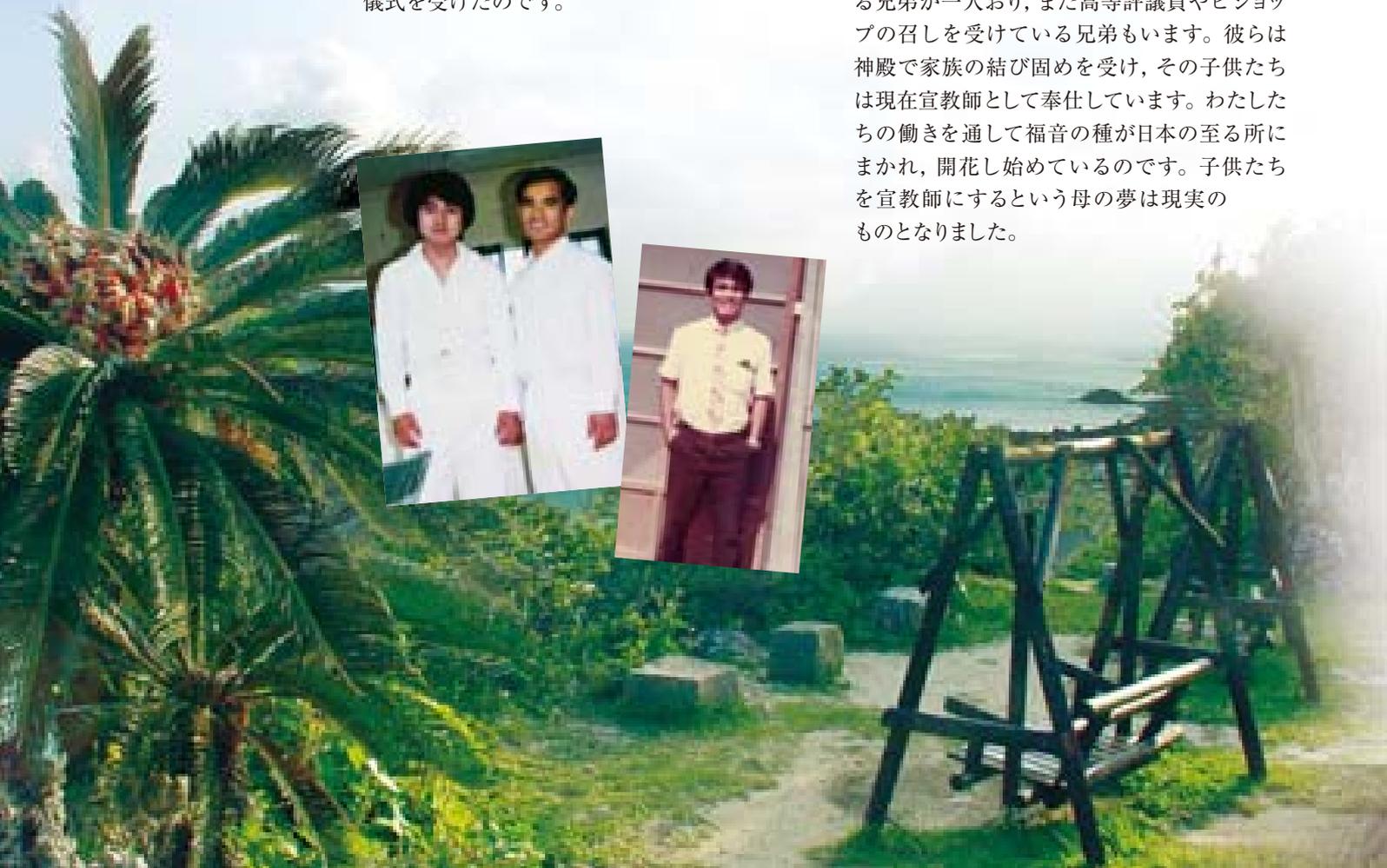
どうぞ我が家を訪問し、彼らに福音を教えてください。8人が全員改宗したら教会の神権者が8人増えます。それに将来皆宣教師になるかもしれません。』

### 宣教師として奉仕する

わたしと兄弟たちのほとんどは母から影響を受け、一人ずつ教会に加わりました。教会に出席し、福音、そして教会の兄弟姉妹たちからの助けを通してわたしたちの生活は変わりました。より善い息子、兄弟となり、以前よりも互いに助け合うようになりました。人生が楽しいものとなりました。わたしを含む兄弟4人は後に日本の様々な地域で宣教師として福音を宣べ伝えました。兄の一人は沖縄を離れて暮らしていましたが、弟の一人が宣教師として立派に奉仕している姿を目の当たりにして、こう言いました。「これが昔あれほど気の荒かった弟だとは信じられない。」それからこの兄は自ら教会に連絡を取り、やがてバプテスマと確認の儀式を受けたのです。

27歳でバプテスマを受けたもう一人の兄は、それまで人生をどのように生きるべきかまったく理解していませんでした。問題を抱え、よく酒を飲んでばかり騒ぎをし、わたしたち家族や周囲の人々に深い悲しみをもたらしていました。この兄が福音を通して人生の目的を知るとバプテスマと確認の儀式を受け、ついには教会のすばらしい姉妹と結婚したのです。兄は人生に喜びを見いだし、生きていることに意義を感じるようになりました。そして友人に福音を伝え、大勢の人々に良い影響を与えました。伝道に出ていた兄弟たちは、この兄が教会に入ったことを聞いてもにわかには信じられない様子でした。

伝道の間わたしと兄弟たちは、主と教会員だけでなく伝道部会長や同僚からも助けを受けました。わたしたちは熱心に働き、御霊の助けによって多くの人々にバプテスマを施し確認の儀式を行うことができました。改宗した人々の中には、現在ステーキ会長として奉仕している兄弟が一人おり、また高等評議員やビショップの召しを受けている兄弟もいます。彼らは神殿で家族の結び固めを受け、その子供たちは現在宣教師として奉仕しています。わたしたちの働きを通して福音の種が日本の至る所にまかれ、開花し始めているのです。子供たちを宣教師にするという母の夢は現実のものとなりました。





2002年に行われた親族会で  
親族に囲まれて座る喜納姉妹(中央)。

### 王国を築く

様々な召しを受け奉仕することを通して、わたしも兄弟たちも霊的に成長しています。教会に加わった兄弟はすべて神殿で結び固めを受け、幸福な家庭を築いています。母はハワイ州ライエ神殿で夫や娘、そして改宗している息子たちと結び固めを受けました。神殿の祝福を受け、回復されたイエス・キリストの完全な福音を実感した母は、それから親戚を訪問し家族歴史の作成に役立つ情報を熱心に探し求めました。また、扶助協会や若い女性の責任を果たし、セミナー教師も務めました。

喜納家族は義理の娘、孫、ひ孫を合わせると全部で66人になります。そのうち51人は教会員であり、10人は帰還宣教師です。孫やひ孫たちもふさわしい年齢になれば次々と伝道に出ることでしょう。わたしたちは福音の祝福にあずかった者が伝道に出るのは義務だと感じています。

これまで喜納家族は次のような召しを果たしています。ステーク会長会(または地方部会長会)2人、高等評議員3人、ビショップリック(または支部会長会)7人、大祭司グループリーダー4人、長老定員会会長会8人、伝道主任6人、扶助協会会長会7人。わたしたちはこのような召しを通して人々に奉仕する機会があることを祝福と感じています。

### 母の証<sup>あかし</sup>

母は子供たちの生活がイエス・キリストの福音を通して良いものへと変わるのを目にして強い証を得ました。母には愛する人々に福音を伝えたいという望みがありました。彼女は宣教師に友人や親戚を紹介し、自宅をよく家庭集会を開きました。このようにして母は50人の親戚を含む多くの人々を教会に導く仲立ちとなりました。

現在90歳になる母はかつて次のように証しました。「一人の母親として、わたしは子供たちが天の御父のもとに戻れるのなら喜んでどんな犠牲も払います。心から愛する子供たちを置き去りにしたまま、自分だけ天の御父のもとに帰れる人がどこにいるのでしょうか。この地上でわたしに与えられている最大の使命は、天の御父から頂いている子供たちをみもとにお返しすることです。」

今、息子であるわたしたちには子供や孫がおり、母の証の意味と価値をよく理解できるようになりました。

福音は真理であり、真理は人々を変えます。福音を通してわたしたちは神の愛と憐れみを理解できるようになりました。教会で多くのすばらしい兄弟姉妹と友人になりました。彼らの模範を通して自分たちが変わることができ、とても感謝しています。わたしたちはこの沖縄で神の手に使われる者として前進し、回復された福音を宣べ伝え、教会や神殿を建設し、シオンの確立に貢献したいと願っています。■

## 「わたしたち」の 選び

教会機関紙に載せるポスターのアイデアを考え出すのは、難しいですがとてもやりがいのある作業です。

この同じ経験を皆さんにもしてほしいと思ったわたしたちは昨年、様々な解釈ができそうな1枚の写真を選び、皆さんにタイトルと文章のアイデアを募集しました。その反響は大きく、世界中至る所から何百という手紙や電子メールが届きました。似たようなアイデアで言い回しもほぼ一緒というものが、同じ日に異なる大陸から届くということもよくありました。結局、この中から最優秀作品を一つだけ選ぶことはできませんでした。

数多く目にしたのは以下の6つのテーマです。

- (家族、友人、教会に)背を向けない。
- 預言者に従う。
- 周りと違うことを恐れない。
- 悔い改め——向き直って正しい方向に進む。
- 正義を選ぶ。
- 福音を分かち合う。

たくさんの作品を見て気づいたことは、皆さんから寄せられたアイデアの多くが、何よりも、正しい選択をするということに関連しているという点でした。そこで、「わたしたち」が選択したのはこのタイトルと文章です。

# 選びましょう

PHOTO: デビッド・テイフロン  
© GETTY IMAGES



善と悪はまさに対極です。  
(2ニーファイ2:27参照)

そして最優秀賞の受賞者は——応募した皆さんです。皆さんは時間を取ってじっくり考え、アイデアを交換し、御霊と相談して真理の原則を見だし、そして紹介してくれました。これこ

そ、「わたしたち」が皆さんと分かち合いたかった経験なのです。■



# 世界指導者訓練集会

教え，学ぶ

2007年2月10日



世界指導者訓練集会の放送内容は、[www.lds.org](http://www.lds.org) でも視聴できます。  
(訳注——日本語はオーディオのみ利用できます)

末日聖徒イエス・キリスト教会

# 教え、学ぶことの原則

ボイド・K・パッカー 会長

十二使徒定員会会長代理

L・トム・ペリー 長老

十二使徒定員会



## 教え、学ぶ

**パッカー会長**——わたしたちのテーマは、クラスと家庭の両方でイエス・キリストの福音を教え、学ぶことです。わたしたち——指導者、教師、宣教師、両親——は皆、明らかにされている福音の教義を教え、学ぶという生涯にわたる課題を主から与えられています。

始めに、L・トム・ペリー長老とともに、良い教授法の根幹となる原則について話し合います。わたしに与えられている割り当ては、教え、学ぶことに

ついてたくさんの教訓を得た個人的な経験を幾つか紹介することです。注意深く視聴するならば、良い教師になるには、進んで学ぶ意欲が必要であることに気づくでしょう。

わたしたちの話し合いの後、ジェフリー・R・ホランド長老が、教えるうえでの備えについて教えます。続いてホランド長老は、クラスで待つ生徒たちとともに、クラスでの教え方を実演します。

どの十二使徒も、この実演を効果的

に行うことができます。それぞれの教え方は異なります。すべての教師、すべての状況に適用する教授法はありません。準備したものをを用いるときや、自分の経験を紹介し、個性を生かし、知識と証<sup>あかし</sup>を伝えるときには、御霊<sup>みたま</sup>の導きが欠かせません。

## 指導者の責任

指導者には、それが評議会や面接、礼拝行事であっても教える責任があります。また、教師が進歩し、会員が生活の中で効果的に福音を学び続けるようにする責任があります。

これらを達成するため、大管長会は2006年11月17日付けの手紙で、ワードおよびステークの教師改善コーディネーターを廃止しました。手紙には「教師改善に関する指導者の責任」リストが添付されています。わたしたちは、この衛星放送で教えられた原則と、手紙に書かれている提案と情報を用いることにより、神権および補助組織の指導者が福音の教え方と学び方をともに協議し、改善することができるよう願っています。必要に応じて開く評議会や面接のほか、教師改善のための特別な集会を開く必要はありません。

この訓練が、イエス・キリストの福音を教えるより良い教師となり、学び手となるうえで助けになるよう祈っています。

## 学ぶ意欲

**ペリー長老**——パッカー会長は、『熱心に教えなさい』(Teach Ye Diligently)という本を著されました。教会ではどのような場でも効果的な教師を必要とします。教師はいちばん大切な召しです。ここでしばらくの間、教会の召しの必要条件とも言える、熱心に教えることについて話しましょう。



この世界指導者訓練集会のプレゼンテーションは、教師や学び手として自分自身を改善するうえで役立ちます。これらのプレゼンテーションからアイデアを見だし、応用するために、各プレゼンテーションの始まりにある黄色いボックスに記されている情報を読んでください。また、プレゼンテーションに出てくる聖句や鍵となる言葉に印を付け、感じたことを書くようにするとよいでしょう。

パッカー会長の最初の話を読んでください。より良い教師や学び手になるうえで助けとなるアイデアを見つけてください。

次の質問について考え、思いついたことや、感じたことを書き出してください。問——家庭や教会で教えるときに、いつも御霊があるようにするにはどうしたらよいだろうか。

パッカー会長が良い学び手となれたのはなぜでしょうか。



**パッカー会長**——セミナーのスーパーバイザーに任命されたばかりのころは、何も分かっていませんでした。それから雇用されて、給与を頂き、各地の教会を訪問して、セミナー教師に正しい教え方を指導したり、誤りを指摘したりするようになりました。わたしはいつも当惑していました。わたし自身も同じことを度々行っていたにもかかわらず、クラスに入って教師がしていることを正していたからです。その経験から多くを学びました。

ハロルド・B・リー長老とマリオン・G・ロムニー長老からはいつも教えを受けました。お二人とも、自分なりの方法で、わたしに何かを伝え、教えようとしてくださいました。お二人がよく教えてくださったのは(わたしが使徒に召されることを御存じだったかどうかは知りませんが)、恐らく、わたしに学ぶ意欲と教わるのを嫌がらない姿勢があったからでしょう。教わるのを嫌がらず、学ぶ意欲があるなら、主は絶えず教えてくださいます。ときには、知りたいと願っていないことすら、教えられることがあります。

偉大な教師である二人からは、よく教えを受けました。ロムニー兄弟に会

うと、よく、「君に教えておきたいことがある」と言われました。それが合図でした。わたしが何かすべきでないことをしていると教えてくださるのです。わたしはいつもその教えに感謝しました。

わたしは早い時期に、年配の人の経験談に耳を傾けることは非常に価値があることを知りました。あるステーク会長は、「偉大な人が来ると聞けば、いつもそこへ行くようにしていた」と言いました。アイダホの小さな町に住んでいたこの会長は、「講演会や特別な行事があるときは、いつも出席するようにした。そこで何かを学べたからだよ」と言いました。

わたしはいつも年配の人と交わりました(今ではわたしがその一人ですが)。十二使徒定員会の中で、リグラント・リチャーズ長老は、ほかの兄弟たちのようには速く歩きませんでした。そのため、わたしはいつも長老のためにドアを開けて、一緒に帰るようにしました。するとあるとき、一人の使徒から、「君は実に親切だ。リチャーズ兄弟を手伝ってくれているんだね」と言われました。でもわたしは、「兄弟は、わたしのほんとうの動機を知らないだけです」と内心思っていました。わた

しは、リチャーズ長老と一緒に帰りながら、いろいろな話を聞いていたのです。リチャーズ長老が生前のウッドラフ大管長のことを御存じなのを知っていましたし、きっと話してくださると思っていました。1対1で教えることは実に力があります。そして誤りを指摘されるときは、たいてい1対1のときです。

もう一つの原則は、早く起きることです(教義と聖約88:124参照)。しかし、そのためには(これが、容易に見えて、難しくもあるのですが)、早く床に就かなければなりません。そして思いが澄んでいる朝に、いろいろ考えるのです。良い考えが思い浮かぶのはこの時間帯です。

これまで、割り当てを受けたにもかかわらず、どうしたらよいか分からないことが何度もありました。昨日も中央幹部の集会に出席しました。最初に話さなければなりませんでした。「何を話したらよいだろうか」と思っていました。しかし、啓示が必ず与えられるという確信もありました。そして実際に与えられました。

### 聖文を活用する

**ベリー長老**——教えるときに聖文を活

用することはなぜ大切なのでしょう。

**パッカー会長**——わたしはいつも聖文に頼ってきました。教える内容である福音を除いて、教えること、また教え方の最高の規範は、主とその教えです。聖典を持たずに説教壇や教室きょうしつに立ちたくないのはそのためです。今日もここにいます。

**ペリー長老**——パッカー会長のそばにはいつも聖典があります。お見かけするときは、いつも聖典を持っていますね。以前、聖典をびしょぬれにしてしまったときの話をしてくださいました。でも、おかげで早く開けるようになったと言われていたのを覚えています。

**パッカー会長**——芝生の上で聖典を読んでいたときに、人に呼ばれて小さなテーブルの上に聖典を開いたまま、忘れて行ってしまったんです。老人の常ですね。そしてスプリンクラーが動き始めました。朝、庭に出て、はっとしました。「50年も愛用してきた聖典がだめになってしまった」と。でも、かえってページが開きやすくなりました。新しい聖典を使うことになったら、読み始める前に、また雨にさらそうかと思っているほどです。

**ペリー長老**——聖文について多くの人から相談を受けます。読み通すことが難しいという人もいます。どうしたら教えるときに聖文を生かすことができるのでしょうか。

**パッカー会長**——まず読み続けることです。モルモン書を読み通そうと決心したときのことを覚えています。10代のころでした。聖典を開いて、「わたしニーファイは善い両親から生まれたので」(1ニーファイ1:1)と読み始めました。章を読み進めるごとに、多くを学びました。読み進めるのが面白く、イザヤ書の章と旧約の預言者の

言葉の所までは続けることができました。数か月後に、再度モルモン書を読もうと決心し、また「わたしニーファイは善い両親から生まれたので」と同じ箇所から始めました。ところが、何回読んでも、イザヤ書の章がつかずになるのです。どうしてこんな所にイザヤ書があるのかと思いましたよ。でもついに、その部分も読もうと決心しました。10代でしたから、字面だけを追って、理解はしていませんでした。とにかくページをめくって、読み通しました。アルマ書までたどりつけば、あとは何とかあります。

肝心なのは、読み通そうと決心することです。小刻みに読むだけでなく、モルモン書、新約聖書、教義と聖約、高価な真珠を、最初から最後まで読むことです。わたしは何年も、夏になると、休暇の間に聖文をすべて読むようにしてきました。記憶をリフレッシュするためです。

### 教える賜物を祈り求める

**ペリー長老**——最近の改宗者の皆さんが初めて教師に召される前に、何かアドバイスがありますか。

**パッカー会長**——「必ず教えることができる」と言いたいです。だれでも教えられます。また、教える賜物を祈

り求めるよう勧告します。モルモン書には、幾つかの賜物が記されていますが、その一つに、御霊によって福音を教えるという賜物があります(モロナイ10:8-10参照)。何年も前にそこを読んだとき、「自分も御霊によって教えられるようになりたい」と思いました。聖文から分かったことは、「求めよ、そうすれば与えられるであろう」つまり、求めなければならないということです。ですから、尋ね続け、求め続けるよう勧告します。「そうすれば見いだす」からです(マタイ7:7, 3ニーファイ27:29参照)。賜物は求めなければなりません。そして必ず与えられます。

### 御霊を求める

**ペリー長老**——教えるときにいつも御霊があるようにするには、どうしたらよいのでしょうか。

**パッカー会長**——ふさわしい生活をして、助けを求める必要があります。親であれば助けを求めますね。また戒めを守り、絶えず祈る必要があります。何をいつすべきかが分かるように、能力と靈感を求めて絶えず祈るので。主がお見捨てになることはありません。「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。」(ヨハネ14:18)「必ず与えられると信じて信仰をもって……求めれば」必ず与えられます(エノス1:15)。一つの聖句は、それがもし正当であればという条件を付けています(モロナイ7:26参照)。福音は実に実用的です。

中には、自分の務めはもう終わったと考えている年配の人もいるかもしれません。あるいは、何をしても緊張するという若者も、子育てで忙しい母親も、余裕がないという父親もいるかもしれ



ません。それでも教えられます。そして祈るなら、導きを受けることができます。皆さんはそうすることができます。主が祝福してくださることを約束します。

主はいつも、人々になじみの深いものを用いて教えられました。例えば、「天国は……網のようなものである」とおっしゃいましたが、これは網をたとえに用いておられます(マタイ13:47)。それから理由を説明されました。「天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。」(マタイ13:45) 種まきのたとえを話されたときも、人々はそれを自分の生活に当てはめることができました(マタイ13:3-8参照)。種まきのたとえの中で、固い土や豊かな土にまかれた種の話をしたとき、その1か月後に、聴衆の中で何かを植えに行った人が、手の中にある種を見て、その教えを生き生きと思い出すこともあったのではないのでしょうか。

たとえ話や物語、絵を使うと、クラスを出た後も、記憶に残ります。そして主の方法は実に簡潔でした。ときには厳しく教えられることもありましたが、常に人々が分かる方法で教えられました。

「教える」ことは神聖な召しです。教師の皆さんにお伝えしたいのは、独りで教えるのではないということです。孤独感を味わう必要はありません。主は聖文の中で約束しておられます。先ほども話しましたが、アルマ書で、主は、すべての国民に、その言葉を使って、そして教師にこう約束されました(アルマ29:8参照)。「熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。」(教義と聖約88:78)

わたしは絶えざる祈りなしに、どうやって福音を教えたらよいのか分かりません。祈りは口に出すこともできま

すが、心の中で祈ることもできます。わたしはグループやクラスを教えるときには、「どうやったら教えられるだろうか」と心の中で祈っています。その祈りの力なしには、どう教えたらよいか分かりません。

### 教える責任

**ペリー長老**——教えることは教会活動の中心を成すものです。会員たちが教えられるよう備える責任はだれにあるのでしょうか。

**パッカー会長**——皆が教師です。導く者も、従う者も、教師です。助言者も教師ですし、両親も教師です。ですから、だれにも、教えたり、教えるの原則を学んだりする責任があります。主は教会を設立し、会員が自分たちであらゆることをするよう定められました。教義と聖約には、「すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語るため」と記されています

(教義と聖約1:20)。わたしたち会員に神権が授けられるということは、何という祝福でしょうか。すべての兄弟は神権を授けられ、姉妹は教会の召しを受けるにふさわしくなります。そして皆が親になるのです。ですから、教えることは、わたしたちが行うすべてのことを中心なのです。

**ペリー長老**——先ほど、家庭で教えることにも触れましたが、教会で教えることと家庭で教えることの違いは何でしょうか。大きな違いがあるのでしょうか。

**パッカー会長**——家庭は、より親密で良い環境にありますし、家庭ではより簡単かつ気軽に、模範によって教えることができます。また、子供にとって多少心に痛いことでも教えます。「どうして」と尋ねられても、ただ「どうしても」と言うことしかできないこともあります。両親も、「それが正しくない」ということを除いては、理由が分からないからです。そして子供たちが理解できるように従順を教えるのです。家庭には、親子の間に力強い愛のきずながありますから、きちんと理解できるようになるまであきらめることもしません。

### 御霊によって教える

**ペリー長老**——クラスでの経験が生徒にとって意義深いものとなるよう、教師はどうやってクラスに御霊を招くことができますか。

**パッカー会長**——まず、教師が生徒を愛しているということ、教えたいと思っていることを生徒が理解する必要があることです。そして生徒のレベルに合わせて話をするのです。生徒の理解できないような事柄や、関連付けるのが難しい福音の話題を採り上げてはいけません。





**ふさわしい生活をして、助けを求める必要があります。親であれば助けを求めますね。また戒めを守り、絶えず祈る必要があります。何をいつすべきかが分かるように、能力と靈感を求めて絶えず祈るのです。**

主はそうはなさいませんでした。主は日常生活の中で、人々とともに歩み、ともに語り、人々に理解できる方法で教えられました。

教師が教えることを生徒は心から学びたいと思っています。10代の子供たちでさえ、いえ、特に10代の子供たちは学びたいと思っています。学ぶことに飢え渴いているのです。

多くの教師が、教える言葉を一言一句準備しないとイケないと考えているようですが、これは必ずしも正しくはありません。その準備には、生徒をレッスンに取り込むだけの柔軟性も含まれている必要があります。また、質問の時間を取ったり、参加させる時間を取ったりする必要もあります。靈感を受けるための余地を作るのです。

聖霊には記憶を助けるメモリープロンプター（訳注——演説などのときに原稿を映し出す機器）があります。教える際に問題に突き当たったら、自分自身や自分が行っていることについて考えてみます。すると、これまで経験したことや、訪れた場所、見てきたものの中に、レッスンに使えるものを見

つけることができます。聖文も間違いなくその一つです。聖文は、教会の規則や規定を調べるための単なる書物ではないのです。

教会で行われているレッスンの多くは、堅苦しすぎるようです。講義のようなレッスンでは受け答えをすることができません。聖餐会や大会では、そのような教え方をしますが、レッスンは質問ができるように双方向でなければなりません。クラスでは気軽に質問するよう勧めることができます。

預言者ジョセフ・スミスの殉教について教えているとしましょう。皆さんは教会歴史クラスの教師で、預言者が1844年6月27日の午後5時にカーセージの監獄で射殺されたことを事前に調べました。もし、預言者が殺害された時間や場所などを質問しても、だれも答えられないでしょう。皆さんだってテキストを読むまでは知らなかったのですから。でも、「どうして預言者は命をささげることができたのでしょうか。皆さんはそのことについてどう思いますか。」と質問することもできます。教師が「どう思いますか」と尋ねた瞬間、

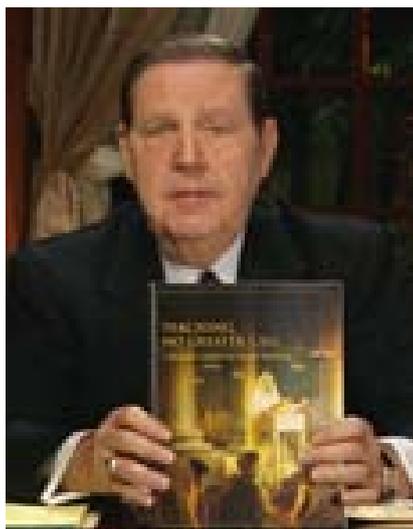
生徒は口を開くでしょう。クラスに貢献できるのです。発言をためらっている生徒でも、何か言いたいことがあるでしょう。そのように質問をうまく利用して、クラス全体を観察し、導くことができます。質問に答えてあげてください。自由に質問をしてください。

持っていなければ与えることはできません。行ったことがなければ、その土地の話ができないのと同じです。だからこそ、御霊を受けていなければならぬのです。■



# 教会で教え、学ぶ

ジェフリー・R・ホランド長老  
十二使徒定員会



## 高い優先順位

本日のテーマの基礎となる、靈感に満ちたお話をしてくださったパッカー会長とペリー長老に感謝します。また、この集会の最後にモンソン管長から締めくくりの言葉を聞けるのを楽しみにしています。

今年の世界指導者訓練放送はすべて、教え学ぶというテーマで行っていますが、これは中央幹部がこのテーマを優先順位の高いものと考えていることを示しています。その理由は明らかです。福音のメッセージ

を伝えることに成功するかどうかは、幸福と救いの約束が実現するように教えられ、理解され、実践されるかどうかにかかっているからです。

そのようなわけで、イエスは昇天される直前に、弟子たちに次のような最後の訓戒を授けられました。

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を〔教え〕、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

あなたがたに命じておいた小さいのこを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(欽定訳マタイ28：19-20から和訳。強調付加)

この言葉の中で救い主が強調されたことは、福音を実践する際にすべきことがどれほど多くあろうとも(実際にとっても多いのですが)、わたしたちは真理を教えられ、福音の道を学び、初めて福音を実践することができるということです。長年ヒンクレー大管長は、教会員、特に青少年や新会員を教会に定着させるよう勧告してきました。わたしたち皆が必要としているのは、友人と責任と

「神の善い言葉」による養いだと大管長は述べています。(モロナイ6：4。ゴードン・B・ヒンクレー「改宗者と若い男性について」『リアホナ』1997年7月号、56も参照)

家庭や教会で受ける靈感に満ちた教えは、「神の善い言葉で」養われるための非常に重要な要素となっています。父親や母親、兄弟や友人として、宣教師、神権者、補助組織の指導者や教師として、その召しを最大限に生かす機会はどこにでもあります。もちろん、今日ここにおられるセミナーやインスティテュートのすばらしい教師もそうです。まだまだたくさん挙げることができます。実際、この教会では、教師ではない人を見つけることは事実上、不可能です。

パッカー会長はペリー長老との話し合いの中でその点を強調し、こう

ホランド長老のプレゼンテーションからあなたが生徒や教師として応用できるアイデアをいくつか選んでください。

ホランド長老のクラスでの話し合いでは、5つの原則に焦点を絞っています。それらの原則について考え、それをほかの人にどのように教えるか計画を立ててみてください。

言葉による説明に加えて、ホランド長老は学び教えることについて、デモンストラーションを通して何を示しているでしょうか。

言いました。「だれでも皆、教師です。」指導者も、弟子も、親も、助言者も教師です。使徒パウロが次のように書いているのはもっともなことです。「神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に預言者、第三に教師と〔さ〕れた。」(1コリント12:28参照)その後、奇跡や霊的な賜物<sup>たまもの</sup>、天からの示現などの祝福が来るのです。

1916年の総大会で、当時まだ若い使徒だったデビッド・O・マッケイ大管長は、教師として召された人々の神聖な特質を強調してこう述べました。「男女を問わず、神の子供たちの教師よりも大いなる責任を受ける人はだれもいない。」(Conference Report, 1916年10月, 57) これは今

でも真実です。

この言葉から、教会のすばらしい教師用手引き『教師、その大いなる召し』の題名が付けられました。だからからも愛されている初等協会の賛美歌「神の子です」は、両親や教師に対するこの願いを歌っています。

わたしを助けて導いて  
いつかみもとへ行けるように  
(『賛美歌』189番)

教えることは、この教会の人々が果たすべき共通の務めであり、共通の責任です。わたしたちは皆、神の子であり、互いに教え合い、道を見いだせるよう、助け合わなくてはなりません。

### 教えるための備え

このテーブルの上に広げた資料をご覧になれば、わたしがレッスンを準備しようとしていることが分かるでしょう。おなじみのものでしょうか。今日のレッスンは皆さんのためのレッスンです。どのようなクラスのレッスンでも、準備は大変ですし、時間がかかります。ですから、早くからレッスンについて考え、計画するようにお勧めします。

例えば、日曜日にレッスンがある場合、1週間前の日曜日に、内容を読み、レッスンについて祈り始めます。そうすると、丸一週間、祈り、靈感を求め、考え、読み、レッスンを生き生きとしたものにする実生活への応用方法を探すことに費やすことができます。あまり早くレッスンを完成させる必要はありませんが、その1週間の間に、驚くほどいろいろなことを考え、導きを受け、レッスンで使いたいと思う事柄を見つけて、準



家庭や教会で受ける  
靈感に満ちた教えは、  
神の善い言葉で  
養うための  
非常に重要な  
要素となっています。



**上——世界指導者訓練集会の中で行うレッスンの  
デモンストレーションに備えるジェフリー・R・ホランド長老。**

**下——ソルトレーク・シティー地域の何人かの会員が  
レッスンのデモンストレーションに参加するためにクラスに招待された。  
レッスンを終えた参加者のコメントが枠内に掲載されている。**

備を終えることができるのです。

準備について話すに当たり、ある誘惑を避けるようにお勧めします。たいていの教会の教師が経験する誘惑であり、少なくともわたし自身が経験した誘惑です。つまり、レッスンの時間内に、または生徒たちの頭に、生徒が消化し切れないほど、あまりにも多くのことを詰め込もうと

する誘惑を避けるということです。この点について、二つのことを覚えておいてください。第1に、わたしたちは人々に、教材それ自体を教えているわけではないということ、第2に、今まで見てきたレッスンの手引きには、割り当て時間内ではとうてい取り扱うことができない量の内容が含まれているということです。

ですから、全部を網羅できないのではないかと心配するのはやめましょう。手引きに書かれたことを何から何まで教えようとしてあわてるよりも、良いアイデアをほんの2、3採り上げ、十分話し合い、学ぶ方がよいのです。今、目の前に広げている教材は、今日割り当てられた時間内に、皆さんにお話しできる内容の3、4倍もの量です。ですから、皆さんと同様、わたしも選択をして、使わないものは別の日のために取っておきます。

クラスの中に主の御霊がとどまるようにしたければ、穏やかな雰囲気<sup>みたま</sup>が絶対に不可欠です。そのことを決して忘れないでください。あまりにも多くの教師が急いでレッスンをしています。まったく不必要な競争をしているかのように時間と戦い、主の御霊を見過ごしてしまっているのです。

### 実演レッスン

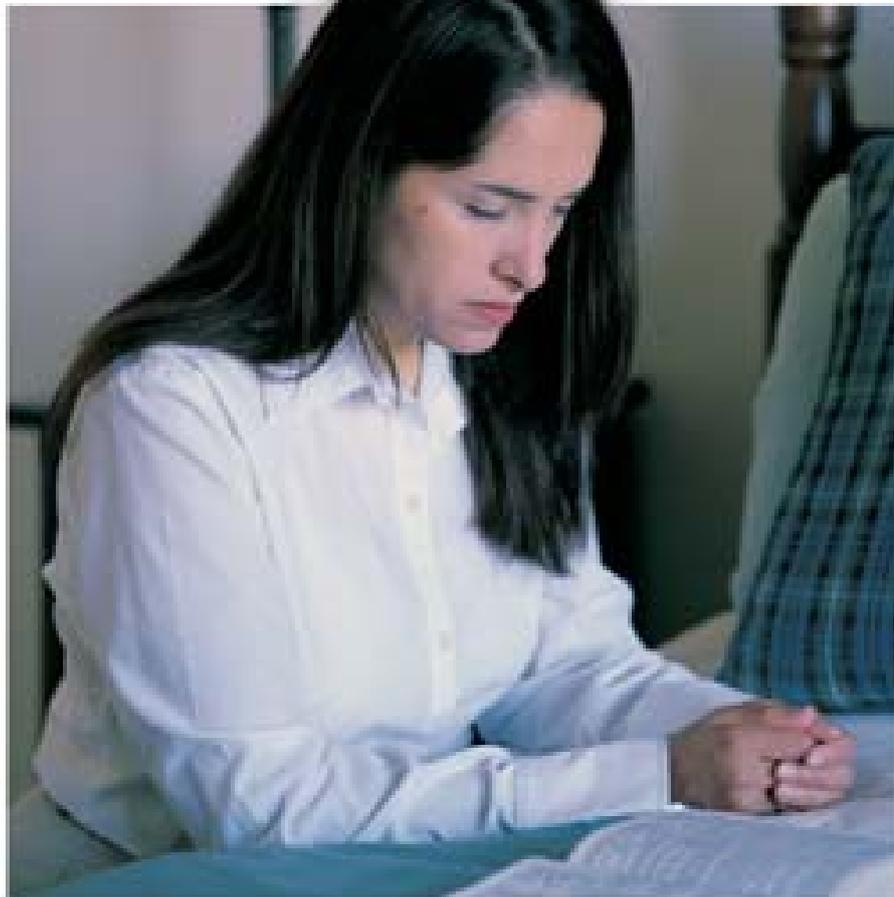
では、パッカー会長とペリー長老とのすばらしい話し合いに戻り、教え学ぶという、この偉大な務めを成功させるための要点を見い出しましょう。そのために、教会本部のこの教室に入り、皆さんが世界各地の自分の教室で行うのと同じようにレッスンをすることにしましょう。皆さんのクラスと同様、リハーサルなしで、自主的に行います。教師は最善を尽くして準備し、祈ります。確かに、わたしはそうしました。生徒もそうです。すでに開会の祈りをしましたので、教える経験をするわたしたちを主の御霊が導いてくださるでしょう。

このクラスへようこそ。このクラスの大きさは大体、平均的なもので

す。皆さんが教えるクラスはもっと大きかったり、小さかったりするでしょう。でも教える原則は、クラスの大きさにかかわらず、本質的には同じです。ここには15人の素晴らしい方々がおられます。16人目は世界中でこの放送を聞いている皆さんです。

皆さんの心に浮かぶ新しいアイデアに注意しながら、耳を傾けてください。それは、ここで話しているこ

**求めれば与えられ、  
門をたたくなら開けてもらえる。  
これならできます。**



とと関係のないことかもしれません。でも、御霊はそのように働きかけるのです。教える方法について、御霊の促しに心を開いてください。そして、忘れないでください。皆さんは教えることができるのです。確かにできます。

### **だれでも教えることができる**

ペリー長老は会話の中で、パッカー会長に質問を投げかけました。「新任の教師にどんなことを話しますか。だれかが新しく召されたら、どんなことをするように助言しますか。」勇気を出して召しを受け入れ、召しを果たし、楽しんでもらうために、どんなことを

言ってこの教師を助けますか。

**チャールズ・W・ダークウィスト 2世兄弟**——「あなたならできます。」

**ホランド長老**——「あなたならできます。」そうですね。だれでも教えることができます。ペリー長老の質問に答えてパッカー会長が言ったとおりです。

彼は、教えることができると約束した聖句を引用しました。聖句はいつも、確信を与えてくれます。思い浮かぶ聖句がありますか。

**ジェンセン長老**——モロナイ書第10章17節です。

**ホランド長老**——モロナイ書第10章17節。モルモン書の最後の章です。賜物<sup>たまもの</sup>についてまとめた素晴らしい聖句です。ジェンセン長老、読んでくださいますか。

**ジェンセン長老**——「これらの賜物はすべて、キリストの御霊によって授けられる。そして、……それぞれすべての人に授けられるのである。」

**ホランド長老**——素晴らしいですね。

**ジェンセン長老**——除外される人は一人もいません。

**ホランド長老**——一人残らず授けられるのです。時々、わたしたちはこう思います。「わたしは別です。ほかの人は皆、教えたり導いたりできるけれど、わたしにはできません。わたしは例外なんです。」そうではありません。これはすべての人に授けられる賜物です。そして、注意しなければならぬことがあります。ジェンセン兄弟、8節の最初の2、3行を読んでください。

**ジェンセン長老**——「さらに、わたしは<sup>ほらから</sup>同胞であるあなたがたに、神の賜物が多いので、これらの賜物を否定しないように勧める。これらの賜



わたしは以前ウルグアイのコロニア・スイーザ支部の会員でした。そこでわたしが受けた最初の召しは、初等協会の会長でした。当時わたしは、まだ13歳で、会長と教師を兼任しました。任命され、テキストを受け取ったわたしの割り当ては、子供たちにレッスンと福音を教えることでした。テキストを開いてみましたが、何をしたらよいか、どのようにレッスンを教えたらよいか分かりませんでした。それで、お祈りしました。「天のお父様、わたしは次の土曜日に子供たちにレッスンを教える必要があります。お父様はわたしを助けてくださいますか。」すると、御霊の影響を感じました。そして、教えることができるようになりました。御霊が教えてくれたからです。」

デリア・ローション姉妹

物は同じ神から出る。」(モロナイ 10:8)

**ホランド長老**——わたしたちは「否定する」誘惑にかられることがあると思います。しりごみするのです。召しが来るとき、または教室に立つとき、それはだれにでもちょっと怖い経験です。心の中でこう言う声が聞こえると思います。「わたしにはできない。賜物があるとは思えない。わたしに賜物があるはずがない。この召しがほんとうに適切な召しだとは思えない。」そのようなことが聞こえると思います。でも、モロナイがここで言っているのは、否定しては

ならないということです。「神の賜物が多いので、これらの賜物を否定しないように勧める。」

**「求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。」**

**ホランド長老**——救い主御自身が弟子に直接言われた言葉が新約聖書の中にあります。それは、聖典の中で最も頻繁に繰り返されている約束と宣言です。似たような聖句が聖典の中に百回も出てくるといった人がいます。1度か2度出てくることについては、わたしたちも1度か2度考えてみるでしょう。でも、20回、40回、60回、80回も出てくるというのは、明らかに主にとって大きな意味があります。

この約束が何であるか分かる人がいますか。

**ビッキー・F・松森姉妹**——「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」という聖句ではないでしょうか。

**ホランド長老**——そのとおりです。松森姉妹、率先して答えてくださったついでに、マタイによる福音書第7章7節を読んでもいただけますか。山上の垂訓の言葉です。この約束が述べられた多くの聖句の一つです。

**松森姉妹**——「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」

**ホランド長老**——ありがとうございます。わたしは、簡潔で明確ではっきりとしたこの約束が好きです。求めれば与えられ、門をたたくなら開けてもらえる。これならできます。

では、ここから幾つかのアイデアを採り上げていきます。中央扶助協会会長会のキャスリーン・ヒューズ

姉妹に、書記をお願いしましょう。まず、今日のテーマですが、パッカー会長がベリー長老との話し合いの中で話されたものです。それは、「教える賜物」です。ヒューズ姉妹、表題として黒板に書いてくださいますか。

教える賜物をどのように生かしたらよいかについて、覚えておくべき事柄を幾つかの項目に分けて書き出してみましょう。松森姉妹が今、挙げたことを、1番にしましょう。霊的な意味で門をたたき、尋ね、求めることです。神がわたしたちに約束されたこの賜物を求めるうえで、教師にとって最も重要な条件だと思えます。

**W・ロルフ・カー長老**——わたしは聖句後半の約束の部分に心を留めることがとても重要だと思います。求めることで、わたしたちは与えられるのです。探すなら、見いだします。門をたたけば、開けてもらえます。

**ホランド長老**——それを黒板に書いておきましょう。ヒューズ姉妹、「わたしたちは受ける」と書いてください。それが約束です。

**オリン・ハウエル兄弟**——そのほかにも、わたしはルカによる福音書第12章12節が好きです。「言うべきことは、聖霊がその時に教えてくださるからである。」

**ホランド長老**——その言葉は、新しい世界を開いてくれます。いつも宣教師に言うことですが、口を開くことが必要です。もし準備をして、最善を尽くすなら、語るべきことを必要なときに神が与えてくださるのです。求め、定められた時に受けるという、まったく新しい、すばらしいアイデアです。とても良い聖句で

すね、オリン。

**タム・スミス姉妹**——わたしは、圧倒されるように感じる事が時々あります。わたしは改宗者ですが、開拓者時代の先祖を持つ人々を教えるように頼まれ、自分では言いたくないようなことを言うように御霊の導きを受けることがあります。出エジプト記第4章12節には、「それゆえ行きなさい。わたしはあなたの口と共にあって、あなたの言うべきことを教えるであろう」と書かれています。すべての答えが与えられていると感じていなくても、もしわたしたちが御霊の導きに従って、これらのことを進んで話すなら、天の御父がわたしたちを通して語られるのです。

**ホランド長老**——何とすばらしい聖句でしょう。このテーマについて、長年話し合ってきましたが、その聖句が使われるのを聞いたことがありません。ほんとうにありがとう、スミス姉妹。その言葉は、モーセがイスラエルの民を助けて人生の悩みから解放されるようにするという圧倒されるような任務を託されたときに受けたものです。それは、わたしたち皆が直面する問題です。「心配するな。それは与えられる」というすばらしい聖句です。引用して下さってありがとう。

そのような問題を教えるときには、これらの聖句を覚えておいてください。これらのほかにも、たくさん良い聖句があります。

### 聖文から教える

**スティープン・E・スノー長老**——教師の召しを受けたとき、わたしたちの多くは召しの大きさに圧倒されてしまい、自分はふさわしくないし、準備ができていないと感じます。で

も、最善を尽くして与えられた資料を勉強し、聖文を研究した後、ただ御霊に頼れば、いつも助けを得られます。わたしたちが時々圧倒されてしまうのは、十分に知らないためです。

**ホランド長老**——そのとおりです。皆、そう感じる事ががあります。教師の経験のある人は皆、そうです。わたしたちは皆、協力して、良い教材を人々の手に渡せるよう、教会全体で努力しなくてはなりません。教会にはほんとうに良い教材があります。良いレッスンの手引きがあります。手引きがあれば、レッスンができるというわけではありませんが、教師は自分独りではないという大きな安心感が得られます。教師は一から準備する必要はありません。すばらしい資料があります。その点については、今日これからもお話ししますが、わたしたちは圧倒されるような気持ちにならなくてもよいのです。

パッカー会長はペリー長老との話の中で、こう言いました。「説教壇に立つときでも、クラスの前に立つときでも、いつもある物を頼りにしている」と言ったのですが、どこへ行くにも持って行ったというのは、何だったのでしょうか。

**ジュリー・B・ベック姉妹**——聖典です。

**ホランド長老**——聖典、そのとおりです。ヒューズ姉妹、2番として「聖典から教える」と書いてください。

これは、教会で教えるというわたしたちの役割の中で、強調しすぎることも、過大評価しすぎることもありません。明らかに、聖典は福音のまさに本質であり、わたしたちはそれを教えるよう召されている者だからです。初等協会から成人クラス、

青少年クラスなど、教会で教える場合であろうと、家庭で教える場合であろうとそうです。アルマ書第31章に記された力強い言葉を思い出します。このことについて、わたしの大好きなこの聖句ほどはっきりと述べている聖句はほかにないと思います。

アルマは非常に重大な務めを果たさなくてはなりません。それは、ゾーラム人に伝道するという困難な仕事でした。彼はコリホルと話しました。アルマは教え、証あかしをするというこのチャレンジを克服するうえで頼るべき力を見いだしました。

和田兄弟、アルマ書第31章5節を読んでいただけますか。



「ある日曜の朝のことが忘れられません。わたしたちはケニアのアーチ・リバーという所にいました。そこで、ある若い男性が立って、聖典

けを用いて聖餐せいさん会の話をしていました。とても力強い話でした。彼はまだ15歳くらいでした——16歳以上ということはないはず。わたしはずっとほほえんでいました。そしてこう思いました。『何てすばらしいことでしょう。この若い男性がキリストのことを証あかしし、話し、説教するのをすべての人が聞けたらいいのに。』」

キャスリーン・H・ヒューズ姉妹



聖典は福音のまさに本質であり、わたしたちはそれを教えるよう召されています。

**和田貴志兄弟**——「ところで、御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思います。」(アルマ31：5)

**ホランド長老**——ありがとうございます。年を取るにつれ、わたしはこの聖句が好きになりました。皆さんもよく読む聖句があるでしょう。わたしはこの聖句を何度も読みます。「御言葉を説き教えること」つまり、御言葉の力は、「民に正しいことを行わせるのに大きな効果があります。それは「剣……よりも民の心に力強い影響を及ぼした」のです。モルモン書には剣が実際にたくさん使われたことが書かれています。「剣やその

ほか」のものが、あらゆる戦いや争い、苦難に際して使われました。だからこそ「アルマは……神の言葉の力を使うのが望ましいと思った」のです。

ここでは、力という言葉が使われています。新約聖書で女がキリストの衣のふさに触ったとき、主はこう言われました。「力がわたしから出て行った……。」(ルカ8：46) 同様に新約聖書のギリシャ語の原本でも、力を意味する言葉が使われています。

アルマが言っているように、わたしたちは神の言葉の力を使うべきです。とても力強い効果があるからです。

**和田兄弟**——だれでも皆、何かを学び、成長するために教会へ来るのだと思います。ヤコブ書から一つ、聖句を読みたいと思います。ヤコブ

書第2章8節です。「あなたがたの妻子は、喜びをもたらす神の御言葉、まことに傷ついた心を癒す御言葉を聞こうとして、ここに来たことと思う。」レッスンを教えた後で、だれかに「これはまさしく聞いたかったことです。わたしに必要なレッスンでした」と言われると、レッスンをしよかったです。

**ホランド長老**——とても重要な点ですね。ありがとうございます、和田兄弟。人々が教会へ来るのは、霊的な経験をするためです。わたしたちが教会へ来て、集会に出席するのは、神の言葉を聞き、教会の声明について学び、人々の証や確信、御霊のささやきに耳を傾けるためです。苦難に遭い、癒される必要があるとき、この世が与えてくれるものだけでは十分ではありません。神の言葉によって癒されるのです。



「あるとき、6歳の孫娘と一緒に座っていると、孫娘が言いました。『わたし、聖典の勉強の仕方を習いたい。』わたしは思いました。

「まだ6歳の子に聖文から力が得られるかしら。」そこで言いました。「ニーファイ第1書第1章を開いて、読んで、分かったところや、大切だと思うところがあったら、線を引いてごらんください。何か言いたくなったらそれも書いてね。」こうしてわたしたちは最初の節から始めました。「わたしニーファイは善い両親から生まれた」孫娘は読むのをやめて言いました(1ニーファイ1:1)。「わたしには善い両親がいるわ。」孫娘は最初の行から好きな聖句を見つけました。そして聖典に線を引いて、言ったのです。「わたし、バプテスマを受ける前にモルモン書を読み終えるわ。」その後、孫娘は「書いてあることが何も分からない目もある」と言っていました。初めてモルモン書を読もうとして最初の節を読んだときの経験は、孫娘にとって力強いものとなりました。」

ジュリー・B・ベック姉妹

**松森姉妹**——初等協会の教師はたいてい、神の言葉から子供たちに教えることはとても難しいと感じています。子供たちは字が読めませんし、自分の聖典を持っていません。家族が聖典について教えていなければ、聖典に親しんでいないのです。難しい問題です。

**ホランド長老**——そうですね。初等協会の経験豊かな教師から少し注意を促されました。わたしたちはあらゆる成長段階の子供たちを教え導かなくてはなりません。子供たちは成長する必要があるのです。良い点を指摘してくれました。

**ダークウィスト兄弟**——若い男性と女性についても同じです。理解しようとするなら、ニーファイが言ったように、御言葉を応用し、自分の生活に結びつける必要があります。

**ホランド長老**——自分自身に当てはめる必要があるのです(1ニーファイ19:23参照)。

**ダークウィスト兄弟**——聖句を生活に生かす必要があります。

**ホランド長老**——ええ、わたしたちにはたくさんの経験があります。家庭での経験、セミナーやインスティテュートでの経験などです。若い男性や若い女性については時間をかけて成長させることです。時間がかかるかもしれませんが、焦ってはいけません。

**ジェンセン長老**——これまでは4つの標準聖典のことをおもに話してきましたが、聖典はほかにもあります。

**ホランド長老**——はい、生ける預言者のことですね。

**ジェンセン長老**——教会には良いテキストがあります。それに、機関誌やお話もあります。それらには力強い働きがありませんか。

**ホランド長老**——生ける預言者の言葉や、年2回の総大会の放送、教会出版物などがあります。わたしたちが手に入れることができる神の言葉はたくさんあります。それらを活用しなくてはなりません。

**キャスリーン・H・ヒューズ姉妹**——しかし、わたしの頭に浮かぶのは、「なぜ」という問いです。オクス長老が別の説教で指摘したように、教師用手引きはあるけれど、なおざりにすることがよくあります。教師用手引きよりも、自分が教えたいことを教えるのです。なぜ教師たちはそうするのでしょうか。教師用手引きはわたしたちを向上させるためのものだというを兄弟姉妹に理解してもらうには、どうしたらよいでしょうか。

**ホランド長老**——それは、良い指摘です。ジェンセン長老の意見にも通じますね。皆さんのすばらしい意見や見解を伺って、御言葉の力について新たな理解の目が開かれ、癒しと助けと光を感じています。かつてパッカー会長が十二使徒定員会に語った話を思い出しました。ユタで大雪が降り、シカの群れが谷の低い場所へ追いやられ、わなにかかりました。自然の生息地から外へ出て、障害や苦境に遭ったのです。シカを救おうとした人々が干し草を持ってきて、あちこちに置きました。そうした状況の下で、できるかぎりのことをしました。

ところが、後に非常に多くのシカが死んでいるのが発見されました。調査報告によれば、シカの胃の中にはたくさんの干し草がつまっていますが、シカは餓死したというのです。シカたちはえさを与えられたのですが、養われることはなかったの



「教えているときに、わたしたちは時々、御霊みたまによってしなければ、御霊によって教えなければ、聖句を用いなければ、と  
思うことがあります。

でも、わたしの経験では、教師が教えていることと生徒が必要としていることを結びつけてくださるのが御霊のように思います。ですから、時々生徒がわたしのところに来て、こう言うことがあります。「姉妹、あの言葉を言ってくれてありがとうございます。」でもわたしは内心「いつそんなことを言ったのかしら」と思うのです。その人はほんとうは主の言葉を聞いたのではないのでしょうか。わたしはただ、聖文を通して、御霊を通して、生徒が必要としていたメッセージを受けられるような環境作りをしただけなのです。」

デリア・ローション姉妹

#### 高い所から教えを

受けなければなりません。

わたしたちは器であり道具です。

わたしたちの舌や口を通して語る教師は

高い所におられます。

です。すべての教師が忘れてはならないことは、「神の善い言葉で養」わなければならないということです。そして、教師も養われるのです。それは、教師の喜びの一つであり、神の言葉に焦点を絞って教えるときに得られる祝福です。

#### 御霊によって教える

ヒューズ姉妹、3番目に「御霊により、御霊とともに教える」と書いてください。

主の御霊がほんとうの教師です。そういうわけで、先ほどこう述べた

のです。「心の耳、霊の耳を傾けてください。話していることとかかわりのない思いや促しを感じることもあるでしょう。」それは非常に個人的なこと、家庭のこと、結婚や子供のこともかもしれません。それが御霊であり、ほんとうの教師です。

教義と聖約第43章16節に、「あなたがたは高い所から教えを受けなければならない」という聖句があります。わたしたちは器であり道具です。わたしたちの舌や口を通して語る教師は高い所におられます。

お互いに少し知り合い、親しくなることは、良いレッスンをするうえで役立ちますので、オリン・ハウエルを紹介しましょう。

オリン、あなたはいつ教会に入りましたか。

**ハウエル兄弟**——1996年6月です。

**ホランド長老**——ハウエル兄弟、1996年に、どこで教会へ入ったのですか。

**ハウエル兄弟**——ボスニアです。

**ホランド長老**——ハウエル兄弟、ボスニアで何をしていたのですか。

**ハウエル兄弟**——当時、軍隊にいました。

**ホランド長老**——軍隊ですか。ボスニアのどこでバプテスマを受けましたか。

**ハウエル兄弟**——トゥズラです。ロシア風の酒場を改造した礼拝堂で、戦車のエンジンカバーを持ち込み、引っ繰り返して、バプテスマフォントに使用しました。

**ホランド長老**——この素晴らしい若者は、軍隊でほかの末日聖徒の生活に感動し、福音の証を受けて、バプテスマを望んだのです。そして、戦時中の改造された礼拝堂で、戦車のエンジンカバーを外して、引っ繰





「究極の安心は、主のささやきから得られます。自分は主の御手に使われる者であるというささやき、自分の

クラスは主のクラスであり、主の教会であり、主の民であるというささやきです。その御霊に誠実に応じてください。一般的に言って、教科課程は、その年度の月々の枠組みと方向性を示してくれます。しかし、準備したものをいつでもわきに置いて、主のささやきに応じるのでなければ、主の御手の中にある教師としての期待にこたえてはいないのです。ですからわたしたちはこう言わなければならないのです。『今がその時だ。今こそ教える時だ』と。」

「親はいつもこのような状況に直面します。親は教える好機を逃さないようにする必要があります。同じ好機は二度とは訪れないかもしれないからです。わたしたちは、最善を尽くして準備をしておく必要があります。そして、主がクラスの中で予期せぬ機会を与えてくださることを信じるのです。主が導かれる所ならどこにでも行く備えをしておく必要があります。」

ジェフリー・R・ホランド長老

り返し、バスタブのようにして水を入れ、バプテスマを受けたのです。オリン、そのような状況で、だれがあなたを教会員として確認したのですか。

**ハウエル兄弟**——あなたです、ホランド長老。

**ホランド長老**——わたしは1996年の夏、ボスニアのトゥズラで、オリン・ハウエルを教会員として確認するすばらしい特権に恵まれました。生きるか死ぬかというような戦時中の状況で、このすばらしい若者がバプテスマを受けたのです。現在、彼はここソルトレーク盆地で大祭司として教会に忠実に奉仕しています。今日は、このクラスの優秀な生徒の一人として参加していただいています。経歴を紹介してくれて、ありがとうございます。クラスの人たちが、お互いに少し知り合うことができました。

では、ハウエル兄弟とともに、「御霊によって教える」ことについて勉強しましょう。第50章を開けてください。宣教師に対して、真剣に、そしてしばしば使う聖句ですが、同様に、わたしたち皆が使うべき聖句です。ハウエル兄弟、教義と聖約第50章13節を読んでいただけますか。

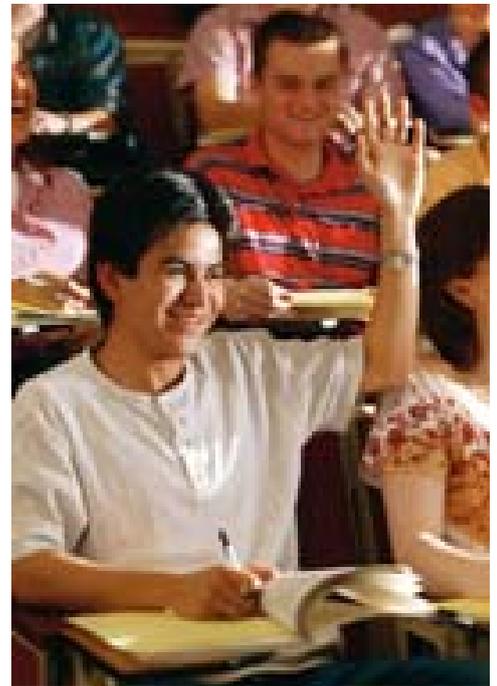
**ハウエル兄弟**——「それゆえ、主なるわたしはあなたがたにこう尋ねる。すなわち、『何のためにあなたがたは聖任されたのか。』」

**ホランド長老**——では、より広い目的へ焦点を少し移して、聖任を召しに置き換えてみましょう。聖任は神権に関する用語です。ここでは、教えるという一般的な召しについて話しますので、こうなります。「それゆえ、主なるわたしはあなたがたにこう尋ねる。すなわち、『何のためにあなたがたは〔召され〕たのか。』」

では、ハウエル兄弟、14節の答えを読んでください。

**ハウエル兄弟**——「御霊、すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって、わたしの福音を宣べ伝えるためである。」

**ホランド長老**——聖句の明確な言葉によって、これから話し合おうと



**リチャード・G・スコット長老は、セミナーとインスティテュートの教師にこう話しました。**

**「生徒が選択の自由を使うと、聖霊から教えを受けられるようになります。そうすると、生徒は教師のメッセージをより良く記憶できます。」**

していることや、すでに話したことが明らかになります。それは、ほんとうの教師は御霊だということです。わたしでもなく、皆さんでもありま

せん。わたしたちは皆、ほんとうの教師である聖なる御霊と天の導きを受けける器になる必要があります。「御霊、すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって、〔主〕の福音を宣べ伝え」なければならないのです。

次に、警告の言葉です。もしわたしたちがほかの方法を取ろうとしたら、どうなるでしょう。御霊を受けずに、あるいは御霊に心を向けずに、御霊を受け入れずに教えようとしたら、どうなるのでしょうか。そのような教え方を主はどのように判断されるのでしょうか。

マッキー姉妹。18節を読んでいただけますか。

**マリツァ・マッキー姉妹**——「もしもそれが何かほかの方法によれば、それは神から出てはいない。」

**ホランド長老**——もう一度読んでください。力強い聖句です。

**マッキー姉妹**——「もしもそれが何かほかの方法によれば、それは神から出てはいない。」

**ベック姉妹**——「本や教師用手引きを勉強し、レッスンの概要をまとめ、計画を立てても、それを教えられないということでしょうか。準備したものをわきに置いて、御霊の導きに従わないといけないのでしょうか。」

**ホランド長老**——わたしが答える前に、どなたか意見がありますか。もっともな質問ですね。

**ダークウィスト兄弟**——教えているときに、準備したものを使わないように御霊がささやく、ということではないと思います。レッスンの準備を始めたときや、レッスンをまとめている段階で、御霊がささやくのです。総大会のときと同じです。

総大会はわたしたちの生活を変える素晴らしいものですが、たくさんの準備が行われています。

**ホランド長老**——ほかに意見はありませんか。教師が果たす役割は何ですか。御霊が果たす役割は何ですか。

**ベック姉妹**——わたしは十分に準備をします。でも、クラスのだれかがその週に何らかの問題に直面していた場合、レッスンの強調点が大きく変わります。レッスン中に心に浮かぶことを話したり、別の聖句を使ったりするよう導かれるときに、それらを自分の準備したレッスンにどのように取り入れればよいか、どうしたら分かるのでしょうか。

**ホランド長老**——それはとても良い質問です。どの教師も直面する問題です。

**カー長老**——重要なことは、準備し、心の中に蓄えたことにこだわらず、計画に縛られないことです。準備したことを心に留めながら、御霊の促しに心を開くことです。

**ホランド長老**——なるほど。両方を生かすのですね。クラスへ来て、「わたしは準備をしていますが、御霊が導いてくれます」と言うのは、正しいことではありません。他方、準備したことにこだわり、レッスンが始まった後に、レッスンの中で感じる促しを受け入れないのは、逆の極端な態度です。

ベック姉妹はこの二つを調和させるよう、わたしたちの考えを方向づけてくれました。準備をしたうえで、御霊に心を開き、レッスンをする瞬間に、進むべきところへ進む自由を持つのです。

**スノー長老**——クラスの生徒はそれぞれ、御霊から幾らか異なる導き

を受けて帰宅します。そのことを理解しなくてはなりません。御霊の導きは、とても重要です。でも、このような素晴らしい話し合いがクラスで行われたときに、教師が次のように言うのを聞いたことがある人は多



「わたしは二人の宣教師とともに教えに行ったとき、素晴らしい模範を目にしました。彼らは5番目のレッスンを教えてい

ました。一人の宣教師はドイツ人で、伝道地の言語を流暢に話しました。伝道に出てかなりの月日がたっていたのです。もう一人は、伝道に出たばかりの宣教師で、5番目のレッスンを教えたのはその日が初めてでした。

わたしは二人を見守りました。一人は自信に満ちた素晴らしい宣教師でした。自信をもって教えています。もう一人はレッスンプランに少々頼らなければなりません。しかし、座って二人を観察していると、二人とも御霊をもちました。このことから、わたしたちがどこにいても、自分の本分を尽くしているなら、教師のレベルの違いはどうであれ、御霊はささやいてくれるということが分かりました。これは素晴らしい教訓でした。」  
チャールズ・W・ダークウィスト2世兄弟

いでしょう。「これはとても良い話し合いですが、そろそろレッスンを閉じなければなりません。」

**ホランド長老**——そうですね。よくあることです。

**スノー長老**——そうすることで、機会を逃してしまうことがあります。

**ホランド長老**——そうです、確かにそうです。それが現実です。導きを受けたら、その瞬間に機会をとらえるために、導きに対して敏感になるよう自分を高めることを学ばなくてはなりません。

**ヒューズ姉妹**——これはわたしにとって、とても興味深いけれど、ちょっと困った問題です。わたしたち教師は、自分が御霊とともに教えているかどうか、どのようにして分かるのでしょうか。わたしには分かりません。教えるときに、常にその確信があるか、よく分からないのです。

**ホランド長老**——どなたか意見がありますか。自分が御霊によって教えているという教師の確信とは何でしょうか。何かそれを示すものがありますか。それとも、はっきりと分からなくても、御霊の導きを受けているという信仰と希望をもってひたすら教えるべきでしょうか。

**ジェンセン長老**——わたしも同じ疑問を持つことがあります。少なくともわたしは、そうではないと思います。もう一度、教義と聖約第50章21節と22節を読んでみましょう。

「それゆえ、真理の御霊によって御言葉を受ける者は、真理の御霊によって宣べられるままにそれを受けるということを、あなたがたが理解して知ることができないのはなぜか。

それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」

**ホランド長老**——ヒューズ姉妹、少し喜ぶことかもしれません。心に喜びを感じるなら、それが少なくとも一つのしるしと言えるでしょう。

**ジェンセン長老**——教師は高い所から話し、生徒の参加を求めないことがないでしょうか。その聖句に関連した引用文をわたしはいつも使っているのですが、今日の話合いから、その言葉を改めてすばらしいと思いました。これはスコット長老が教会教育システムの訓練集会で教えてくれたことです。「参加を活発にさせるようにしてください。生徒が選択の自由を使うと、聖霊から教えを受けられるようになるからです。そうすると、生徒は教師のメッセージをよりよく記憶できます。生徒が真理を言葉で表すと、その真理を心で確認し、個人の証を強めることができます。」(リチャード・G・スコット、*To Understand and Live Truth* [教会教育システム宗教教育者に向けた説教、2005年2月4日]、3)

**ホランド長老**——すばらしいですね。マリオン・G・ロムニー管長の言葉を思い出します。「御霊の影響により話したときは、いつも分かります。知らなかったことを何か学ぶからです。」教師は教えますが、突然、それまで考えたこともない事柄を語ったり考えたりします。あるいは、前に考えたことがあったとしても、そのことから新たな喜びや力を感じるのです。これらが御霊により教えられているかどうかを見分ける方法かもしれません。

確かに分からない場合が多いですね。わたしたちは最善を尽くします。そして、こうした経験や教会でのほかの経験を通して、人々の心の中にたくさんのが今起こり、あるい



「40分のレッスンが終わって、生徒がドアから外に歩いて出て行き、「ああ、すばらしいレッスンだった」と言うようであれば、わたしたちは成功しているとは言えないと、はっきり申し上げます。ドアを出て行く生徒の心にも何が残っていないなら、わたしたちは、究極的な意味で教えることに失敗しています。すなわち、教えが継続するという意味で、失敗しているとわたしは考えます。わたしたちの指導は、とても刺激的で、霊的に快く、新鮮で、興味深いために、生徒たちがこう思うようではありません。『とても印象深かったので、それについて今日の午後も、明日も、来週も、来月も考えるつもりです。』

このようにして、わたしたちのレッスンに命が吹き込まれ、新しい思いをもたらすようになるのです。

教室でのパフォーマンスは、それ自体が目を見張るほどおもしろい場合には、特に危険です。45分間パフォーマンスを楽しんだ生徒はこう言うでしょう。「来週もここで楽しませてもらうのが待ち遠しいよ。」そして、その後の1週間、1か月間を通じて、教わった教義の本質についてはまったく考えずに過ごすのです。」

ジェフリー・R・ホランド長老

は将来起きよう望んでいます。でも、そのことに気づかないかもしれません。

教師の神聖な召しの一つは、御霊の器になることです。できるかぎり

霊性を高め、献身的に努力すれば、個人的な啓示という奇跡が起きるでしょう。そう考えると、教えること、教師になることは大きな喜びですね。

### 学ぶ責任

項目4——「生徒が学ぶ責任を引き受けられるよう助ける。」

初めてのクラスを教えることになったら、どうしますか。うまくレッスンが進まなかったらどうですか。生徒が「あなたに教えてもらうのは嫌です。だから、うつむいて座り、靴を眺めていることにします。あなたを見るときは、にらみつけます」とでも言うような態度を示したらどうでしょう。いつもそうとはかぎらないでしょうが、わたしはそのようなクラスを持ったことがあります。皆さんも、生徒が学ぶ準備をしていない状況で教えたことがあるでしょう。そのような生徒を助けるにはどうしたらよいでしょうか。

**バック姉妹**——時々、よく考えて質問を用意します。こういうことが言えると思います。生徒は質問をすればするほど、学ぶことに身を入れます。

それで、思い浮かぶのは、ジョセフ・スミスのことです。彼はヤコブの手紙の聖句を読み、心に疑問が浮かびました。「どうしたら分かるだろう。ほんとうに分かるだろうか。この問題を解決しなくては、いつまでも分からないだろう。」彼は学びたいという気持ちで神に尋ねました。でも、これは教師として難しいことです。つまり、わたしが質問するのではなく、生徒が質問するように助けることです。聖霊が生徒を教えることができるようにするためです。

**ホランド長老**——わたしが教会で

よく使う本の一つに、ブリガム・ヤング大学時代の旧友の教授が書いた本があります。デニス・ラスムッセン教授の『主の質問』(The Lord's Question)という本です。主はいかによく質問を用いて教えられたかが書かれています。例えば、アダムの時代、「あなたはどこにいるのか」と質問されました(創世3:9)。主はアダムがどこにいるかを正確に御存じでしたが、アダムが自分はどこにいるのかを知っているかどうかをお知りになりたかったのです。だから、「アダム、あなたはどこにいるのか」と質問をされたのです。「わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか」という質問もそうです(ルカ2:49)。救い主は生涯の中で、質問によってお教えることが多くありました。数えた

ことがないのでどれくらいあるかは分かりませんが、教義と聖約の非常に多くの啓示が、預言者や中央幹部が主に尋ねた質問の答えとして与えられています。確かに、バック姉妹の指摘のとおりです。

**松森姉妹**——子供について、この問題で少し頭を痛めています。パッカー会長は自らも学びたいと言われましたが、率直に言うと、「生徒は学ぶ責任を引き受けるべきである」という考えは高度な概念だと思います。特に小さな子供には難しいです。初等協会の教師はどうしたらよいでしょうか。

**ホランド長老**——とても大事な点ですね。教師をしていて、そういう問題にぶつかったら、どうしますか。レッスンをしないわけにはいきません。ところで、これは4番にしま

**生徒から質問を引き出せば引き出すほど、生徒はもっと意欲的に学ぶようになります。**



しょう。少し上級の概念だからです。でも、あまり十分に話されていないのではないのでしょうか。松森姉妹の質問について話しましょう。子供やセミナーの生徒、14歳のアロン神権者やマイアメイドなどの生徒は時折、関心がないか、少なくともそのように振る舞います。実際は、幾らか関心はあるのでしょうかね。そういう状況にどう対応しますか。どうやって彼らを助けますか。

**和田兄弟**——生徒は教室で学んで即座には理解しない場合もあり、レッスン後に教室の外で学ぶこともあります。わたしが教会について学んでいたとき、宣教師が教えてくれたことを1週間もたってから改めて考えていて、こう言ったことがあります。「あっ、そういうことなんだ。」ですから、教室で教えるその瞬間に理解してもらわなければならない、と考える必要はありません。

**ホランド長老**——とても良い指摘です。1週間または必要なだけ長く、主の御霊が働き続けたわけですね。

これは教会の求道者の典型的な例です。何時間も何日も、つまり宣教師が去った後、次のレッスンまでずっと御霊の働きが続くことが望ましいですね。

**和田直美姉妹**——時々子供たちからの質問が多すぎて、わたしが準備してきたたくさんのお話や視覚資料を使い切れないことがあります。質問に答えるのに忙しいからです。それでいいのでしょうか。レッスンを単純にして、一つのテーマに的を絞って教えるように努めています。そうすると、少なくとも子供たちは満足してくれます。

**ホランド長老**——いいですね。わたしが冒頭で述べたことを上手にま

とめてくれました。たくさん盛り込まないことです。初等協会に限らず、子供は、それに大人も、一つのアイデア、原則、和田兄弟が1週間後に分かった真理など、一つでも理解すれば、それで十分価値があるのです。だから、安心してください。心配はいりません。

**カー長老**——和田姉妹が言われたことで、目からうろこが落ちました。教室が活気づくには、子供でも大人でも、質問をするときではないでしょうか。

**ホランド長老**——反応があるということですね。

**カー長老**——生徒は考えているということです。

**ホランド長老**——生徒がまだ参加してくれない状況で、教師に負担がかかっている場合、どうしたらよいのでしょうか。

**ブルース・ミラー兄弟**——レッスンを何としてでも進めるべきでしょうか。それとも、レッスンをやめて、御霊を招くようなことをすべきでしょうか。開会の賛美歌を歌い、祈り、霊的な話をした後でも御霊が感じられない場合、レッスンを中断して、「御霊の導きを得るにはどうしたらよいのでしょうか」と言うべきでしょうか。

**ホランド長老**——どなたか意見はありませんか。

**スノー長老**——長い時間がかかると思います。最初のレッスンでは難しいでしょう。でも、最善を尽くした後、御霊の働きがあって、全員が参加する瞬間が訪れると思います。そのときこそ、レッスンを中断して、こう言うのです。「今、何が起きているか、分かりますか。クラスが変わったのが分かりますか。」



「忍耐強くあってください。そして何より、御霊を失わないでください。レッスンを熱心に教えていても、生徒がついて来ない

と思えるときがありますが、そのようなときでも、どういう形であれ、生徒を傷つけたり、怒りをあらわにしたり、落胆したりしてはなりません。わたしたちは忍耐強く、愛に満ちていなければなりません。わたしたちが思っているよりも、はるかに大きなことが生徒の心に起きているのです。」

ジェフリー・R・ホランド長老

**ホランド長老**——先ほどヒューズ姉妹がこうおっしゃいました。「御霊とともに教えているかどうか、どのようにして分かるのでしょうか。」ミラー兄弟が質問されたことですが、反応のない生徒を前にして、どうすべきか、どうしたら分かるのでしょうか。生徒にとっても教師にとっても大事なものは、どう感じているかです。主がともにおられ、主があなたを愛しておられ、あなたは最善を尽くしたと感じるのでしょうか。主は生徒を愛しておられるのでしょうか。わたしたちが福音の心を持ち、互いに愛し合うなら、そこが出発点です。反応を示さない生徒には教えることはできないかもしれませんが、愛することはできます。そして、今日、愛することができるなら、明日は教えることができるかもしれません。

それはわたしたちの力で十分できることだと思います。愛することは相手に左右されません。終始、生徒を愛するなら、皆さんが話しておられる奇跡が起きるでしょう。

教師が生徒から質問してもらいた

いのなら、今、ここでしたように、多少、行動を促さなくてはなりません。こちらから質問を投げかけて、反応を見るのもよいでしょう。生徒を参加させるためには、話し合いの流れを作っておけばよいのです。

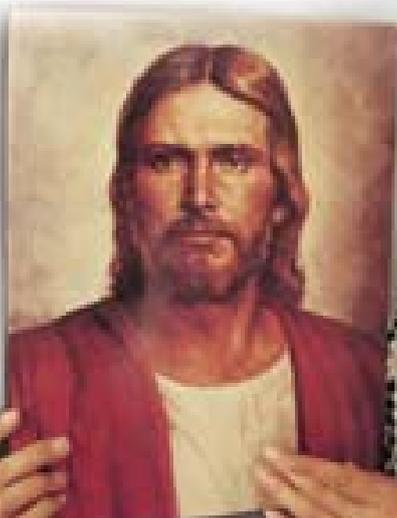
さて、ここで話し合いを中断して、私見を述べさせていただきます。ある教師が、大会でメルル兄弟が話した言葉を引用しようと思い、こう言います。「さあ、資料室へ行って、ビデオを捜し、それを使って、クラスでメルル兄弟が話す姿を見せよう。」

皆さんがそうすることは、一向にかまいません。ときには、それもよいでしょう。ただし、視聴覚資料はあくまで補助教材です。レッスンの代わりをするものではありません。料理でスパイスを使うのと同じように、視聴覚資料を使ってください。スパイスは味を良くし、引き立て、

豊かにするものです。地図や絵、ビデオや黒板にはる重要事項のカードなどは、レッスンを引き立てることができます。でも、スパイスだけを食べる人はいませんよね。皆さんに切にお願いしたいことは、視聴覚資料を使いすぎないことです。視聴覚資料は教師、あるいはテキストの代わりをするものでも、主の御霊の代わりをするものでもありません。必要なときにだけ、使ってください。

**和田姉妹**——初等協会にはほんとうに困った子供がいますが、子供は主の御霊が宿る純白な衣をまとった、神の霊の子供であると想像するようにしています。肝心なことは、わたしたちは皆、神の子供だということです。子供は、身体は小さくても、知性を持ち、何かを学ぶために地上へ来たのです。地上にいる理由があるのです。そう考えると楽になります。

**皆さんに切にお願いしたいことは、  
視聴覚資料を使いすぎないことです。  
必要なときにだけ、使ってください。**



「わたしもかつて、早朝セミナーに通っていました。今感じるの、セミナーの教師がわたしたちを教える責任を引き受け

てくれていた、ということです。彼は、自分が伝えようとしているメッセージをわたしたちが受け入れていると信じていました。パジャマ姿でセミナーに到着したときもありました。だれかが枕と毛布を持ち込んだときもありました。教師のレッスンを聞きながら、女の子たちがマニキュアを塗っていたときもありました。でも、わたしたちが耳を傾けていると信じてくれたセミナーの教師のおかげで祝福を受けました。わたしたちは教師をわたしたちの会話に引き入れたことはありませんでしたが、わたしが教師の話に注意を向けなかったり、耳を傾けなかったり、心を向けなかった日は、一日たりともありませんでした。

自分自身が教師となった今、思うのは、わたしたちが行う必要のあることをすべて行い、自分の本分を果たし、その場に御霊があれば、生徒は耳を傾ける責任を引き受けると信じてよいということです。」

タム・スミス姉妹

**ホランド長老**——素晴らしい意見をありがとうございます。

**ハウエル兄弟**——教師が学び、生徒が教えることがある、ということをお聞きます。

**ホランド長老**——たいていの場合、教師は生徒よりも多くのことを学びます。それが、教える喜びの一つです。

### 証する

では、まとめましょう。項目5は、「証する」という一言です。

教会や家庭で教師は、レッスンをまとめるために証をしなくてはなりません。ここでも、最後に証をさせていただきます。

長いこと忘れられない話があります。パッカー会長が何度も引用した話です。ウィリアム・E・ベレット兄弟が少年時代に出会った日曜学校の教師の話です。騒々しい少年たちのクラスを教えるために、年配のデンマーク人の兄弟が召されました。彼が召されたのは意外でした。言葉はよく話せません。かなり強いデンマークなまりの英語でした。農夫特有の大きな手をした年配の兄弟が、15歳の荒々しい少年たちを教えるのです。どの点から見ても、適任とは思えませんでした。しかし、パッカー会長から聞いた言葉ですが、ウィリアム・E・ベレット兄弟はよく次のように言っていたそうです。「この男性はあらゆる障害や限界を乗り越え、暴れ者の15歳の少年たちの心を動かし、彼らの生活を変えたのです」と。そして、ベレット兄弟はこう証しました。「その教師は信仰の火でわたしたちの冷たい手を温めてくれました。」

生徒は皆、そのような経験をする

のに値します。視聴覚資料を使いこなした巧みなレッスンをする必要はありません。(わたしたちは、視聴覚教材の使い方は知っていても、上手に使うことができないかもしれません。)けれども、大事なことは、信仰の火をすべての生徒に分け与え、信仰の火で彼らの手を温めてあげることです。

わたしは長い間、失望の痛みを感じてきました。忠実で有能な教師たちが、素晴らしいレッスンをしています。レッスンの最後に、「時間が来ました。ジョーンズ兄弟、閉会の祈りをしてください」と言い、それだけで終わるのです。テキストを閉じ、しばらく生徒の目を見つめ、「わたしたちはどこから来て、どこへ行くのでしょうか」とか、「主は何をしようとしていられるのでしょうか」という質問をすることもありません。わたしは少し不公平で、偏った考え方をしているのかもしれませんが、レッスンが生徒にとって、または教師にとってどのような意味があるのかについて、一言も触れない教師がいるのです。そういう教師はクラスを出るときに、「このレッスンを生徒はどう思い、どう感じたのだろうか。生徒にとって、自分にとって、このレッスンはどのような意味があったのだろうか」と自問することもありません。教義や原則を調べ、地図やビデオを用意することに一生懸命努力はしますが、その教義や原則が、生徒を導き、ともに歩むべき教師にとって、どのような意味を持つかについて、個人的な証をすることはないので。

J・ルーベン・クラーク・ジュニア 管長がかつて述べたように、「自らの信仰を分かりにくい言葉で伝えるの

は絶対に避けましょう。」繰り返します。「自らの信仰を分かりにくい言葉で伝えるのは絶対に避けましょう。」疑いの種をまいてはいけません。利己的な行動や虚栄心を遠ざけてください。教師がいかに優秀であるかを見せつけようとししないでください。そうではなく、福音がいかに輝かしいものであるかを印象づけてください。失われた部族や3人のニーファイ人がどこにいるかというようなことに思い悩まないでください。それよりも生徒がどこにいるか、生徒の心の内や精神の状態について、心の飢えや失望の淵にいる人々の必要について、もっと心配してください。教え、何よりも証をしてください。愛してください。心からの証を述べてください。証はレッスンの時間の中で最も重要なものです。だれかの霊を救うかもしれないのです。

「心を込めて語って」ください(アルマ5:43)。わたしはこの言葉が好きです。わたしは心を込めて証したいと思います。アルマが尋ねたことを会衆に尋ねてもよいでしょう。「あなたがたは、わたしが自分でこれらのことについて知っていることに気づかないのか。……わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている。……何事もすべて真実であると、わたしは自分で知っている。」(アルマ5:45, 48)

わたしは、神が生きておられ、わたしたちを愛しておられることを知っています。イエスがキリストであり、生ける神の御子であり、世の救い主、贖い主であることを知っています。これは主の教会であり、教えることは重要だということを知っています。

もしわたしたちがここで言われた



ように教えるなら、天の助けがあることを知っています。ここで言われたことはすべてではなく、始まりにすぎません。教える賜物の探求を始めてください。わたしたちがその賜物を祈り求め、霊の門をたたくなら、聖典から教え、聖霊により、聖霊とともに教えるなら、生徒が学ぶ責任を引き受けられるよう助けるなら、そして、教えたことが真実であると証するなら、神はイエス・キリストの福音のメッセージに対する確信を教師と生徒の心に植え付けてくださるでしょう。

世界中の兄弟姉妹の皆さん、イエス・キリストの福音はわたしにとってすべてです。人生で最も大事なものです。わたしの希望であり避け所であり、救いのために探求しているものです。子供や孫たちのために望んでいる最も大事なものです。

わたしが福音を学んできたのは、皆さんのおかげです。皆さんのよう

な人々がわたしのような者を教えてくれたからです。初等協会、家庭の夕べ、執事定員会、伝道部、そのほかあらゆる場所で教えてくれたのです。わたしはまだ、自分になりたい者、なるべき者になってはいません。しかし、わたしの成長は立派な教師のおかげです。愛する両親や、わたしの生活を変えた善良な人々をはじめ、現在わたしが加わっている評議会や定員会の人々のおかげです。大管長会や十二使徒定員会会員、その他の中央幹部、そして皆さんのようなすばらしい補助組織の指導者から教えを受けることができたからです。

愛について証します。神はわたしたちを愛しておられます。わたしは皆さんを愛しているので、それが分かります。わたしは教えることが好きです。わたしたちが教える力をいっそう向上させられるよう祈っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

### 教える賜物<sup>たまもの</sup>

1. 霊的な意味で、門をたたき、尋ね、求める。
2. 聖文から教える。
3. 御霊<sup>みたま</sup>によって、御霊とともに教える。
4. 生徒が学ぶ責任を引き受けられるよう助ける。
5. 証<sup>あかし</sup>する。

# 偉大な教師の模範

トーマス・S・モンソン 管長  
大管長会第一顧問



**わ** たしたちは今日、教会の優れた教師たち数人から、良い教え方に含まれるたくさん  
の要素や原則に関するすばらしい洞察を分かち合ってもらいました。

今日の集会の中ですでに触れられましたが、わたしたちは皆何らかの点で教師であり、最善を尽くして教える義務があります。

わたしは今日、わたしの人生を祝福し、大切な、忘れることのできない教えを残してくれた数人の教師の模範を紹介します。

## 一人一人に物語がある

その中の一人は、名誉中央幹部で

あるマリオン・D・ハンクス長老です。ハンクス長老は、セミナリー、インスティテュート、そして教会のあらゆる分野で、様々な教授法を駆使して教えてきました。

あるとき、ハンクス長老はある伝道部を視察し、その地域で奉仕している宣教師一人一人を面接しました。わたしはたまたま隣の地域の責任を受けていたので、帰りに空港まで、ハンクス長老と伝道部会長が乗る車に同乗させてもらいました。

ハンクス長老はその伝道部会長に、一人一人の宣教師たちと面接できたことを大変光栄に思うと述べ、それからある姉妹宣教師との面接中に御霊に促されてこう尋ねたと言いました。「あなたの伝道の経験について話してください。姉妹宣教師に召されてどのように感じていますか。」

その姉妹宣教師は、農業を営む謙遜な父親について話し始めました。彼女の父親は、主と主の王国のために多くのものを進んで犠牲にしていました。すでに二人の息子の伝道資金を援助していた父親は、ある日、この姉妹宣教師が心に秘めていた願い、自分も伝道に出たいという願いについて話し始めました。そして、主が彼女の伝道資金も用意してくださったと言うのです。

父親は主と話すために畑に出て行きました。そして主にこう言ったのです。「もうわたしには売れるものはありません。二束三文で売り払えるものも、質に入れるものもありません。」どうすれば娘が伝道に出られるか知りたかった父親の心に、「タマネギを植えなさい」という言葉が浮かびました。そんなはずはありません。その地の気候ではタマネギは育つはずはないのです。だれもタマネギなど植えませんし、父親にもそのような経験はありませんでした。

しばらく主と問答した後で、父親の心にまた同じ言葉が浮かびました。「タマネギを植えなさい。」そこで父親は銀行でお金を借り、種を買い、植え付け、世話をし、祈りました。

気候が和らぎ、タマネギは大豊作になりました。父親はタマネギを売って、借金を銀行と政府に返済しました。もちろん主にもお返ししました。それから残ったお金を娘名義の口座に預けました。彼女が伝道に出るのに十分なお金です。

ハンクス長老は伝道部会長に言いました。「わたしは、この物語と、あの面

モンソン管長のお話の中に出てくるエピソードを読むと、学ぶことや教えることについて、どのような思いが浮かんでくるでしょうか。学ぶ者、あるいは教える者として、あなたも同じような経験をしたことがあるでしょうか。

モンソン管長が紹介した一つ一つのエピソードは、救い主の教え方をどのように反映しているでしょうか。救い主の模範に従うために何をすることができるか、祈り、熟考してください。





**パーティーのための大切なお金を入れた白い封筒が、教師のきゃしゃな手から、悲しみに沈む貧しい父親の手に渡されました。**

接のひとつとき、彼女の涙と、彼女の喜びの声と、彼女があの手を言ったときに感じた気持ちを忘れません。こう言ったのです。『ハンクス兄弟、わたしに必要なことを御存じであり、わたしの謙遜さに応じて御心のまに助けてくださる天の御父を信じることは、わたしにとって全然難しいことはありません。』

ハンクス長老から大切な教えを受けました。すなわち、どのクラスの子にも、どの若い男性、女性にも、セミナー、インスティテュートのどの生徒にも、福音の教義クラスのどの成人にも、どの宣教師にも——そうです、わたしたち一人一人に——語るべき物語があるということです。ですから、耳を傾けるということは、わたしたちが教え、学ぶに際して、欠かせない要素なのです。

**「受けるよりは与えるほうが、さいわいである」**

幼かったころ、わたしたちの言葉に

よく耳を傾け、愛を示してくれた非常に優れた教師がいて、わたしは彼女から大きな影響を受けました。その教師の名は、ルーシー・ガーシュ姉妹です。日曜学校の時間に、ガーシュ姉妹は世界の創造や、アダムあがなの墮落、イエスの贖いの犠牲などについて教えてくれました。ガーシュ姉妹は、モーセやヨシュア、ペテロ、トマス、パウロ、そしてもちろんキリストをゲストとして教室に招きました。その姿は見えませんでした。わたしたちは彼らを愛し、称賛するようになりました。彼らの模範に熱心に従うようになりました。

ある日曜の朝、最も力強い、永遠に忘れられないレッスンを受けました。彼女は悲しげに、クラスの一人の子供の母親が亡くなったと告げました。その日、なぜビリーが教会に来ていなかったのか子供たちはまだだれも知りませんでした。

その日のレッスンのテーマは「受けるよりは与えるほうが、さいわいである」でした(使徒20:35)。クラスの途

中で教師はテキストを閉じ、子供たちの目と耳と心を、神の栄光に向けさせました。こう言ったのです。「クラスパーティーのためのお金は幾らたったかしら。」

「4ドル75セントです。」大恐慌時代にこれだけためたことを子供たちは誇りに思っていました。

それから教師は非常に優しい声で言いました。「ビリーの家はお金に困っているし、悲しい出来事があったわ。今朝、みんなでビリーの家に行って、みんながためたこのお金を上げるとしたら、どう思う?」

みんなで教会から3街区歩いて行ったときのことをわたしは生涯忘れません。ビリーの家に入り、ビリーと弟と妹たちと父親にあいさつしました。母親がいないのが際立っていました。パーティーのための大切なお金を入れた白い封筒が、教師のきゃしゃな手から、悲しみに沈む貧しい父親の手に渡されたときに皆の目に光った涙を、わたしは決して忘れないでしょう。

わたしたちはスキップしながら教会に戻りました。あれほど心が晴れ晴れしたことはありません。喜びに満ち、理解が深まりました。神に導かれた教師が少年少女に永遠の真理を教えた

のです。「受けるよりは与えるほうが、さいわいである。」

エマオへ行く途中の弟子たちの言葉をこう言い換えても差し支えないほどでした。「〔彼女が〕聖書を説き明<sup>あか</sup>したださったとき、お互<sup>たがひ</sup>の心が内に燃えたではないか。」(ルカ24:32)

ガーシュ姉妹は生徒一人一人をよく知っていました。彼女は日曜日に教会を休んだ子や、いつも来ていない子を絶えず訪問しました。皆、自分のことを気にかけてもらっていると感じていました。わたしたちのだれ一人として、彼女と彼女のレッスンを、いつまでも忘れないでしょう。

長い年月が過ぎ、ガーシュ姉妹の人生が終わりに近づいていたある日、わたしは彼女に会いに行きました。遠い昔に、彼女がわたしたちの教師だったころの思い出話をしました。わたしたちは、生徒一人一人について、そして、皆が今どうしているかについて話しました。彼女は全生涯を通じて愛と関心を失いませんでした。

## 信仰箇条

わたしに影響を与えたもう一人の教師は、ステーキ初等協会管理会のエルマ・ボルウィンケル姉妹です。彼女は信仰箇条を覚えることの大切さをいつも強調していました。実際、彼女の前で全部暗唱しなければ初等協会を卒業できなかったのです。やんちゃな少年たちには高いハードルでしたが、皆粘り強く努力しましたし、実際に暗唱しました。わたしがこれまでの生涯を通じて信仰箇条をいつでも暗唱することができたのは、子供のころのこのような経験のおかげなのです。

わたしは十二使徒定員会の一員として、長年にわたって東ドイツ、つまり当時のドイツ民主共和国を担当していま

した。この割り当てを果たす際に、信仰箇条を覚えていることが非常に役に立ちました。この地域を担当した20年間を通じて、訪問する度にいつも会員たちとともに信仰箇条第12条を復習しました。「わたしたちは、王、大統領、統治者、長官に従うべきこと、法律を守り、尊び、支えるべきことを信じる。」

当時、鉄のカーテンの向こうで集会を行うときには、常に共産主義政府に監視されていました。1980年代前半に、教会は東ドイツ政府高官に神殿を建設する許可を申請しました。その後、東ドイツの若い男女が国外で伝道することと、他国の若い男女が東ドイツで伝道することについても許可を願い出しました。わたしたちの話を聞いてから、彼らはこう言いました。「モンソン長老、わたしたちはあなたを20年間見てきて、あなたとあなたの教会は信頼できるということが分かりました。なぜなら、あなたと教会が祖国の法律を守るようにと会員に教えているからです。」

信仰箇条を覚えることの大切さについて、もう一つの例を紹介しましょう。45年前、ソルトレーク・シティーの印刷業界で、シャーマン・ハメルという男性と仕事をしました。ある日職場から車で彼を送り届ける途中、福音の証<sup>あかし</sup>をどのようにして得たのか尋ねました。

彼は言いました。「おもしろいね、トム、君が今そのことを聞くなんて。実は今週、妻と子供たちと一緒にマントイ神殿に行って、永遠に結び固められるんだ。」

彼は続けました。「昔、東部に住んでいたころ、バスでサンフランシスコまで行ったことがあるんだ。サンフランシスコで出版会社を設立して、妻と子供たちを呼び寄せようと思っていたんだ。ニューヨーク市からソルトレーク・シティーまでは、印象に残るような

出来事は何もなかったよ。でもソルトレーク・シティーに入ると、初等協会の年齢の小さな女の子がバスに乗って来てね、わたしの隣に座ったんだ。その子は、ネバダ州のレノに住んでいるおばさんに会いに行くところだったんだよ。西に向かって移動している途中、バスの窓から『今週モルモン教会の日曜学校にお越しください』という大きな看板が目に入ったんだ。

そして、わたしは少女にこう聞いてみたんだよ。『ユタ州にはモルモン教徒がたくさんいるみたいだね。』

そしたら少女は『はい、そうです』と答えたんだ。

それで、こう聞いたんだよ。『君もモルモン教徒なのかい。』

そしたら、また『はい、そうです』と答えたんだ。」

そこで、シャーマン・ハメル兄弟は、こう聞きました。「モルモン教徒は何を信じているのかな？」すると、その少女は信仰箇条第1条を暗唱して、そのことについて説明しました。それから、信仰箇条第2条を暗唱して、説明しました。それから第3条、第4条、第5条、第6条、ついに、すべての信仰箇条を暗唱し、全部説明したのです。少女は信仰箇条を順番に覚えていたのです。

シャーマン・ハメル兄弟はわたしにこう言いました。「レノに着き、少女がおばさんの腕に抱かれるのを見たとき、とても感銘を受けたよ。」

彼は言いました。「サンフランシスコへ行く途中、ずっと考えていたよ。『なぜあの少女は教会の教義をあれほどよく知っていたんだらう』とね。」シャーマンは言いました。「サンフランシスコに着いたら、まず最初に電話帳で末日聖徒イエス・キリスト教会を探したよ。伝道部長に電話すると、滞在先に二人の宣教師をよこしてくれた

んだ。それからわたしが改宗し、妻が改宗し、子供たちみんなも改宗したんだ。そうなった理由の一つは、初等協会の一人の少女が信仰箇条を覚えていたことなんだ。」

使徒パウロの言葉を思い出します。「わたしは福音を恥としない。それは、……救<sup>すくい</sup>を得させる神の力である。」(ローマ1:16)

3か月前、シャーマンの娘マリアンの結婚のため、ハメル家族はソルトレーク神殿に集まりました。彼らはわたしの執務室にも立ち寄ってくれ、わたしたちは親しく語り合いました。6人の娘全員と、4人の婿と、12人の孫が勢ぞろいしました。シャーマンの家族は全員ずっと教会に活発に集っていました。娘たちは全員すでに神殿に参入していました。シャーマンの家族を通して福音を知った人々は数え切れなほいほいます。それもこれも皆、一人の幼い子供が信仰箇条を教わっていたことと、福音の光を求めている人に真理を宣言する能力と勇気がその子の中にあつたからなのです。

### いつも用意しておきなさい

教義と聖約第88章の中にある次の主の訓戒が好きです。「また、あなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。」(教義と聖約88:77-78)

何前も前、教会の責任でカリフォルニア南部に飛行機で移動していたときに、隣の空席に若い女性が座りました。彼女は本を読み始めました。好奇心から本のタイトルを見ると、『不思議な驚くべきわざ』でした。

わたしは言いました。「あなたはモ

ルモンですね。」

彼女はこう返答しました。「いいえ、なぜそうおっしゃるんですか。」

わたしは答えました。「すみません。あなたが読んでいらっしゃる本が、末日聖徒イエス・キリスト教会の著名な会員が書いたものだったので。」

彼女は答えました。「そうだったのですか？ この本は友達からもらったのですが、そうとは知りませんでした。でも、とても興味深い本です。」

わたしは自問しました。「教会についてももう少し話したほうがいらいだろうか。」すると使徒ペテロの言葉が思い浮かびました。「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。」(1ペテロ3:15)そして、これは証を述べるべき機会だと自分に言い聞かせたのです。

わたしは、ずいぶん前にリチャーズ長老から依頼を受けて『不思議な驚くべきわざ』の出版に携われたことは、わたしにとってとても光栄なことだったと話しました。そして、偉大なリチャーズ長老について少し話し、何千人もの人々が長老の著作を読んで、真理に従う決意をしたことを話しました。

それからロサンゼルスに着くまでの間、教会に関する彼女の質問に答えるという特権にあずかりました。その質問から、彼女が聡明で、心から真理を求めていることが分かりました。わたしは彼女に、二人の姉妹宣教師が訪問するように取り計らってもよいか尋ねました。そして、サンフランシスコの彼女の家の近くにある支部に出席してみたいかと尋ねました。彼女はどちらの問いにも「はい」と答えました。

帰宅するとすぐに、サンフランシスコステーキのアービン・G・デリック会長に手紙を書いて、彼女のことを伝え

ました。数か月後、デリック会長からうれしい電話を受けたときのわたしの喜びを皆さん想像できるでしょうか。「モンソン長老、イボンヌ・ラミレスのことでお電話しました。彼女はロサンゼルス行きの飛行機で長老の隣に座った、非番の客室添乗員です。モンソン長老が、隣の席で『不思議な驚くべきわざ』を読んでいたのは偶然ではないとおっしゃった、あの女性のことです。モンソン兄弟、彼女はたった今、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になりました。今あなたに感謝を伝えたいそうです。」もちろんわたしは大喜びしました。そればすばらしい電話でした。

### マッケイ大管長の模範

デビッド・O・マッケイ大管長は、熟達した教師の一人です。わたしはマッケイ大管長から十二使徒定員会の会員に召されました。マッケイ大管長は、愛と思いやりをもって教えました。教えたことを実践する人でした。その心は優しく、その振る舞いは上品でした。マッケイ大管長は、救い主の模範に従った真理の教師でした。

わたしは中央幹部に召されるずっと前に、マッケイ大管長のその特質を目の当たりにしました。あるとき、出版物の最終確認をもらうために大管長の執務室を訪れました。そのとき壁の絵が目に入り、こう言ったのです。「マッケイ大管長、すばらしい絵ですね。大管長がお生まれになったユタ州ハンツビルのお宅の絵ですか。」

大管長はいすに背をもたせかけ、デビッド・O・マッケイ特有のいつもの笑顔で言いました。「この絵について話してあげよう。ある秋の日に親切なご婦人が訪ねて来て、この美しい絵を下さったんだよ。きちんと額に入れてあって、いつでも壁にかけられる状態になって



**お使いから帰った後の日曜日の夕食は、いつもおいしく感じました。**

いたんだ。そしてこう言ったんだ。『マッケイ大管長、わたしはこの夏かなりの時間を使って、大管長がお生まれになった家を描いていたんですよ。』マッケイ大管長は贈り物を受け取り、女性に深く感謝を伝えたそうです。

それから、わたしにこう言いました。「モンソン兄弟、その愛すべき女性が描いたのはわたしの生まれた家じゃなかったんだよ。それは隣の家なんだ！でも、あなたが描いた家は違う家ですなんて言う気には、とてもなれなかったんだよ。」

それから、大管長はこう言ったのです。そして、そこにわたしたち全員への教訓が含まれているのです。大管長はこう言いました。「モンソン兄弟、でも、わたしにとっては、この家でよかったんだよ。幼いころ、わたしは、玄関のポーチに置いてあったベッドでよく寝ていてね、ポーチの網戸からの眺めが、ちょうど彼女の描いてくれた家なんだよ。だから、彼女が描いてくれた家は、わたしにとっては間違った家じゃないんだ。」

### 人に仕えることに関する教え

人生で得られる最高の教えの幾つかは、両親から受けます。わたしは子供のころに両親から価値ある教えを受けました。たいていは、人に仕えることに関連していました。少年時代の思い出はたくさんあります。日曜の夕食を今か今かと待っていたときの思い出もその一つです。わたしたちがおなかをすかせてテーブルに着き、ローストビーフのにおいをかきながら待っていると、母がわたしによくこう言ったものです。「トミー、わたしたちが食べる前に、近所のボブおじいさんにあげる分を持って行って、すぐに帰って来てちょうだい。」

まず家族で食事をしてから、その後で近所のおじいさんの分を持って行ってあげてもいいのではないかと、ずっと不思議に思っていました。でもそのことは口にせず、わたしはいつもおじいさんの家まで走って行き、ゆっくりとした足取りのボブおじいさんが現れるのを玄関先でじりじりしながら待ち、それから食事を手渡すのでした。おじいさ

んはいつも先週の日曜日のお皿をピカピカにして返し、わたしの奉仕に対して10セントを差し出しました。

わたしはいつもこう言いました。「お金なんか頂けません。そんなことをしたら、母にお仕置きされます。」

するとボブおじいさんは、しわしわの手でわたしの頭をなでながら言うのです。「ほうやの立派なお母さんに、ありがとうと言っておくれ。」

お使いから帰った後の日曜日の夕食は、いつもおいしく感じたのをよく覚えています。

母の父親であり、わたしの祖父であるトーマス・コンディーも大切な教訓を残してくれました。このときもまた、あのボブおじいさんが登場します。ボブおじいさんとわたしたち家族が親しくなるまでに、興味深いいきさつがありました。

ボブおじいさんはすでに80歳を超えていて、奥さんは亡くなっていました。そんな彼が一部屋借りて住んでいた家が取り壊されるというのです。ボブおじいさんは自分の置かれた窮状について、わたしの祖父に話しました。わたしは祖父の隣でそれを聞いていました。わたしたち3人は、祖父の家の玄関先の古いブランコに座っていました。ボブおじいさんは、悲しげな声



それから祖父はポケットに手をいれ、<sup>かぎ</sup>鍵を取り外してボブおじいさんに手渡しました。

で祖父に言いました。「コンディーさん、どうしたらいいでしょう。わたしには身寄りもないし、行く当ても、お金もありません。」わたしは、祖父は一体何と答えるだろうかと考えました。

わたしたち3人はしばらくブランコに揺られていました。それから祖父はポケットに手をいれ、使い古した革の財布を取り出しました。いつもは、おやつをせがむわたしのために、そこからたくさん小銭が出てきました。でもそのとき祖父は、財布から<sup>かぎ</sup>鍵を取り外してボブおじいさんに手渡しました。

そして思いやりを込めて、こう言ったのです。「ボブ、わたしの隣の家の鍵だ。あそこも、わたしが所有している。この鍵を持って、そこに家財道具を移して、好きなだけ住んでくれ。家賃はいらないし、だれも君を追い出したりはしないよ。」

ボブおじいさんの目に涙があふれ、<sup>ほお</sup>頬を伝って、長く白いひげの中に消えて行きました。祖父の目も潤んでいました。わたしは口を開きませんでした。でもその日、祖父が大きく見えました。わたしの名前が祖父の名を取って付けられたことを誇らしく思いました。あのころはまだ幼い子供でしたが、わ

たしはあのとときの教えから生涯力強い影響を受けてきました。

今述べてきたのは、わたしの人生を祝福し、教訓を与えてくれた教えのごごく一部です。

もう一度言いますが、わたしたちは皆教師です。わたしたちは、言葉を通してだけでなく、人格や生き方を通しても教えていることをいつも覚えておきましょう。

### 完全な模範

人を教えるとき、完全な教師であられるわたしたちの主なる救い主イエス・キリストの模範に従いましょう。主は海辺の砂の上には足跡を残されましたが、教えを聞いたすべての人の心と生活の中には、教え方の原則を残して行かれました。主は、当時の弟子たちに教えられました。そして現代のわたしたちにも同じ言葉を語っておられます。「あなたは、わたしに従ってきなさい。」(ヨハネ21:22)

わたしたちが従順に応じる心をもって前進することができますように。そして、「神からこられた教師」(ヨハネ3:2)という贖い主のことを表した言葉が、わたしたち一人一人を表す言葉となりますように。イエス・キリストの御名によりお祈りします、アーメン。■

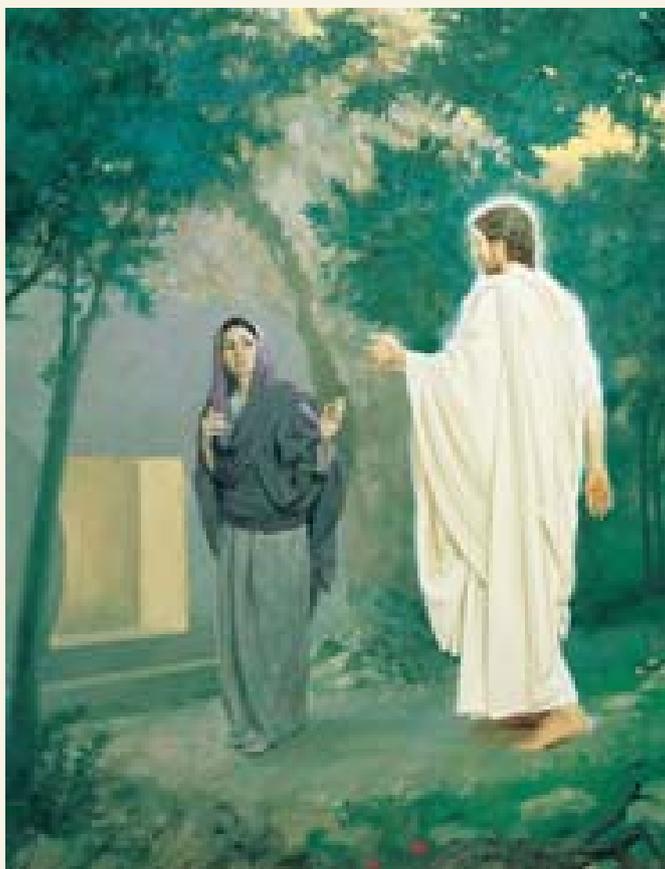




複製は禁じられます。

### 「女預言者アンナ」エルズベス・ヤング画

アセル族の女預言者でやもめだったアンナは、キリストが誕生されたとき84歳になっていた。  
彼女は「宮を離れずに夜も昼も断食と祈をもつて神に仕えていた。」(ルカ2:37)  
両親とともに神殿にもうでた幼子イエスを迎えたのはこのアンナだった。



**復** 活した救い主が最初に御姿をお見せになった  
マгдаラのマリヤをはじめ(上),  
新約聖書には救い主を知り、そして従った  
多くの女性が登場します。

「まず涙でイエスの足をぬらし、  
自分の髪の毛でぬぐ〔った〕女(表紙)もその一人です。  
この女性について救い主は、「この女は多く愛したから、  
その多くの罪はゆるされているのである」(ルカ7:38, 47)  
と言われました。

「この女は多く愛したから——  
新約聖書の女性たち」26ページ参照